

# 平成30年度大気常時監視測定局測定結果

倉敷市環境監視センター

## はじめに

倉敷市は、風光明媚な瀬戸内海と緩やかな丘陵に囲まれた地形をなし、自然に恵まれた環境にあります。

昭和30年代、国内の高度経済成長の時代背景を受け、国や岡山県をあげての重化学工業コンビナート構想が高梁川臨海河口部に遠浅の地形が形成されていた水島地区を中心に展開しました。

しかしながら、良好な生活環境が当然であった当時は、環境汚染に対する関心が低く、豊かさの象徴に見えた重化学コンビナートが公害という問題を背面に抱えていることの大きさを軽視しがちで、水島地域も例外ではありませんでした。昭和40年代に大工業地帯となった水島の臨海地域は、まさに公害問題最盛期に入りました。日々発生する公害諸問題に対応・対処すべく、倉敷市では工業地帯起因の公害を監視する拠点として昭和45年に「倉敷市公害監視センター」を設置しました。

時代が進み、生活スタイルの変化に伴い、公害も産業型から都市・生活型へと変遷することとなり、公害監視センターも平成9年度から「倉敷市環境監視センター」に名称変更して、多様化する環境汚染物質の実態把握に努めています。

昭和44年に大気汚染防止法の政令市として指定された倉敷市では、同法の規定と趣旨に基づき、大気汚染物質を常時監視する必要がある、その監視業務は、現在に至るまで環境監視センターの主要業務の一つとして位置付けられています。

本報告書は、昭和41年度から継続している大気汚染常時監視測定の結果を概略的にまとめ、平成30年度の測定結果の経月比較及び過去10年間の測定結果の経年比較をすることにより、今後の大気環境政策及び公害対策並びに市民の環境保全意識の向上に寄与することを期待するものです。

# 目次

1	大気常時監視測定の概要	1
	(1) 大気汚染状況に関する環境基準	
	(2) 環境基準等に関する評価方法	
	ア 短期的評価方法	
	イ 長期的評価方法	
	ウ 指針値に対する評価方法	
	エ 評価の対象としない測定値等	
	(3) 測定局と常時監視測定項目	
2	大気常時監視測定結果の概要	6
	(1) 二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	
	(2) 二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	
	(3) 一酸化炭素 (CO)	
	(4) 光化学オキシダント (O <sub>x</sub> )	
	(5) 浮遊粒子状物質 (SPM)	
	(6) 微小粒子状物質 (PM <sub>2.5</sub> )	
3	項目別測定結果	22
	(1) 一般環境大気測定局	
	ア 二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	
	イ 窒素酸化物 (NO <sub>x</sub> )	
	(ア) 二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	
	(イ) 一酸化窒素 (NO)	
	ウ 一酸化炭素 (CO)	
	エ 光化学オキシダント (O <sub>x</sub> )	
	オ 浮遊粒子状物質 (SPM)	
	カ 非メタン炭化水素 (NMHC)	
	キ 微小粒子状物質 (PM <sub>2.5</sub> )	
	(2) 自動車排出ガス測定局	
	ア 窒素酸化物 (NO <sub>x</sub> )	
	(ア) 二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	
	(イ) 一酸化窒素 (NO)	
	イ 一酸化炭素 (CO)	
	ウ 浮遊粒子状物質 (SPM)	
	エ 非メタン炭化水素 (NMHC)	
	オ 微小粒子状物質 (PM <sub>2.5</sub> )	

- (1) 環環境基準達成状況
- (2) 一般環境測定局
  - ア 経年測定データ(平成21年度～平成30年度)
  - イ 経月測定データ
  - ウ 二酸化硫黄濃度の経年変化(年平均値)
  - エ 二酸化硫黄濃度の経月変化(月平均値)
  - オ 二酸化窒素濃度の経年変化(年平均値)
  - カ 二酸化窒素濃度の経月変化(月平均値)
  - キ 一酸化窒素濃度の経年変化(年平均値)
  - ク 一酸化窒素濃度の経月変化(月平均値)
  - ケ オキシダント濃度の1時間値が0.06ppmを超えた時間数の経年変化
  - コ オキシダント濃度の1時間値が0.06ppmを超えた時間数の経月変化
  - サ 浮遊粒子状物質濃度の経年変化(年平均値)
  - シ 浮遊粒子状物質濃度の経月変化(月平均値)
  - ス 微小粒子状物質濃度の経年変化(年平均値)
  - セ 微小粒子状物質濃度の経月変化(月平均値)
- (3) 自動車排出ガス測定局
  - ア 経年測定データ(平成21年度～平成30年度)
  - イ 経月測定データ
  - ウ 二酸化窒素濃度の経年変化(年平均値)
  - エ 二酸化窒素濃度の経月変化(月平均値)
  - オ 二酸化窒素濃度の日平均値が0.04ppm以上となった日数の経年変化
  - カ 二酸化窒素濃度の日平均値が0.04ppm以上となった日数の経月変化
  - キ 一酸化窒素濃度の経年変化(年平均値)
  - ク 一酸化窒素濃度の経月変化(月平均値)
  - ケ 一酸化炭素濃度の経年変化
  - コ 一酸化炭素濃度の経月変化
  - サ 浮遊粒子状物質濃度の経年変化(年平均値)
  - シ 浮遊粒子状物質濃度の経月変化(月平均値)
  - ス 浮遊粒子状物質濃度の日平均値が0.1mg/m<sup>3</sup>を超えた日数の経年変化
  - セ 微小粒子状物質濃度の経年変化(年平均値)
  - ソ 微小粒子状物質濃度の経月変化(月平均値)

## 1 大気常時監視測定の概要

倉敷市は、昭和44年に大気汚染防止法（昭和43年法律第97号）に基づく政令市に指定されており、同法の規定及び趣旨に基づき、人の健康保護及び生活環境保全を目的として、市域の大気汚染状況を常時監視している。

### (1) 大気汚染状況に関する環境基準

大気汚染に係る環境上の条件について、人の健康を保護し、生活環境を保全するための望ましい基準として、大気汚染状況に関する環境基準（以下「環境基準」という。）が定められている。各物質に関する環境基準は表 1-1 に示すとおりである。

表 1-1 大気汚染状況に関する環境基準（常時監視測定項目関係）

物質名称	環境上の条件
二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm 以下であり、かつ、1 時間値が 0.1ppm 以下であること。 (昭和48年 5 月 16 日付け環境庁告示第35号)
二酸化窒素 (NO <sub>2</sub> )	1 時間値の 1 日平均値が 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下であること。 (昭和53年 7 月 11 日付け環境庁告示第38号)
一酸化炭素 (CO)	1 時間値の 1 日平均値が 10ppm 以下であり、かつ、1 時間値の 8 時間平均値 <sup>(注1)</sup> が 20ppm 以下であること。 (昭和48年 5 月 8 日付け環境庁告示第25号)
光化学オキシダント (Ox)	1 時間値が 0.06ppm 以下であること <sup>(注2)</sup> 。 (昭和48年 5 月 8 日付け環境庁告示第25号)
浮遊粒子状物質 (SPM)	1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1 時間値が 0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。 (昭和48年 5 月 8 日付け環境庁告示第25号)
微小粒子状物質 (PM <sub>2.5</sub> )	1 年平均値が 15µg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1 日平均値が 35µg/m <sup>3</sup> 以下であること。 (平成21年 9 月 9 日付け環境省告示第33号)

(注1) 8時間平均値とは0～8時、8時～16時、16時～24時の1日3回の時間帯に区分され、連続する8時間の1時間値の平均を求めることをいう。

(注2) データの整理は昼間について行うものとし、この場合の昼間とは6時から20時までの1時間値とする。すなわち、5時から20時までの測定値となる。

## (2) 環境基準等に関する評価方法

環境基準による大気汚染の状況の評価については、次のとおり取り扱うこととされている。

### ア 短期的評価

二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質及び光化学オキシダントについて設定されている。測定を行った日についての1時間値の1日平均値若しくは8時間平均値又は各1時間値を環境基準と比較して評価を行う。

### イ 長期的評価

大気汚染に対する施策の効果等を的確に判断するなど、年間にわたる測定結果を長期的に観察したうえで評価を行う場合、測定時間、日における特殊事情が直接反映されること等から、長期的評価を行う。

長期的評価方法は、表1-2に示す5物質について設定されている。

表1-2 環境基準に対する長期的評価方法

物質名称	長期的評価方法
二酸化硫黄	年間にわたる1日平均値のうち、高い方から2%の範囲にあるものを除外して評価を行う。ただし、人の健康の保護を徹底する趣旨から、1日平均値につき環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、このような取扱いは行わない。
一酸化炭素	
浮遊粒子状物質	
二酸化窒素	年間にわたる1日平均値のうち、低い方から98%に相当するもので評価を行う。
微小粒子状物質	1年平均値を $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ と比較する。また、年間にわたる1日平均値のうち、低い方から98%に相当するものを $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ と比較する。

## ウ 指針値に対する評価

昭和51年8月13日付けで中央公害対策審議会から光化学オキシダント生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針について答申があり、環境大気中の非メタン炭化水素濃度レベルの指針が示されており、これに基づき評価を行う。

非メタン炭化水素に関する評価方法は、表1-3のとおりである。

表1-3 非メタン炭化水素指針値に対する評価方法

物質名称	評価方法
非メタン炭化水素	6時から9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値 <sup>(注1)</sup> は、0.20ppmCから0.31ppmCの範囲であることが望ましい。

(注1) 6時から9時までの3時間平均値とは、6時から9時までの1時間値<sup>(注2)</sup>3個、すなわち7時、8時、9時の3個の1時間値の算術平均をいう。この場合、当該時間帯の3個の1時間値のうち、1個でも欠測がある場合は3時間平均値も欠測とし、評価の対象としない。

(注2) 1時間値は、75%以上(1時間当たり6回の測定を行う測定機にあっては5回以上)の測定がなされた場合に限り有効とする。

## エ 評価の対象としない測定値等

アからウまでの各評価方法において、次の(ア)から(エ)までの要件のいずれかに該当する測定値等については、評価の対象としない。

(ア) 測定局が「都市計画法」の規定による工業専用地域、「港湾法」の規定による臨港地区、道路の車道部分その他埋立地、原野、火山地帯等通常住民の生活実態の考えられない地域、場所に設置されている場合の、当該測定局における測定値

(イ) 測定値が測定機に起因する等の理由により当該地域の大気汚染状況を正しく反映していないと認められる場合の、当該測定値

(ウ) 環境基準の1日平均値が1日20時間以上の測定時間を有する「有効測定日」に該当しない場合の、当該1日平均値

(エ) 環境基準の長期的評価のために必要とされる次のいずれかの要件を満たしていない場合の、当該測定局又は測定値

- ① 二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質及び二酸化窒素については年間測定時間が6,000時間以上の測定が行われた「有効測定局」であること
- ② 微小粒子状物質については「有効測定日」が年間250日以上であること

### (3) 測定局と常時監視測定項目

大気汚染状況を常時監視するための測定設備が設置されている施設を測定局という。

図1に、倉敷市内に配置している測定局の位置を示す。

平成30年度は、住宅地域等に設置している一般環境大気測定局21局と、道路沿道に設置している自動車排出ガス測定局3局で大気汚染状況の常時監視を行った。

表1-4-1及び表1-4-2に、各局における常時監視の測定項目を示す。

平成30年度は、二酸化硫黄を19局、窒素酸化物を20局、一酸化炭素を4局、光化学オキシダントを16局、浮遊粒子状物質を19局、微小粒子状物質を10局及び非メタン炭化水素を3局で測定した。

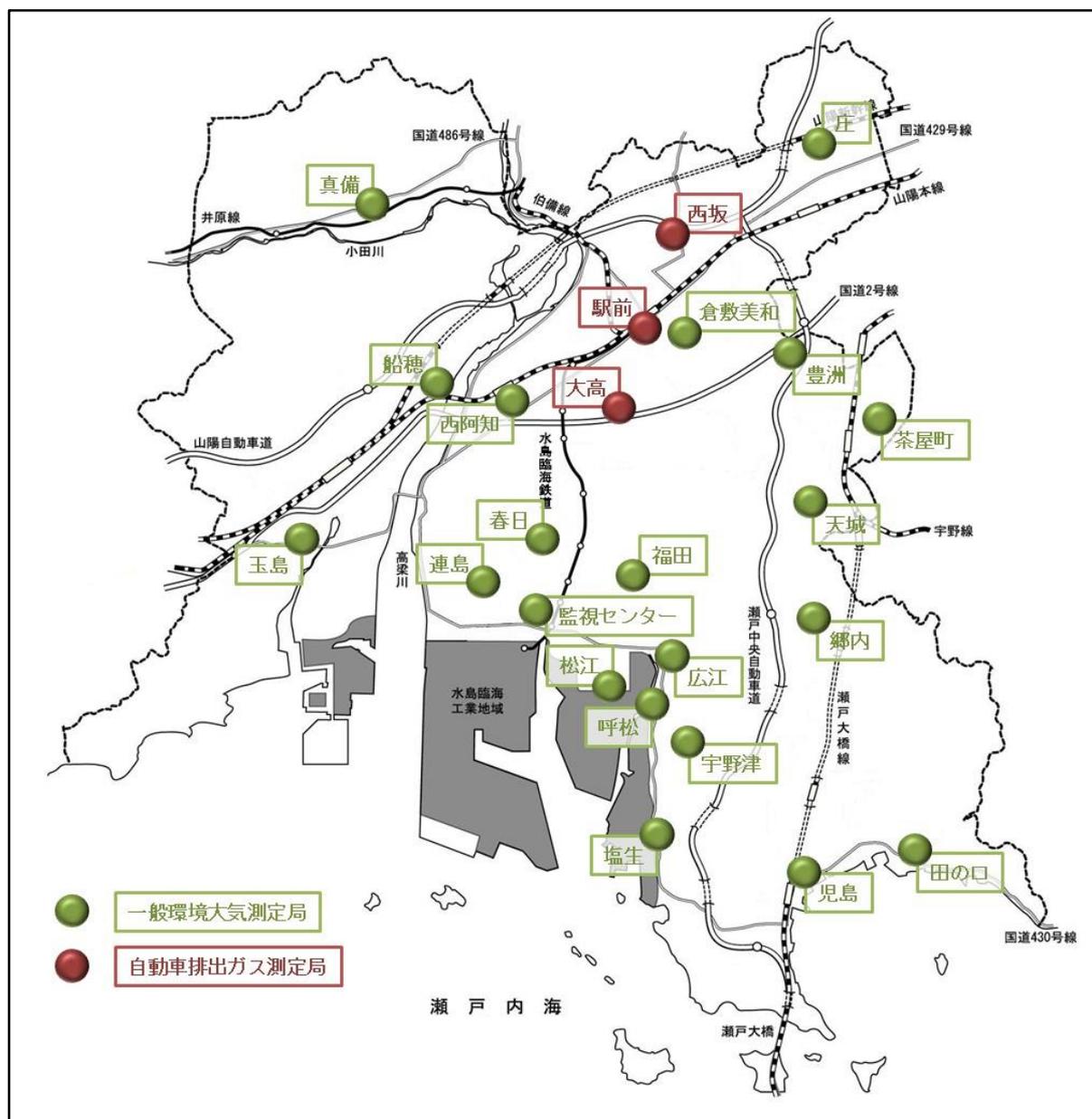


図1 測定局配置図

表 1-4-1 測定局別常時監視測定項目一覧

(平成30年度末現在)

局区分	局名	測定項目							
		SO <sub>2</sub>	NO <sub>x</sub>	CO	O <sub>x</sub>	SPM	PM2.5	HC	WD/WS
一般局	倉敷美和	○	○	○	○	○	○	○	○
	監視センター	○	○		○	○	○	○	○
	春日	○	○		○	○			○
	連島	○	○		○	○			○
	塩生	○	○		○	○	○		○
	松江	○	○		○	○	○		○
	福田	○	○		○	○			○
	西阿知	○	○		○	○			○
	玉島	○	○		○	○	○		○
	船穂	○	○		○	○			○
	真備		○		○		○		○
	児島	○	○		○	○	○		○
	郷内	○	○		○	○			○
	天城	○	○		○	○			○
	茶屋庄	○	○		○	○	○		○
	自排局	豊洲	○	○					
広江		○				○			○
呼松		○				○			
宇野		○							
田の口		○							
駅前			○	○				○	
大高		○	○		○	○		○	
西坂		○	○		○			○	

各項目の測定方法はそれぞれ以下のとおり。

二酸化硫黄 (SO <sub>2</sub> )	溶液導電率法
窒素酸化物 (NO <sub>x</sub> )	化学発光法
一酸化炭素 (CO)	非分散型赤外線吸収法
光化学オキシダント (O <sub>x</sub> )	紫外線吸収法
浮遊粒子状物質 (SPM)	ベータ線吸収法
微小粒子状物質 (PM2.5)	ベータ線吸収法
炭化水素 (HC)	ガスクロマトグラフ法

表 1-4-2 気象測定項目一覧

(平成30年度末現在)

局名	測定項目			
	Tem/Hum	Rain	Str/Rad	Ap
監視センター	○	○	○	○

注) 表中「測定項目」欄の省略記号は、それぞれ以下のとおり。

Tem/Hum	気温及び湿度
Rain	降水量
Str/Rad	日射量及び放射収支量
Ap	気圧

## 2 大気常時監視測定結果の概要

平成30年度に測定した常時監視測定項目の結果概要は次のとおりであった。

### (1) 二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)

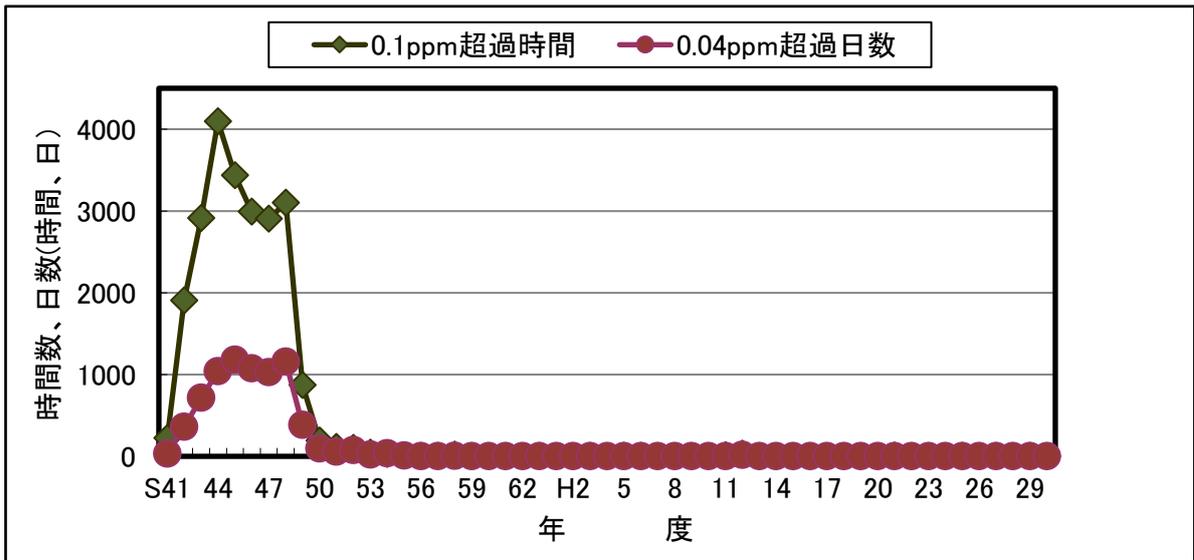
平成30年度の二酸化硫黄の測定局数は、一般環境大気測定局19局であり、その全てが年間測定時間6,000時間以上の有効測定局であった。

環境基準達成状況について、日平均値の短期的評価基準値0.04ppmを超過した測定局はなかった。また、1時間値の短期的評価基準値0.1ppmを超過した測定局もなく、短期的評価基準値の超過はなかった。(図2-1)。詳細は4添付資料(2)一般環境大気測定局ア経年測定データを参照のこと。

長期的評価については、全局で環境基準を達成しており、昭和56年度以降環境基準達成率100%を維持している(図2-2)。

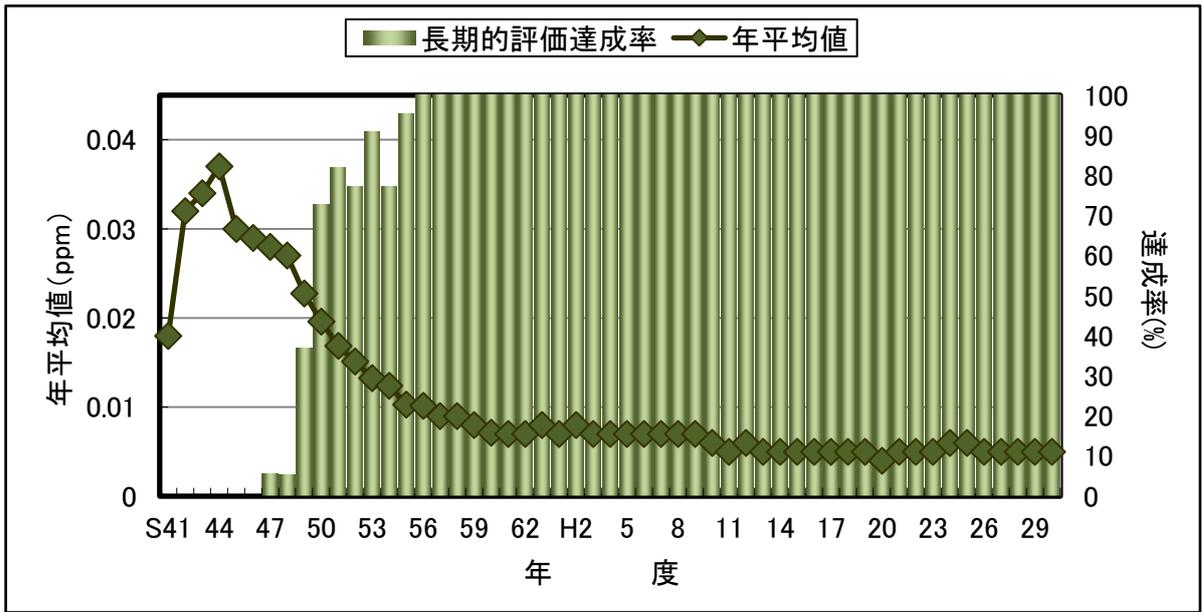
二酸化硫黄濃度の全局の年平均値は、0.005ppmであり、平成29年度と同値であった。

全局年平均値の推移については、昭和40年代に比べ著しく改善し、近年は横ばい傾向である。



	S41	S42	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49	S50
0.1ppm超過時間	222	1,904	2,914	4,095	3,436	2,990	2,905	3,098	869	191
0.04ppm超過日数	33	360	714	1,040	1,180	1,072	1,025	1,156	384	93
	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60
0.1ppm超過時間	115	101	44	26	7	4	5	18	1	1
0.04ppm超過日数	53	76	19	35	7	1	0	3	0	0
	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7
0.1ppm超過時間	0	0	5	0	0	5	0	4	4	2
0.04ppm超過日数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
0.1ppm超過時間	1	1	0	13	31	0	0	2	0	0
0.04ppm超過日数	0	0	0	0	15	0	0	0	0	0
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
0.1ppm超過時間	0	1	1	7	0	0	1	3	1	5
0.04ppm超過日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H28	H29	H30							
0.1ppm超過時間	2	4	0							
0.04ppm超過日数	0	0	0							

図 2-1 全局SO<sub>2</sub>短期的評価基準によるSO<sub>2</sub>濃度0.1ppm超過時間数、0.04ppm超過日数の経年変化



	S41	S42	S43	S44	S45	S46	S47	S48	S49	S50
年平均値 (ppm)	0.018	0.032	0.034	0.037	0.030	0.029	0.028	0.027	0.023	0.020
達成率 (%)	0	0	0	0	0	0	6	5	37	73
	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60
年平均値 (ppm)	0.017	0.015	0.013	0.012	0.010	0.010	0.009	0.009	0.008	0.007
達成率 (%)	82	77	91	77	95	100	100	100	100	100
	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7
年平均値 (ppm)	0.007	0.007	0.008	0.007	0.008	0.007	0.007	0.007	0.007	0.007
達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
年平均値 (ppm)	0.007	0.007	0.006	0.005	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
年平均値 (ppm)	0.005	0.005	0.004	0.005	0.005	0.005	0.006	0.006	0.005	0.005
達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	H28	H29	H30							
年平均値 (ppm)	0.005	0.005	0.005							
達成率 (%)	100	100	100							

図 2-2 全局SO<sub>2</sub>長期的評価達成率とSO<sub>2</sub>濃度年平均値の経年変化

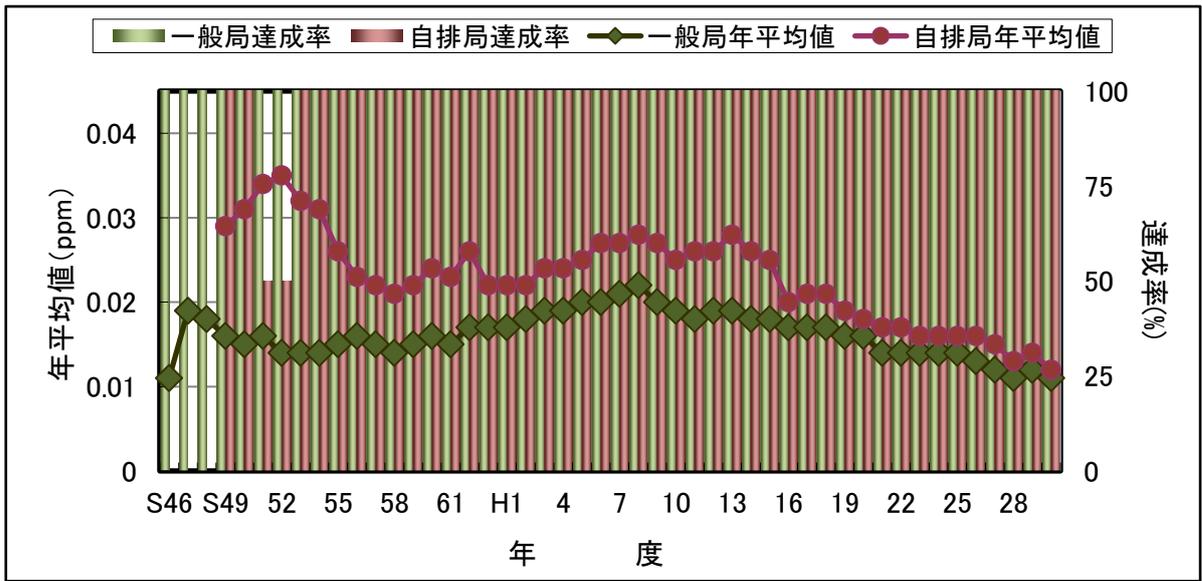
## (2) 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

平成30年度の二酸化窒素の測定局数は、20局（一般環境大気測定局17局、自動車排出ガス測定局3局）であるが、このうち、平成30年7月豪雨で被災した一般環境大気測定局である真備測定局を除く19局が年間測定時間6,000時間以上の有効測定局であった。

環境基準達成状況について、長期的評価の結果、全局で環境基準を達成した。一般環境大気測定局は測定開始以降、自動車排出ガス測定局は昭和53年度以降環境基準達成率100%を維持している（図2-3）。

二酸化窒素濃度の年平均値は、一般環境大気測定局では0.011ppmであり、平成29年度と比較して0.001ppm減少した。自動車排出ガス測定局では0.012ppmであり、平成29年度と比較して0.002ppm減少した。

全局年平均値の推移については、一般環境大気測定局、自動車排出ガス測定局ともに近年ゆるやかな改善傾向である。



		S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55
一般局	年平均値 (ppm)	0.011	0.019	0.018	0.016	0.015	0.016	0.014	0.014	0.014	0.015
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
自排局	年平均値 (ppm)	-	-	-	0.029	0.031	0.034	0.035	0.032	0.031	0.026
	達成率 (%)	-	-	-	100	100	50	50	100	100	100
		S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2
一般局	年平均値 (ppm)	0.016	0.015	0.014	0.015	0.016	0.015	0.017	0.017	0.017	0.018
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
自排局	年平均値 (ppm)	0.023	0.022	0.021	0.022	0.024	0.023	0.026	0.022	0.022	0.022
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
一般局	年平均値 (ppm)	0.019	0.019	0.020	0.020	0.021	0.022	0.020	0.019	0.018	0.019
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
自排局	年平均値 (ppm)	0.024	0.024	0.025	0.027	0.027	0.028	0.027	0.025	0.026	0.026
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
一般局	年平均値 (ppm)	0.019	0.018	0.018	0.017	0.017	0.017	0.016	0.016	0.014	0.014
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
自排局	年平均値 (ppm)	0.028	0.026	0.025	0.020	0.021	0.021	0.019	0.018	0.017	0.017
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		
一般局	年平均値 (ppm)	0.014	0.014	0.014	0.013	0.012	0.011	0.012	0.011		
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100		
自排局	年平均値 (ppm)	0.016	0.016	0.016	0.016	0.015	0.013	0.014	0.012		
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100		

図 2-3 局種別NO<sub>2</sub>長期的評価達成率とNO<sub>2</sub>濃度年平均値の経年変化

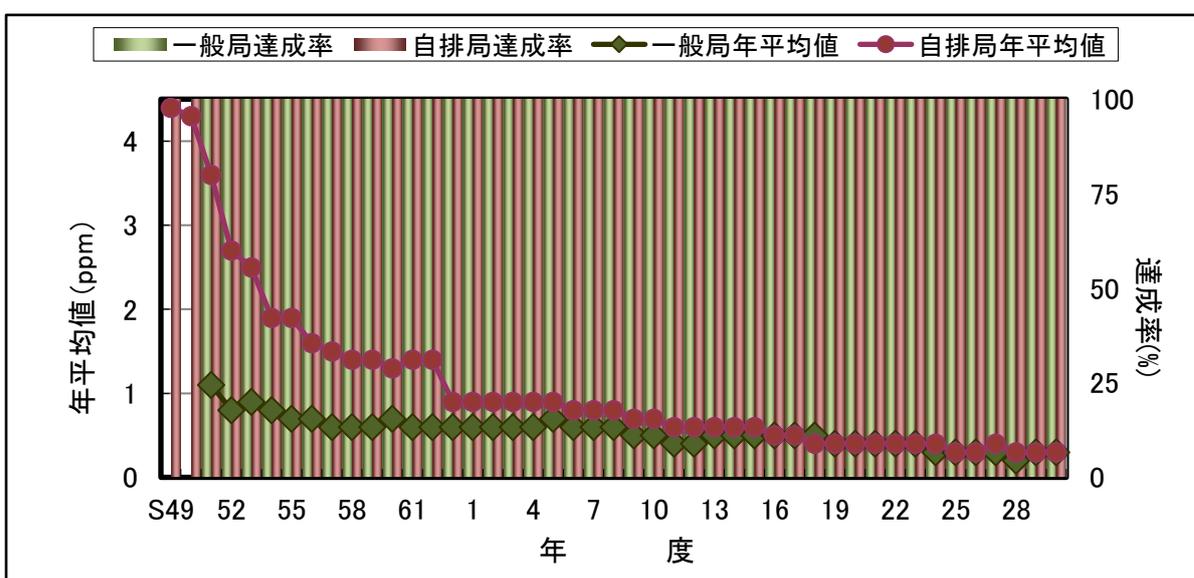
### (3) 一酸化炭素 (CO)

平成30年度の一酸化炭素の測定局数は、4局（一般環境大気測定局1局、自動車排出ガス測定局3局）であり、その全てが年間測定時間6,000時間以上の有効測定局であった。

環境基準達成状況について、短期的評価基準の超過は無かった。長期的評価においても全局で環境基準を達成しており、測定開始以降環境基準達成率100%を維持している（図2-4）。

一酸化炭素濃度の年平均値は、一般環境大気測定局では0.3ppmであり、平成29年度と同値であった。自動車排出ガス測定局では0.3ppmであり、平成29年度と同値であった。

全局年平均値の推移については、一般環境大気測定局、自動車排出ガス測定局ともに近年緩やかな改善傾向である。



		S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58
一般局	年平均値 (ppm)	-	-	1.1	0.8	0.9	0.8	0.7	0.7	0.6	0.6
	達成率 (%)	-	-	100	100	100	100	100	100	100	100
自排局	年平均値 (ppm)	4.4	4.3	3.6	2.7	2.5	1.9	1.9	1.6	1.5	1.4
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5
一般局	年平均値 (ppm)	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	0.7
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
自排局	年平均値 (ppm)	1.4	1.3	1.4	1.4	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
一般局	年平均値 (ppm)	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
自排局	年平均値 (ppm)	0.8	0.8	0.8	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
一般局	年平均値 (ppm)	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
自排局	年平均値 (ppm)	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3
	達成率 (%)	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
		H26	H27	H28	H29	H30					
一般局	年平均値 (ppm)	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3					
	達成率 (%)	100	100	100	100	100					
自排局	年平均値 (ppm)	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3					
	達成率 (%)	100	100	100	100	100					

図2-4 局種別CO長期的評価達成率とCO濃度年平均値の経年変化

#### (4) 光化学オキシダント (Ox)

平成30年度の光化学オキシダントの測定局数は、16局（一般環境大気測定局16局）であった。

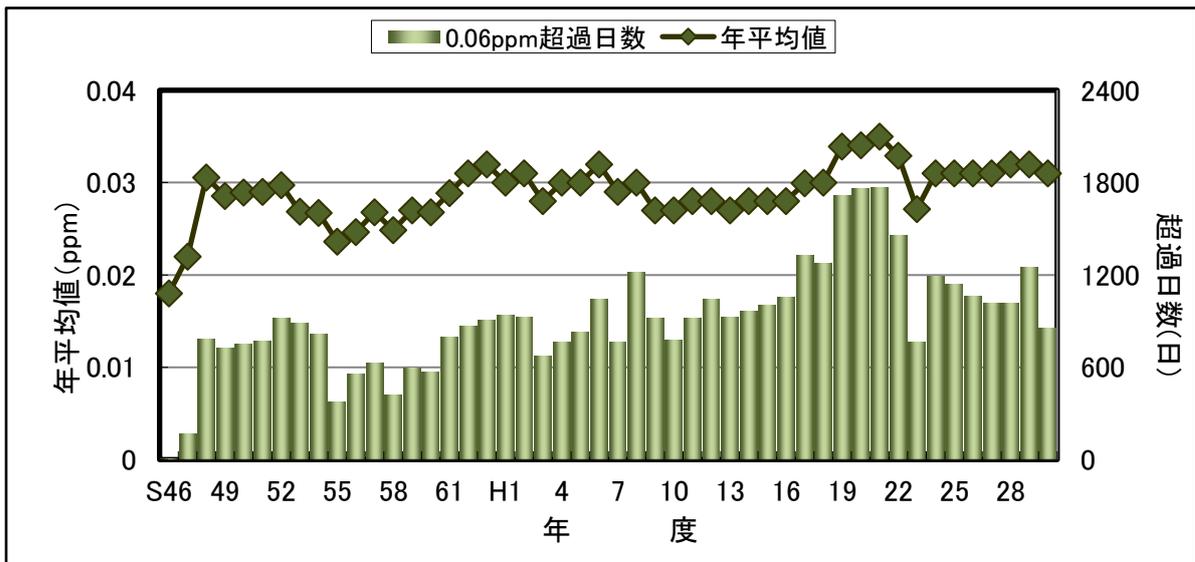
環境基準達成状況について、全局で環境基準を達成しなかった。光化学オキシダントは、測定開始以降環境基準を達成しておらず、極めて低い水準となっている。

光化学オキシダントの全局年平均値は、0.031ppmであり、平成29年度と比較して0.001ppm減少した（図2-5）。

光化学オキシダントの環境改善効果を適切に示すため、年間で光化学オキシダントの高濃度のレベルがどのように推移してきたかを長期間に渡り評価する新たな指標（日最高8時間平均値の年間99パーセンタイル値の3年平均値※）（以下「新指標」という。）が環境省より提言された。本市のOx新指標の長期傾向はほぼ横ばいであった（図2-6）。また、Ox新指標の濃度別測定局数比率の経年変化は、平成20年度頃から0.09ppm以上の局数が減少傾向であり、0.06ppm以上0.075ppm未満の局数が増加傾向であることから、高濃度レベルの地域差がやや縮小傾向にある（図2-7）。平成30年度における光化学オキシダント情報等の発令日数は10日であり、平成29年度と比較して3日増加した（図2-8）。このうち、注意報に至ったのは8日であった。また、警報の発令はなかった。

光化学オキシダント情報等とは、岡山県大気汚染緊急時対策実施要綱に基づき、光化学オキシダントによる大気の汚染が著しくなり、人の健康又は生活環境に係る被害が生ずるおそれを未然に防ぐ場合や、生ずるおそれがある場合に発令される情報、注意報及び警報を指す。

倉敷市域においては、情報は倉敷市が、注意報は岡山県が発令する。



	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55
年平均値 (ppm)	0.018	0.022	0.031	0.029	0.029	0.029	0.030	0.027	0.027	0.024
超過日数 (日)	5	166	785	722	751	767	921	888	818	375
	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2
年平均値 (ppm)	0.025	0.027	0.025	0.027	0.027	0.029	0.031	0.032	0.030	0.031
超過日数 (日)	555	627	419	595	572	797	864	909	938	927
	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
年平均値 (ppm)	0.028	0.030	0.030	0.032	0.029	0.030	0.027	0.027	0.028	0.028
超過日数 (日)	671	764	826	1,040	763	1,214	917	774	920	1,044
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
年平均値 (ppm)	0.027	0.028	0.028	0.028	0.030	0.030	0.034	0.034	0.035	0.033
超過日数 (日)	926	965	1,006	1,056	1,326	1,273	1,713	1,763	1,766	1,459
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		
年平均値 (ppm)	0.027	0.031	0.031	0.031	0.031	0.032	0.032	0.031		
超過日数 (日)	762	1,189	1,139	1,060	1,017	1,015	1,248	854		

図 2-5 全局Ox濃度年平均値とOx濃度0.06ppm超過日数の経年変化

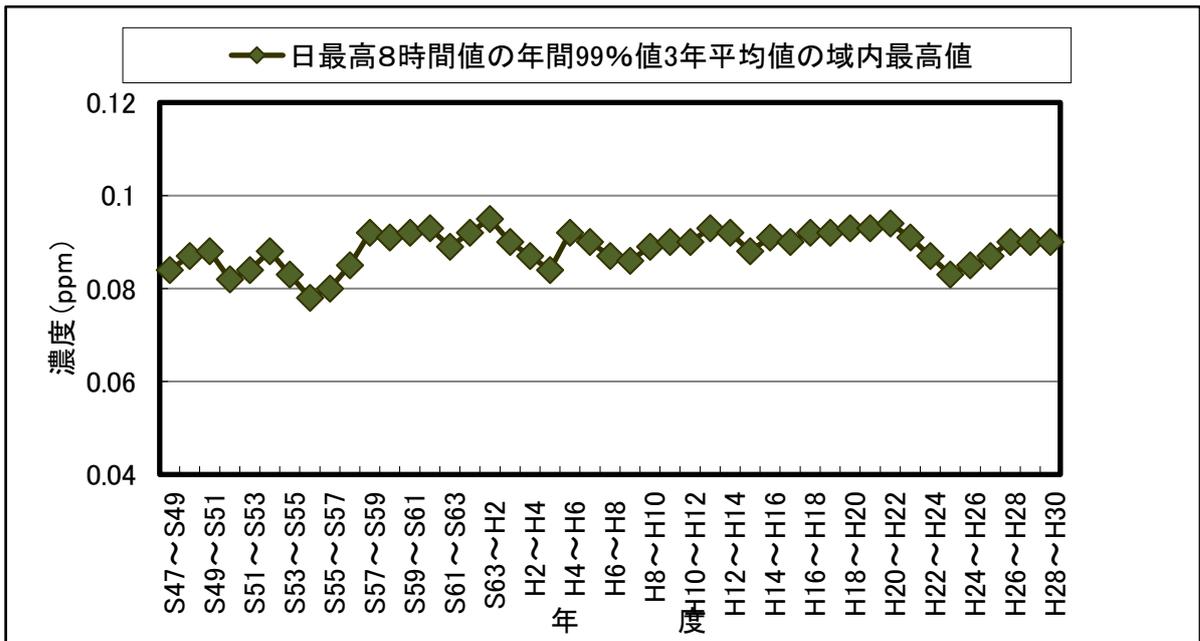


図 2-6 0x日最高8時間値の年間99%値3年平均値の域内最高値の経年変化

(※平成28年2月17日環水大大発第1602171号 光化学オキシダントの環境改善効果を適切に示すための指標に係る測定値の取り扱いについて)

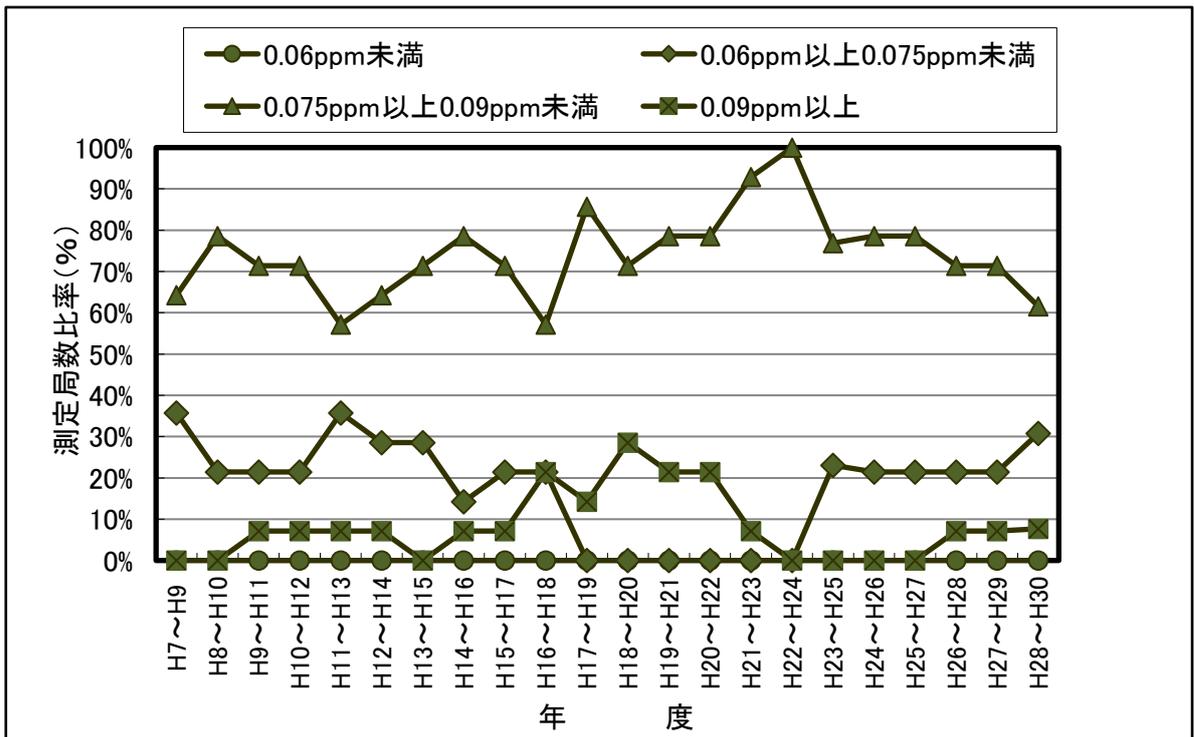
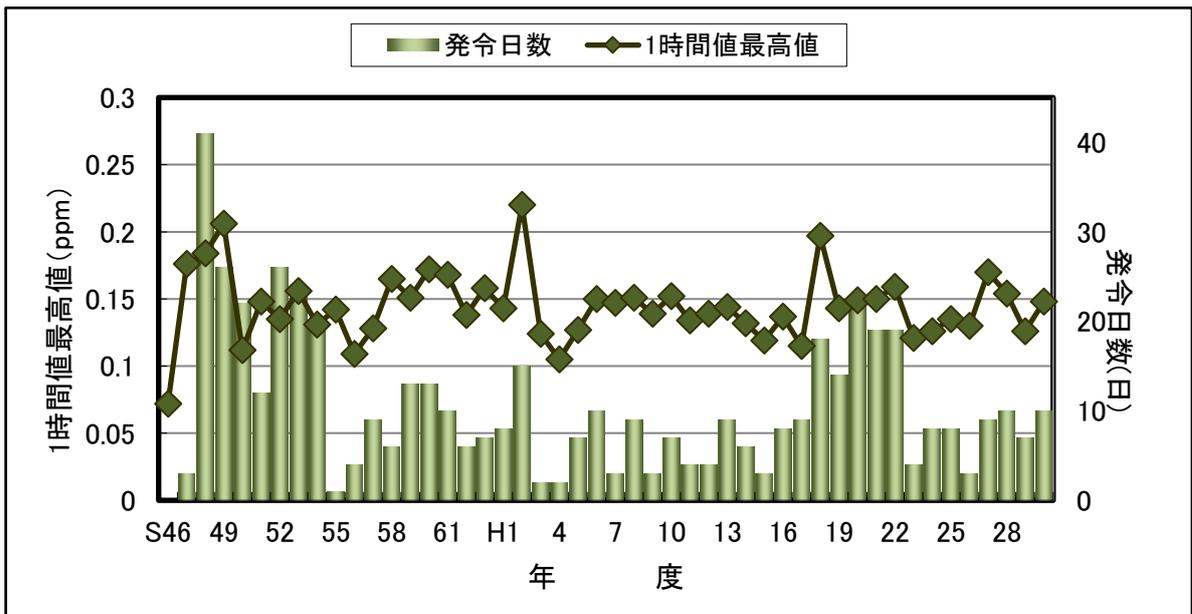


図 2-7 0x新指標の濃度別測定局数比率の経年変化



	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55
1時間値最高値 (ppm)	0.072	0.176	0.184	0.206	0.112	0.148	0.135	0.156	0.131	0.142
発令日数 (日)	-	3	41	26	22	12	26	23	19	1
	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2
1時間値最高値 (ppm)	0.109	0.128	0.165	0.151	0.172	0.168	0.138	0.158	0.143	0.220
発令日数 (日)	4	9	6	13	13	10	6	7	8	15
	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
1時間値最高値 (ppm)	0.124	0.105	0.127	0.150	0.147	0.151	0.139	0.152	0.134	0.139
発令日数 (日)	2	2	7	10	3	9	3	7	4	4
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
1時間値最高値 (ppm)	0.144	0.132	0.119	0.137	0.115	0.197	0.143	0.149	0.150	0.159
発令日数 (日)	9	6	3	8	9	18	14	22	19	19
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		
1時間値最高値 (ppm)	0.121	0.126	0.135	0.130	0.170	0.154	0.126	0.148		
発令日数 (日)	4	8	8	3	9	10	7	10		

図 2-8 全局0x濃度 1時間値最高値と光化学オキシダント情報等発令日数の経年変化

## (5) 浮遊粒子状物質 (SPM)

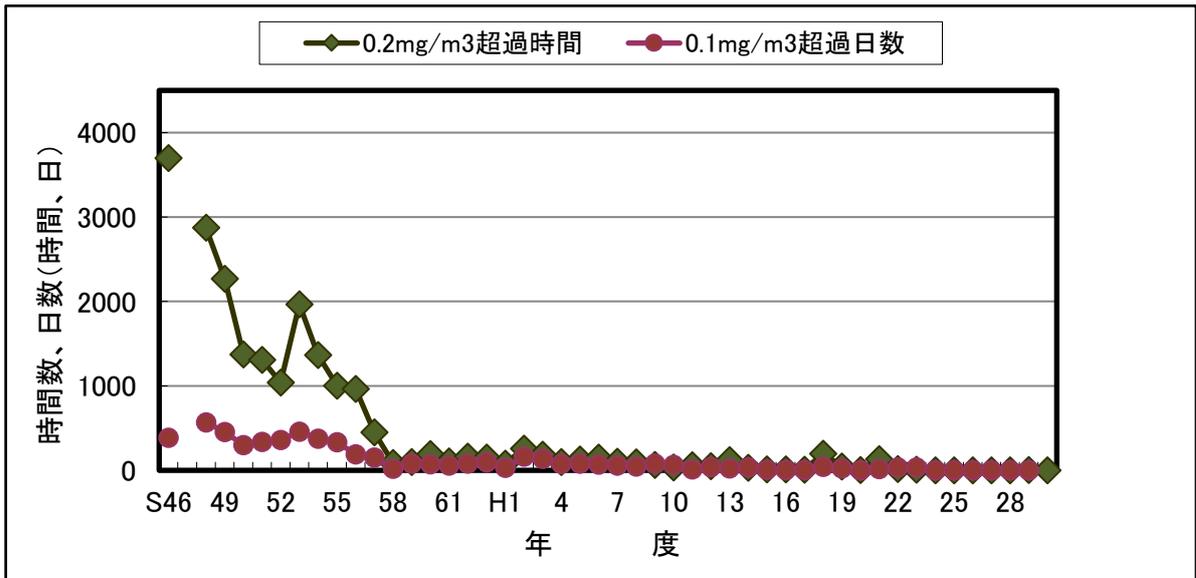
平成30年度の浮遊粒子状物質の測定局数は、19局（一般環境大気測定局17局、自動車排出ガス測定局2局）であり、その全てが年間測定時間6,000時間以上の有効測定局であった。

環境基準達成状況について、一般環境大気測定局では、日平均値の短期的評価基準値 $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超過した測定局はなかった。1時間値の短期的評価基準値 $0.2\text{ppm}$ の超過があった測定局は1局で、合計2時間の短期的評価基準超過があった（図2-9）超過時間詳細は4添付資料(2)一般環境大気測定局ア経年測定データを参照のこと。自動車排出ガス測定局では、平成29年度に引き続き短期的評価基準値の超過はなかった（図2-10）。

長期的評価については、平成29年度に引き続き全局で環境基準を達成した。（図2-11）。

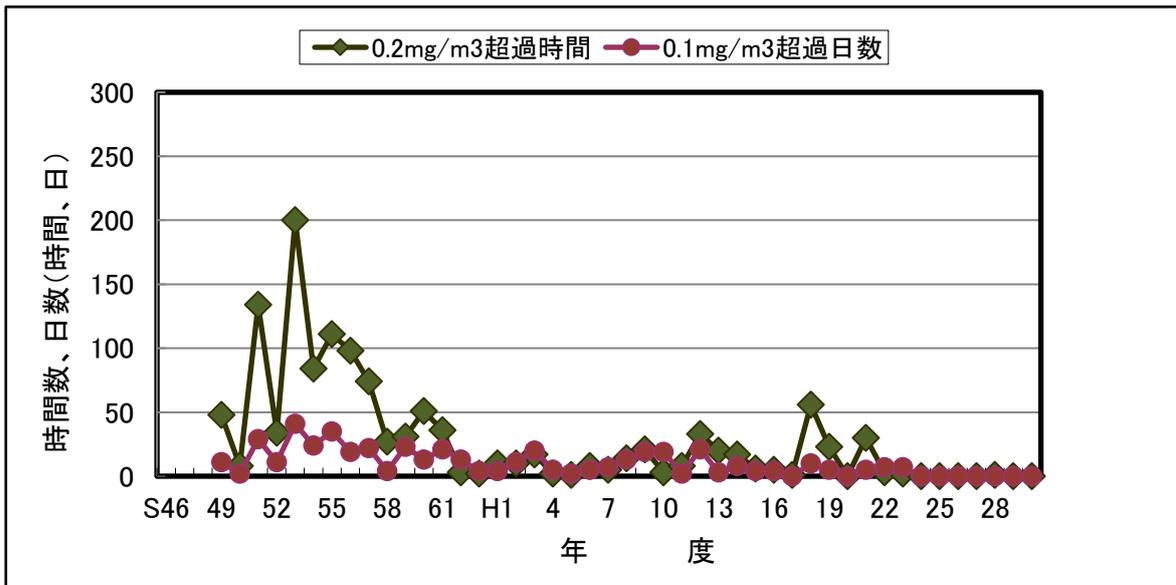
浮遊粒子状物質濃度の年平均値は、一般環境大気測定局では $0.019\text{mg}/\text{m}^3$ であり、平成29年度と比較して $0.001\text{mg}/\text{m}^3$ 減少した。自動車排出ガス測定局では、 $0.019\text{mg}/\text{m}^3$ であり、平成29年度と比較して $0.001\text{mg}/\text{m}^3$ 減少した。

全局年平均値の推移については、一般環境大気測定局、自動車排出ガス測定局ともにゆるやかな改善傾向である。



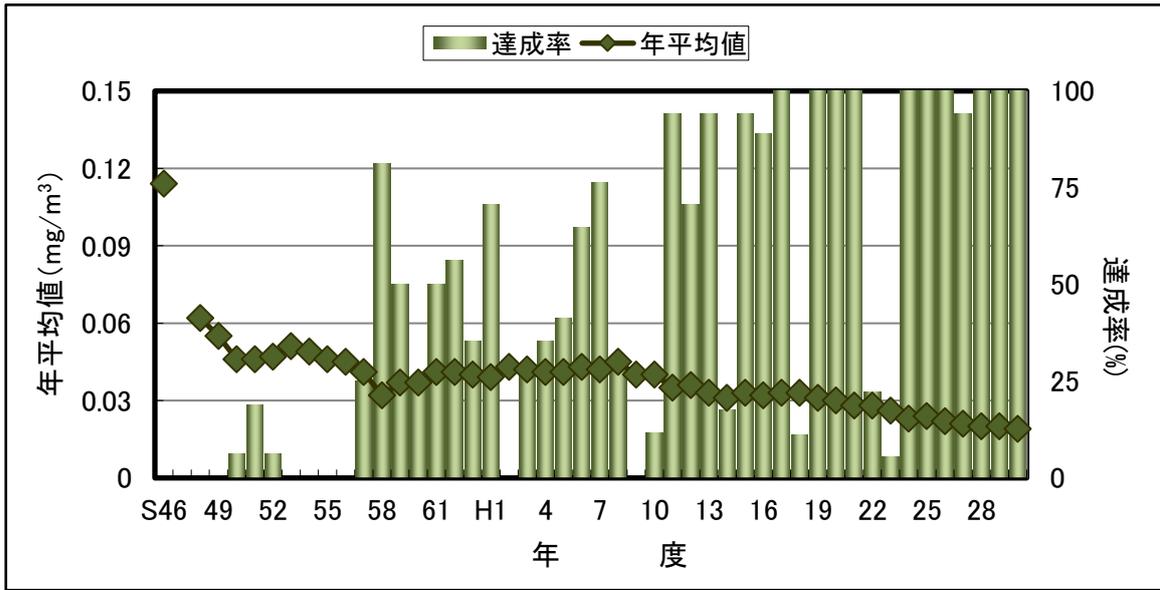
	S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55
0.2mg/m <sup>3</sup> 超過時間	3,701	-	2,874	2,272	1,374	1,308	1,041	1,968	1,365	1,005
0.1mg/m <sup>3</sup> 超過日数	387	-	570	456	299	338	359	460	374	333
	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2
0.2mg/m <sup>3</sup> 超過時間	967	453	87	99	195	108	162	154	82	260
0.1mg/m <sup>3</sup> 超過日数	190	151	20	82	74	59	81	96	31	164
	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
0.2mg/m <sup>3</sup> 超過時間	188	101	130	152	103	97	67	36	62	52
0.1mg/m <sup>3</sup> 超過日数	137	75	79	68	59	45	81	64	11	38
	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
0.2mg/m <sup>3</sup> 超過時間	122	31	14	11	7	198	48	4	133	17
0.1mg/m <sup>3</sup> 超過日数	23	37	10	6	4	41	23	0	16	37
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		
0.2mg/m <sup>3</sup> 超過時間	8	3	2	1	1	2	4	2		
0.1mg/m <sup>3</sup> 超過日数	34	0	2	0	2	0	0	0		

図 2-9 一般環境大気測定局SPM短期的評価基準によるSPM濃度0.2mg/m<sup>3</sup>超過時間数及び0.1mg/m<sup>3</sup>超過日数の経年変化



	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58
0.2mg/m <sup>3</sup> 超過時間	48	8	134	34	200	84	111	98	74	27
0.1mg/m <sup>3</sup> 超過日数	11	2	29	11	41	24	35	19	22	4
	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5
0.2mg/m <sup>3</sup> 超過時間	31	51	36	3	2	10	10	17	2	1
0.1mg/m <sup>3</sup> 超過日数	23	13	21	13	4	4	11	20	5	2
	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15
0.2mg/m <sup>3</sup> 超過時間	8	5	14	21	3	8	33	20	17	6
0.1mg/m <sup>3</sup> 超過日数	5	7	13	19	19	2	21	3	8	4
	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
0.2mg/m <sup>3</sup> 超過時間	5	1	56	23	0	30	3	2	0	0
0.1mg/m <sup>3</sup> 超過日数	4	0	10	5	0	5	7	7	0	0
	H26	H27	H28	H29	H30					
0.2mg/m <sup>3</sup> 超過時間	0	0	1	0	0					
0.1mg/m <sup>3</sup> 超過日数	0	0	0	0	0					

図 2-10 自動車排出ガス測定局SPM短期的評価基準によるSPM濃度0.2mg/m<sup>3</sup>超過時間数、0.1mg/m<sup>3</sup>超過日数の経年変化



		S46	S47	S48	S49	S50	S51	S52	S53	S54	S55
一般局	年平均値 (ppm)	0.114	-	0.062	0.057	0.047	0.046	0.048	0.051	0.049	0.046
	達成率 (%)	0	-	0	0	7	20	7	0	0	0
自排局	年平均値 (ppm)	-	-	-	0.037	0.026	0.045	0.039	0.056	0.049	0.054
	達成率 (%)	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0
		S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2
一般局	年平均値 (ppm)	0.045	0.040	0.031	0.036	0.036	0.040	0.041	0.040	0.039	0.043
	達成率 (%)	0	27	80	53	27	53	60	33	73	0
自排局	年平均値 (ppm)	0.055	0.048	0.042	0.047	0.047	0.051	0.044	0.037	0.039	0.043
	達成率 (%)	0	0	100	0	0	0	0	50	50	0
		H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12
一般局	年平均値 (ppm)	0.041	0.041	0.042	0.044	0.041	0.044	0.039	0.040	0.034	0.035
	達成率 (%)	27	33	33	60	73	33	0	13	93	80
自排局	年平均値 (ppm)	0.045	0.040	0.037	0.042	0.043	0.049	0.044	0.046	0.041	0.043
	達成率 (%)	50	50	100	100	100	0	0	0	100	0
		H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
一般局	年平均値 (ppm)	0.032	0.030	0.032	0.031	0.032	0.032	0.030	0.029	0.028	0.028
	達成率 (%)	93	20	93	87	100	13	100	100	100	27
自排局	年平均値 (ppm)	0.036	0.034	0.037	0.037	0.036	0.037	0.036	0.033	0.031	0.032
	達成率 (%)	100	0	100	100	100	0	100	100	100	0
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30		
一般局	年平均値 (ppm)	0.026	0.023	0.024	0.022	0.021	0.020	0.020	0.019		
	達成率 (%)	7	100	100	100	93	100	100	100		
自排局	年平均値 (ppm)	0.028	0.023	0.022	0.021	0.021	0.019	0.020	0.019		
	達成率 (%)	0	100	100	100	100	100	100	100		

図 2-11 局種別SPM長期的評価達成率とSPM濃度年平均値の経年変化

## (6) 微小粒子状物質 (PM2.5)

倉敷市では、平成24年度から微小粒子状物質の測定を開始しており、平成30年度の測定局数は10局であるが、このうち、平成30年7月豪雨で被災した一般環境大気測定局である真備測定局を除く9局が有効測定局数であった。

環境基準達成状況について、一般環境大気測定局では2局で環境基準を達成（環境基準達成率25%）しており、平成29年度と比較して1局減少した。自動車排出ガス測定局では、全局で環境基準を達成しなかった。（図2-12、図2-13）。

微小粒子状物質濃度の平成30年度の年平均値は、一般環境大気測定局では $14.7\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、自動車排出ガス測定局では $14.9\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった（図2-14）。

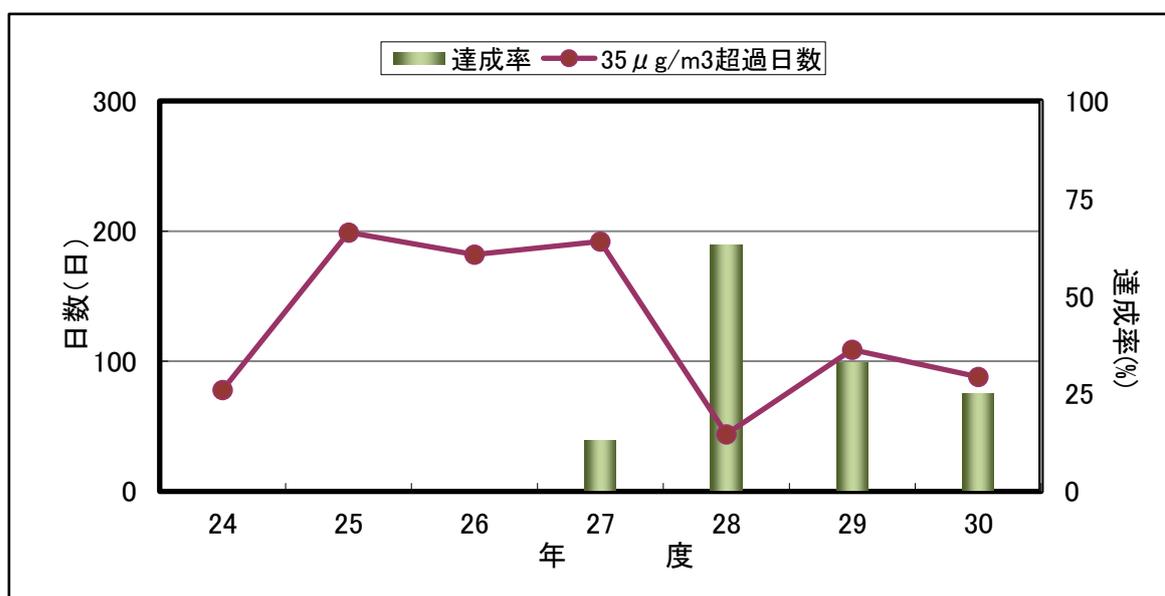


図2-12 一般環境大気測定局PM2.5環境基準達成率とPM2.5濃度 $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過日数の経年変化

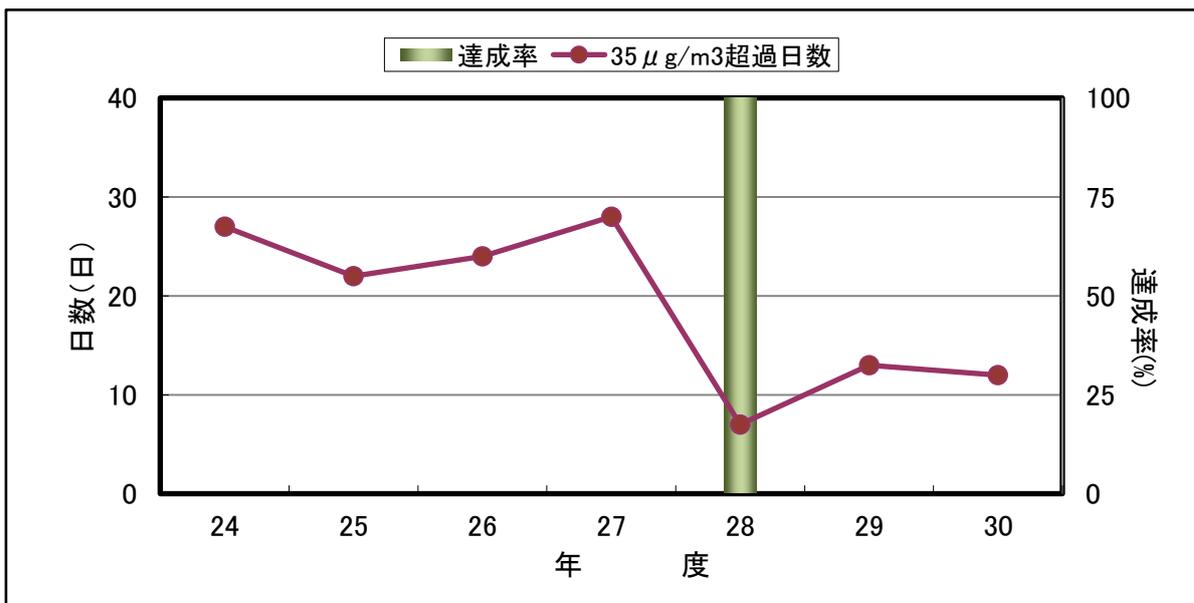


図 2-13 自動車排ガス測定局PM2.5環境基準達成率とPM2.5濃度 $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過日数の経年変化

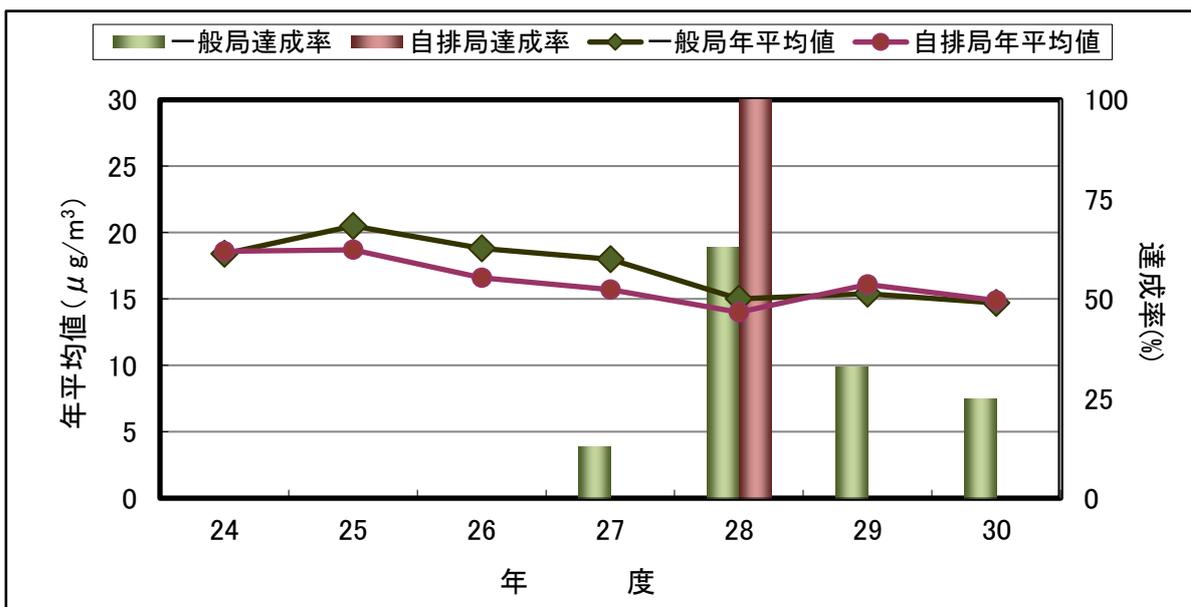


図 2-14 局種別PM2.5環境基準達成率とPM2.5濃度年平均値の経年変化

### 3 項目別測定結果

#### (1) 一般環境大気測定局

##### ア 二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>)

測定した19局の年平均値は0.004～0.007ppmの範囲にあった。全局の年平均値は0.005ppmであり、平成29年度と同値であった。年平均値の最高値(0.007ppm)は塩生局であった。

図3-1に全局の年平均値の経年変化を示す。全局の年平均値は、最近10年間は横ばい傾向である。

図3-2に月平均値の経月変化を示す。月平均値は、4月及び5月が0.007ppmで最も高く、9月、11月及び12月が最も低く0.003ppmであった。通年では、春季から秋季にかけて低下する傾向であった。

1時間値の最高値は0.085ppm(7月17日19時 西阿知局)であり、1時間値の短期的評価基準値0.1ppmを超過した測定局はなかった。

1日平均値の最高値は0.020ppm(4月21日 監視センター局)であり、1日平均値の短期的評価基準値0.04ppmを超えた測定局はなかった。

年間にわたる1日平均値のうち高い方から2%の範囲にあるものを除外した最高値(以下「1日平均値の2%除外値の最高値」という。)は0.007～0.016ppmの範囲にあり、いずれも0.04ppm未満以下であった。最高値(0.016ppm)は監視センター局であった。1日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続した測定局はなかった。

長期的評価の結果、全局で環境基準を達成した。

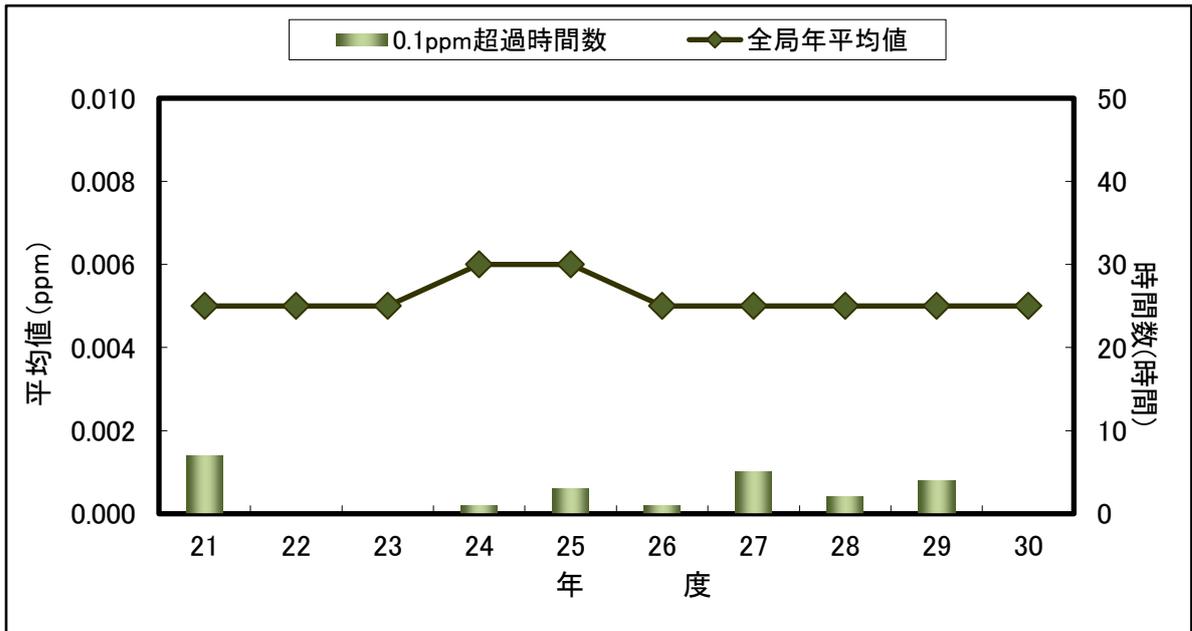


図 3-1 全局SO<sub>2</sub>濃度年平均値の経年変化

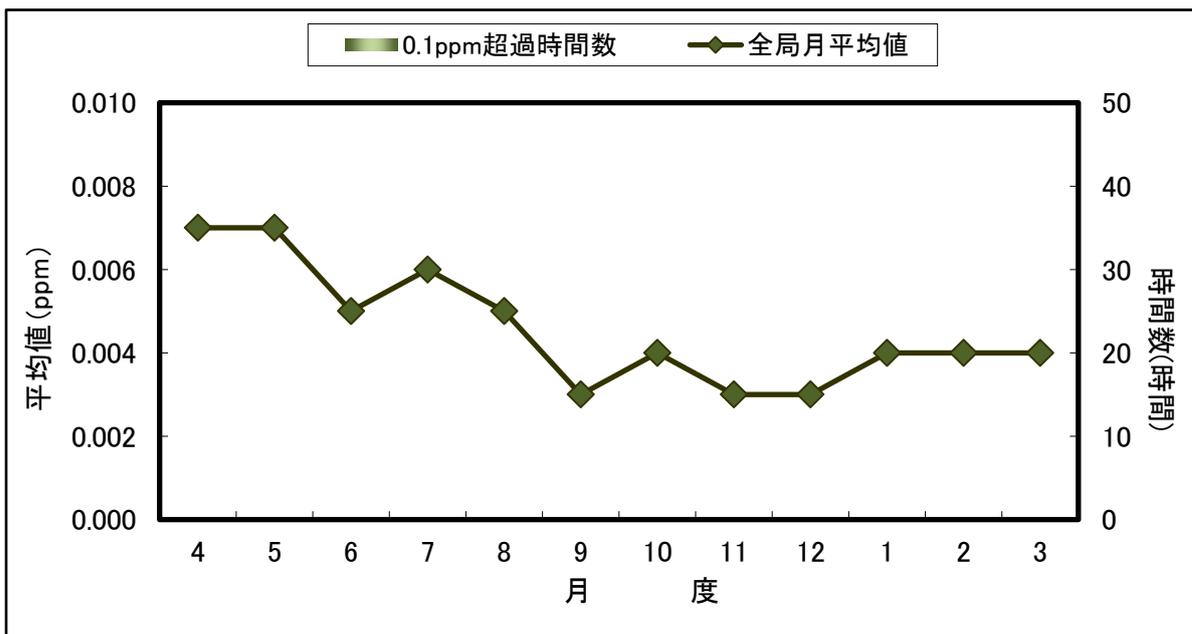


図 3-2 全局SO<sub>2</sub>濃度月平均値の経月変化

## イ 窒素酸化物 (NO<sub>x</sub>)

### (ア) 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

有効測定局である16局の年平均値は0.009～0.014ppmの範囲にあった。全局の年平均値は0.011ppmであり、平成29年度と比較して0.001ppm減少した。年平均値の最高値は監視センター局、塩生局、茶屋町局及び豊洲局(0.014ppm)であった。

図3-3に全局の年平均値の経年変化を示す。全局の年平均値は、最近10年間は緩やかな改善傾向である。

図3-4に月平均値の経月変化を示す。

月平均値は、4月が0.015ppmで最も高く、9月が0.007ppmで最も低かった。通年では、春季から夏季に低下し、秋季から冬季に上昇する傾向であった。

1時間値の最高値は0.077ppm(7月26日20時 監視センター局)、1日平均値の最高値は0.040ppm(4月20日 監視センター局)であった。

1日平均値が0.04から0.06ppmまでのゾーン内となった日数は1日で、平成29年度と比較して1日減少した。また、1日平均値が0.06ppmを超えた測定局はなかった。

年間にわたる1日平均値のうち低い方から98%に相当する値の最高値(以下「1日平均値の年間98%値」という。)は茶屋町局の0.034ppmであり、全局において0.04ppm以下であった。

長期的評価の結果、全局で環境基準を達成した。

倉敷市(旧真備町、旧船穂町を除く。)は、「二酸化窒素に係る環境基準について」(昭和53年環境庁告示第38号)第二の「1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内にある地域」と判定されている。この判定は、昭和54年8月7日付け環大企第310号環境庁大気保全局長通知「二酸化窒素に係る環境基準に基づく地域区分について」に示されている。

当該地域では、原則として、0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内において現状程度の水準(昭和52年度における一般環境大気測定局の1日平均値の年間98%値の上位3局平均値0.04ppm(監視センター局(0.046ppm)、児島局(0.039ppm)、玉島局(0.035ppm))を維持し、またはこれを大きく上回ることはないよう努めるものとされている。

当該地域における二酸化窒素濃度の動向の評価は、当該地域内の一般環境大気測定局の1日平均値の年間98%値の上位3局平均値によることとされており、平成30年度の上位3局(茶屋町局(0.034ppm)、監視センター局(0.031ppm)及び塩生局(0.028ppm))の平均値は0.031ppmであり、0.04ppm以下を維持していた。

#### (イ) 一酸化窒素 (NO)

有効測定局である16局の年平均値は0.001～0.005ppmの範囲にあった。全局の年平均値は0.003ppmであり、平成29年度と同値であった。年平均値の最高値は豊洲局(0.005ppm)であった。

年平均値の経年変化を図3-3に示す。最近10年間は緩やかな改善傾向である。

月平均値の経月変化を図3-4に示す。月平均値は、11月、12月及び1月が0.004ppmで最も高く、9月が0.001ppmで最も低かった。

1時間値の最高値は0.132ppm(5月21日15時 児島局)であった。

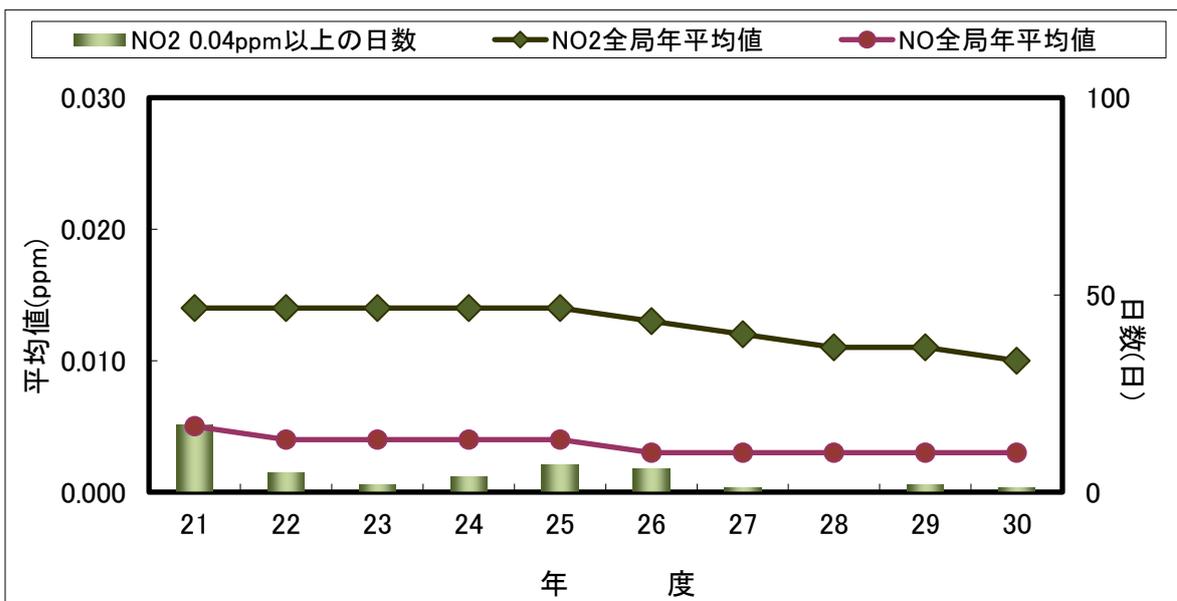


図 3-3 全局NO2、NO濃度年平均値とNO2濃度0.04ppm以上の日数の経年変化

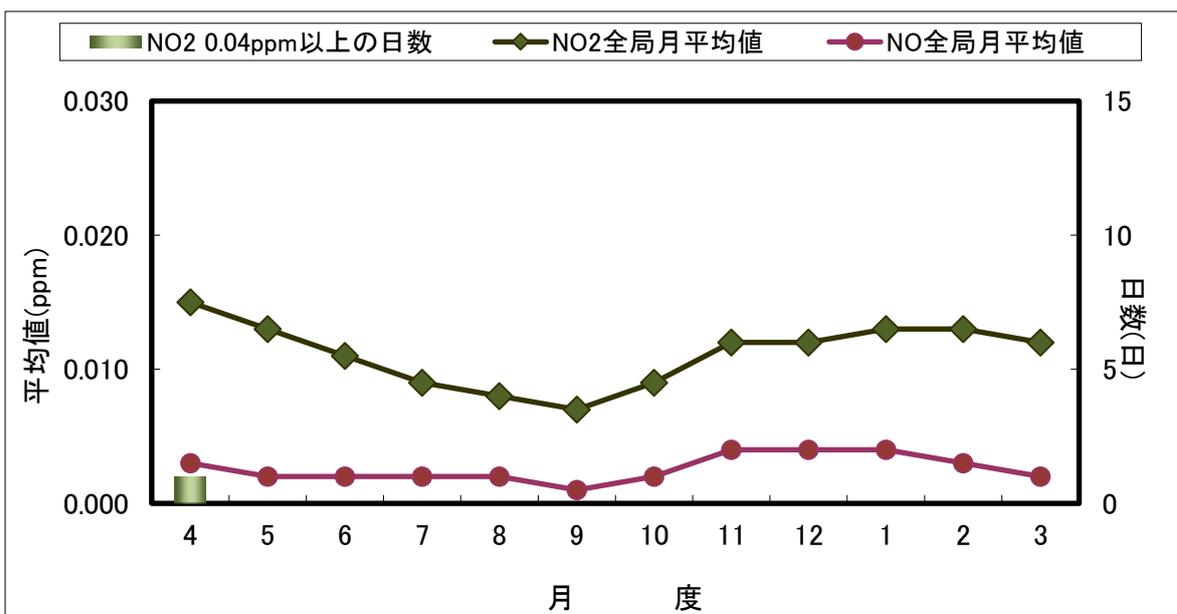


図 3-4 全局NO2、NO濃度月平均値とNO2濃度0.04ppm以上の日数の経月変化

## ウ 一酸化炭素 (CO)

測定したのは一般環境大気測定局では倉敷美和局の1局であり、年平均値は0.3ppmであった。

図3-5に年平均値の経年変化を示す。年平均値は、最近10年間は緩やかな改善傾向である。

図3-6に月平均値の経月変化を示す。月平均値は、4月が0.5ppmで最も高く、7月、8月、9月及び10月が0.2ppmで最も低かった。

1日平均値の最高値は0.7ppm(4月1日、4月20日、4月21日及び4月22日)であり、10ppm以下であった。

8時間値の最高値は1.0ppm(4月20日9時から16時)であり、20ppm以下であった。短期的評価基準の超過はなかった。

1日平均値の2%除外値の最高値は0.6ppmであり、10ppm以下であった。長期的評価の結果、環境基準を達成した。

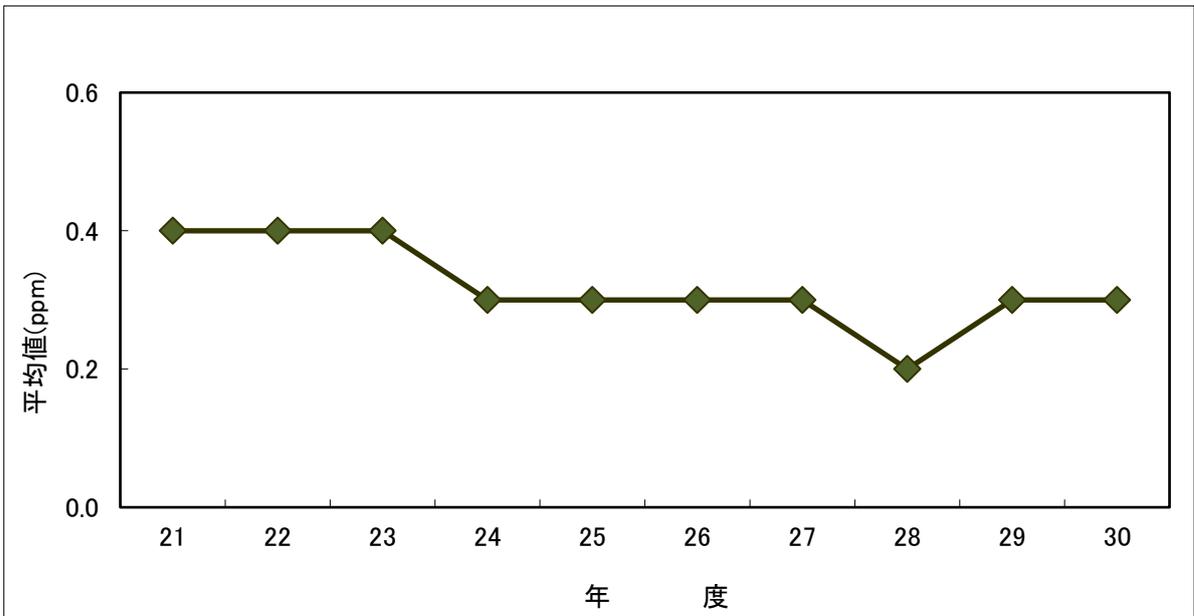


図 3-5 倉敷美和局CO濃度年平均値の経年変化

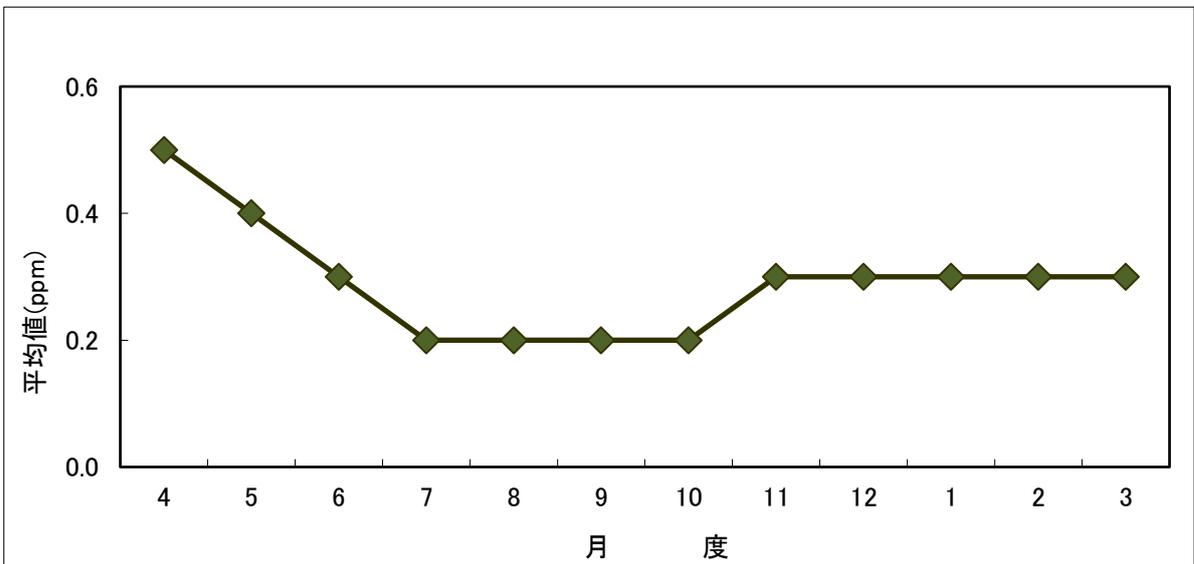


図 3-6 倉敷美和局CO濃度月平均値の経月変化

## エ 光化学オキシダント (Ox) <集計値は6時から20時の値>

測定した16局の年平均値は0.026～0.041ppmの範囲にあった。全局の年平均値は0.031ppmであり、平成29年度と比較して0.001ppm減少した。

図3-7に1時間値が0.06ppmを超えた時間数の経年変化を示す。

平成30年度の1時間値が0.06ppmを超えた時間数は、4,005時間であった。平成29年度と比較して2,088時間減少した。時間が大きく減少した理由としては、平成30年7月豪雨で真備局が被災し、夏期に測定できなかった影響があると考えられる。

局別では倉敷美和局が387時間で最も多かった。

図3-8に1時間値が0.06ppmを超えた時間数の月別変化を示す。

1時間値が0.06ppmを超えた時間数は、6月が最も多く延べ982時間であり、全局で0.06ppmを超えた。1時間値の最高値は0.148ppm(7月18日15時 倉敷美和局)であった。

短期的評価の結果、全局で環境基準を達成しなかった。

光化学オキシダント注意報発令基準である1時間値が0.12ppm以上となった時間数は33時間であった。

光化学オキシダント情報等の発令状況について、情報Ⅰが10回発令され、そのうち情報Ⅱが9回、注意報が8回発令された。平成29年度と比較して、情報Ⅰの発令回数は3回増加、情報Ⅱ及び注意報の発令回数は各4回増加した。

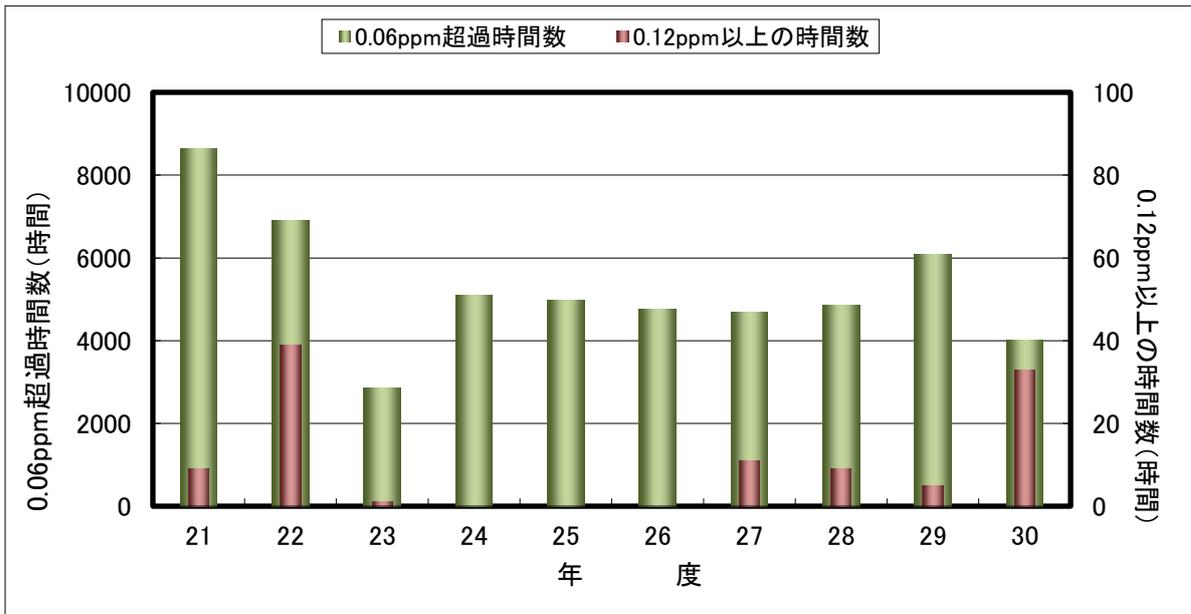


図 3-7 全局0x濃度0.06ppm超過時間数と0.12ppm以上の時間数の経年変化

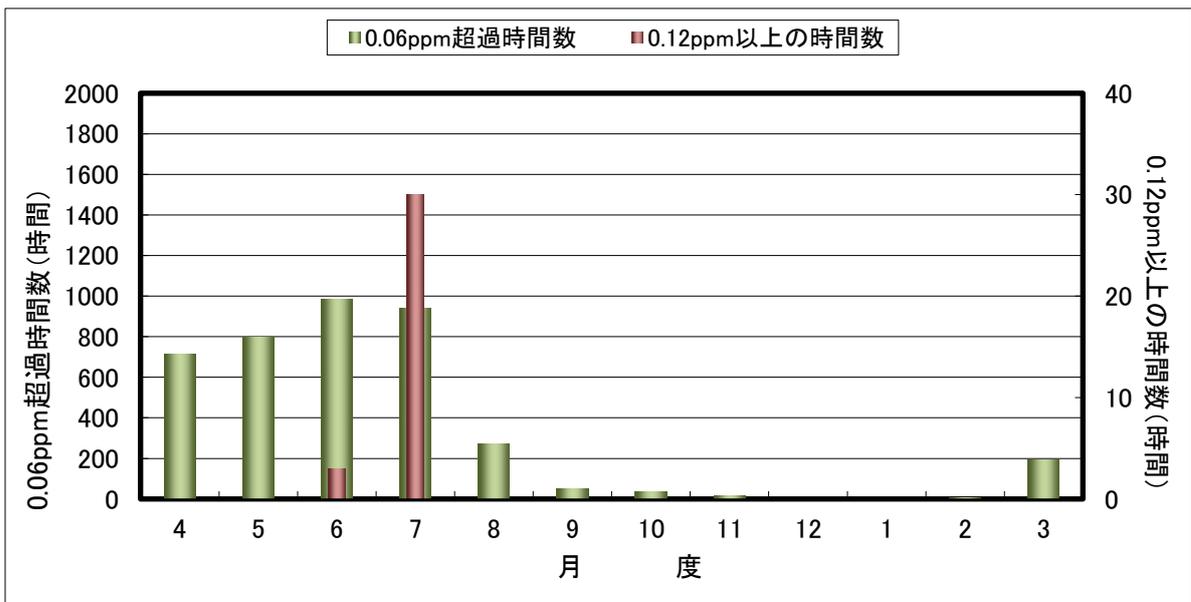


図 3-8 全局0x濃度0.06ppm超過時間数と0.12ppm以上の時間数の経月変化

## オ 浮遊粒子状物質 (SPM)

測定した17局の年平均値は0.015～0.023mg/m<sup>3</sup>の範囲にあった。全局の年平均値は0.019mg/m<sup>3</sup>であった。年平均値が最も高かったのは、松江局 (0.023mg/m<sup>3</sup>) であった。

図3-9に全局の年平均値の経年変化を示す。全局の年平均値は、最近10年間は緩やかな改善傾向である。

図3-10に月平均値の経月変化を示す。月平均値は、7月が最も高く0.029mg/m<sup>3</sup>であり、1月が最も低く0.013mg/m<sup>3</sup>であった。通年では、春季から夏季にかけて上昇し7月にピークとなった後、冬季にかけて低下する傾向にあった。

1時間値の最高値は0.228mg/m<sup>3</sup> (7月23日20時 春日局) であり、1日平均値の最高値は0.084mg/m<sup>3</sup> (7月17日 春日局) であった。

1時間値の短期的評価基準値0.20mg/m<sup>3</sup>を超えた時間数はのべ2時間 (0.228mg/m<sup>3</sup> (春日局)、0.212mg/m<sup>3</sup> (春日局)) であり、7月23日と7月27日に発生した。平成29年度と比較すると2時間減少した。1日平均値の短期的評価基準値0.10mg/m<sup>3</sup>を超えた日は0日であり、平成29年度と同値であった。

1日平均値の2%除外値の最高値は0.042～0.063mg/m<sup>3</sup>の範囲にあり、いずれも0.10mg/m<sup>3</sup>以下であった。最高値 (0.063mg/m<sup>3</sup>) は松江局であった。1日平均値が0.10mg/m<sup>3</sup>を超える日が2日以上連続した測定局はなかった。

長期的評価の結果、全17局で環境基準を達成した。

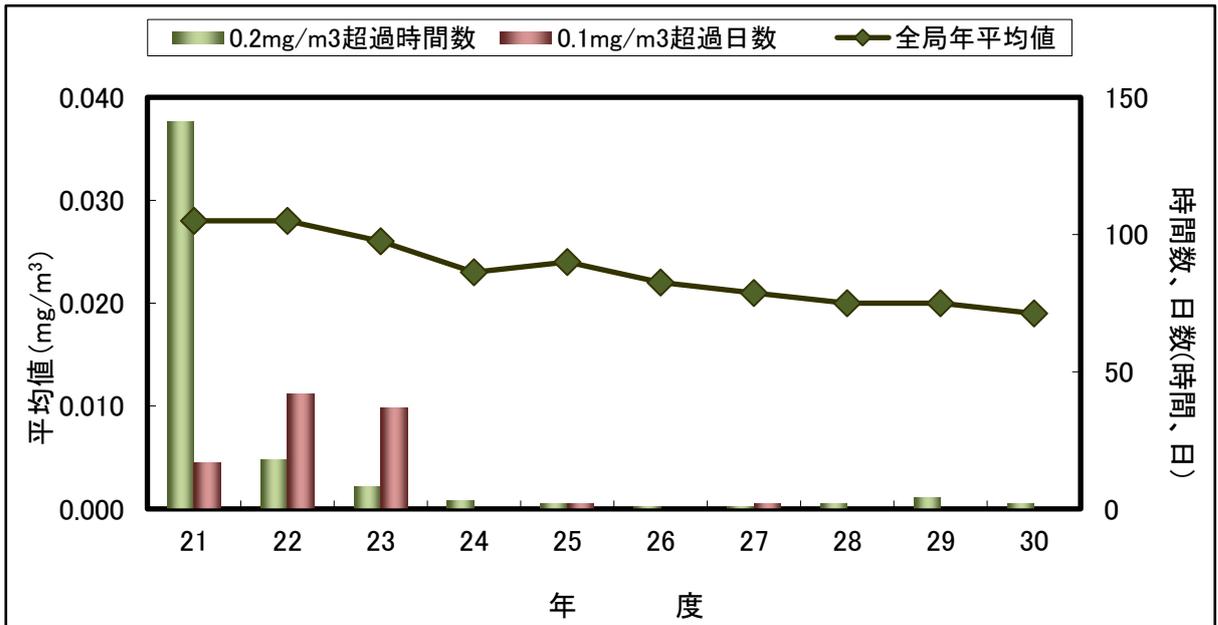


图 3-9 全局SPM濃度年平均値、0.2mg/m<sup>3</sup>超過時間数及び0.1mg/m<sup>3</sup>超過日数の経年変化

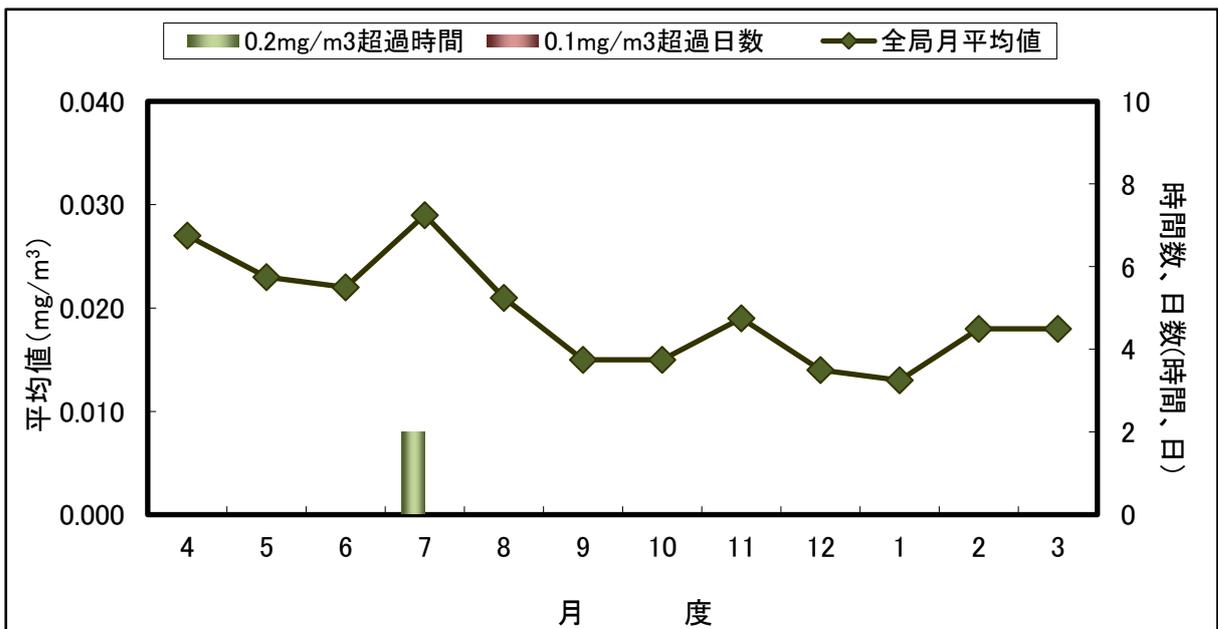


图 3-10 全局SPM濃度月平均値、0.2mg/m<sup>3</sup>超過時間数及び0.1mg/m<sup>3</sup>超過日数の経月変化

## カ 非メタン炭化水素（NMHC）

測定したのは一般環境大気測定局では倉敷美和局及び監視センター局の2局であった。

図3-11に6時から9時までの3時間平均値（以下「3時間平均値」という。）の年平均値の経年変化を示す。年平均値は、倉敷美和局0.13ppmC、監視センター局は0.11ppmCであった。最近10年間は緩やかな改善傾向である。

図3-12に3時間平均値の月平均値の経月変化を示す。月平均値は、倉敷美和局及び監視センター局において、それぞれ2月にピークとなっており、秋季から冬季にかけて上昇する傾向であった。

3時間平均値が0.31ppmCを超えた日数は倉敷美和局が6日、監視センター局が1日であり、平成29年度と比較してそれぞれ同日、1日増加であった。両局で指針値を超えた。

3時間平均値が0.20ppmC、0.31ppmCを超えた日数の割合は、それぞれ倉敷美和局が12.1%、1.7%、監視センター局が5.2%、0.3%であった。平成29年度と比較してそれぞれ倉敷美和局が5.7%低下、同割合、監視センター局が2.1%改善、0.3%低下であった。

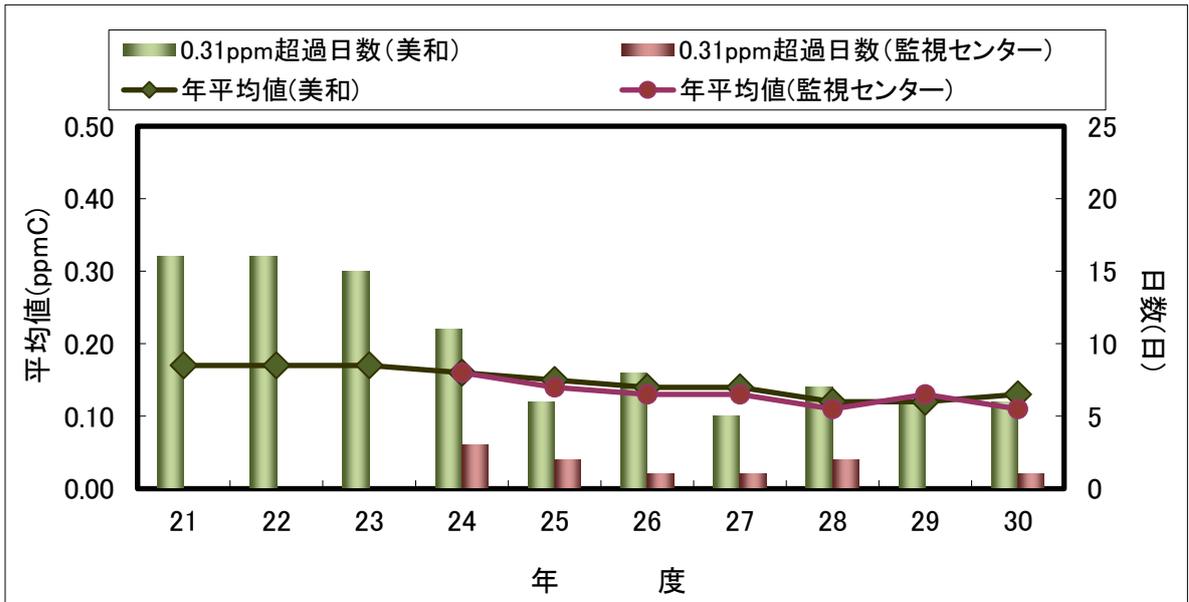


図 3-11 NMHC濃度と0.31ppmC超過日数の経年変化

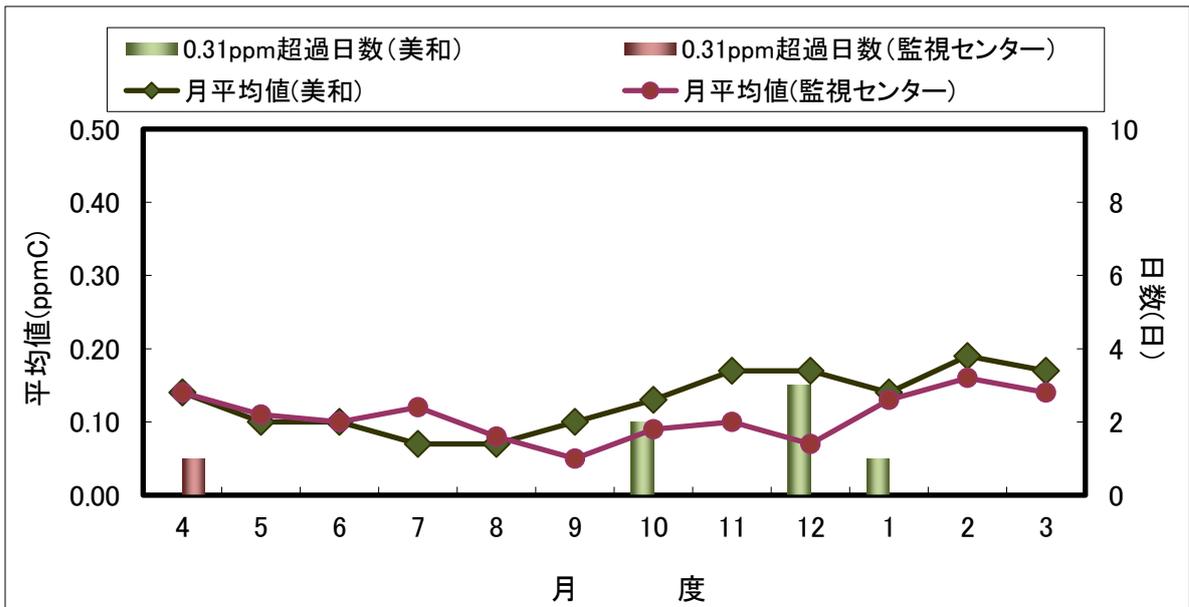


図 3-12 NMHC6-9時の3時間濃度の月平均値と0.31ppmC超過日数の経月変化

## キ 微小粒子状物質 (PM2.5)

有効測定局である8局の年平均値は $12.1\sim 16.9\mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、松江局及び茶屋町局で年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えていた。全局の年平均値は $14.7\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。年平均値が最も高かったのは、松江局 ( $16.9\mu\text{g}/\text{m}^3$ ) であった。

図3-13に月平均値の経月変化を示す。月平均値は、4月が最も高く $20.0\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、9月が最も低く $9.0\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。

1日平均値の最高値は $49.9\mu\text{g}/\text{m}^3$  (5月18日 松江局) であった。

1日平均値は全局で $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日があり、その割合は $1.7\sim 6.4\%$ の範囲にあった。1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数が最も多かったのは松江局 (23日) であった。全局では延べ91日であった。

年間にわたる1日平均値のうち低い方から98%に相当する値は、 $30.8\sim 41.4\mu\text{g}/\text{m}^3$ の範囲にあり、倉敷美和局、監視センター局、松江局、児島局、茶屋町局及び庄局で1日平均値の98%値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えていた。

長期的評価の結果、塩生局及び玉島局の2局で環境基準を達成した。

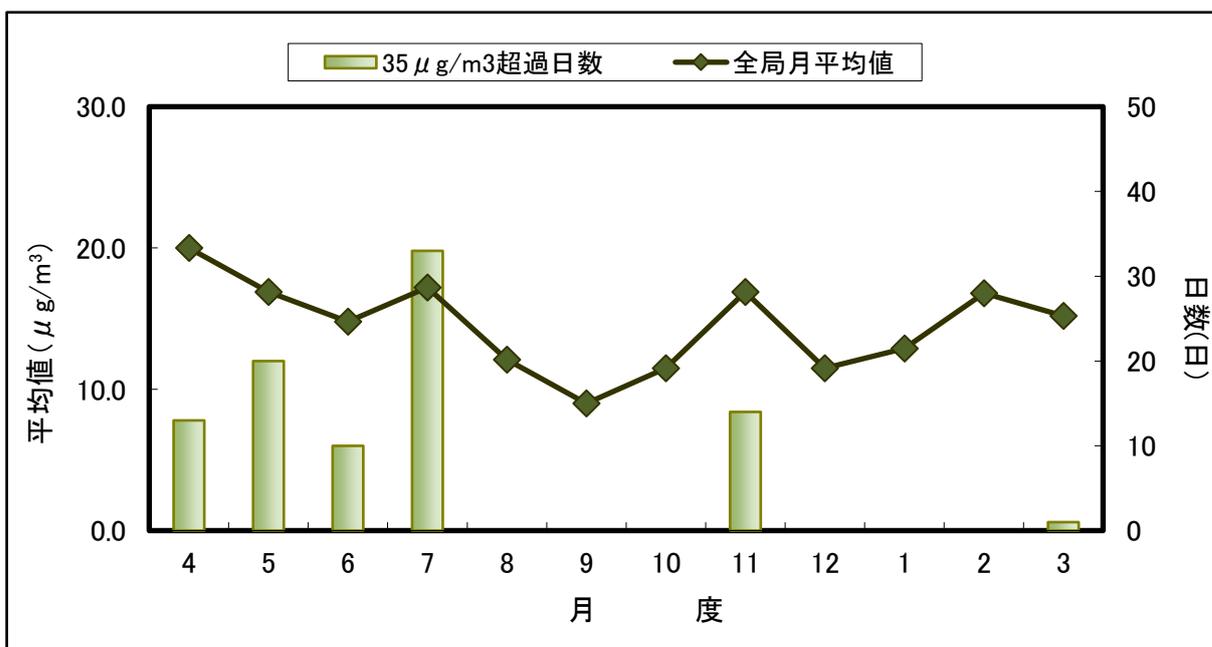


図3-13 全局PM2.5濃度月平均値と $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過日数の経月変化

## (2) 自動車排出ガス測定局

### ア 窒素酸化物

#### (ア) 二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>)

測定した3局の年平均値は0.012～0.014ppmの範囲にあり、全局の年平均値は0.013ppmであった。年平均値の最も高かったのは駅前局(0.014ppm)であった。

図3-14に年平均値の経年変化を示す。年平均値は、一般環境大気測定局と同様、最近10年間は緩やかな改善傾向である。

図3-15に月平均値の経月変化を示す。月平均値は、1月及び4月が0.016ppmで最も高く、8月が0.008ppmで最も低かった。通年では、春季から夏季にかけて低下し、秋季から冬季にかけて上昇していた。

1時間値の最高値は0.058ppm(4月20日13時 大高局)であり、1日平均値の最高値は0.029ppm(11月27日及び1月30日 駅前局)であった。

1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内となった日は、平成29年度に引き続き0日であった。1日平均値の年間98%値の最高値は0.026ppm(大高局)であり、1日平均値の最高値が0.06ppmを超えた測定局はなかった。

長期的評価の結果、全局で環境基準を達成した。

#### (イ) 一酸化窒素 (NO)

測定した3局の年平均値は0.004～0.007ppmの範囲にあり、全局の年平均値は0.005ppmであった。年平均値の最も高かったのは駅前局(0.007ppm)であった。

図3-14に年平均値の経年変化を示す。年平均値は、一般環境大気測定局と同様、最近10年間は緩やかな改善傾向である。

図3-15に月平均値の経月変化を示す。月平均値は、12月が0.009ppmで最も高く、5月及び9月が0.003ppmで最も低かった。通年では、秋季から冬季にかけて上昇した。

1時間値の最高値は0.078ppm(12月20日10時 駅前局)であり、1日平均値の最高値は0.045ppm(12月20日 駅前局)であった。

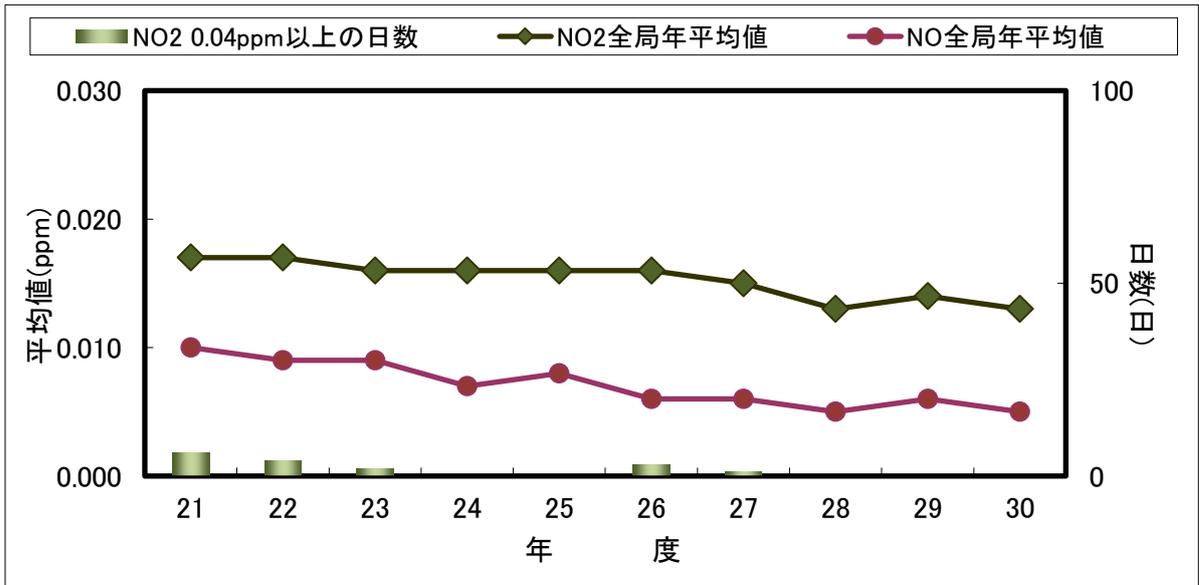


図 3-14 全局NO<sub>2</sub>、NO濃度年平均値とNO<sub>2</sub>濃度0.04ppm以上の日数の経年変化

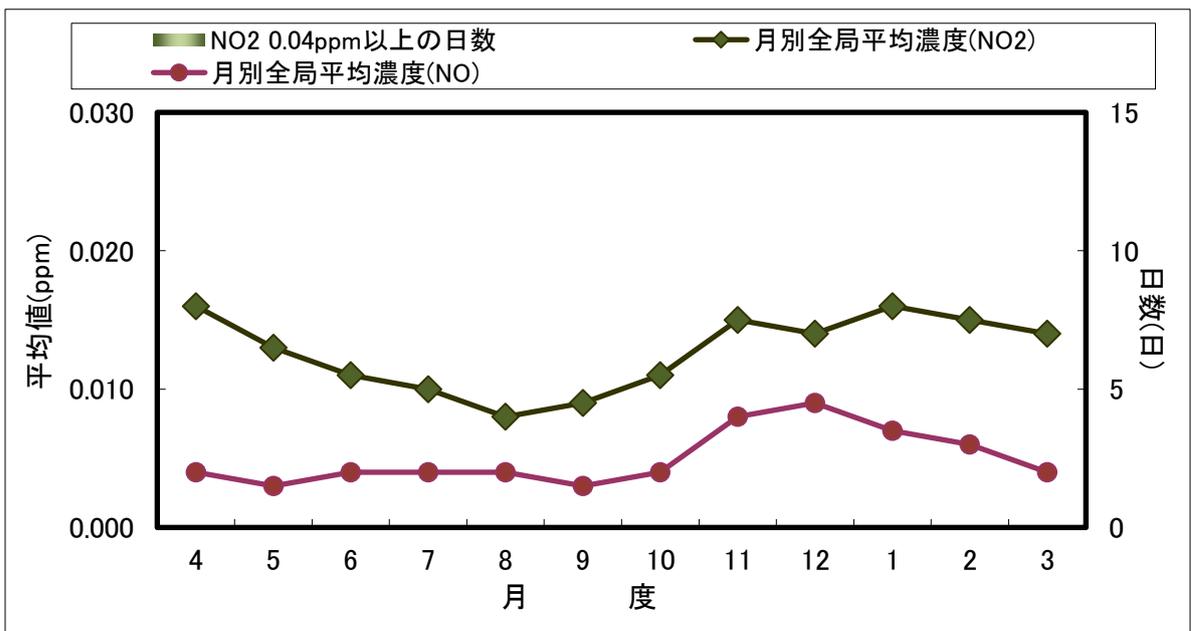


図 3-15 全局NO<sub>2</sub>、NO濃度月平均値とNO<sub>2</sub>濃度0.04ppm以上の日数の経月変化

## イ 一酸化炭素 (CO)

測定した3局の年平均値はいずれも0.3ppmであり、全局の年平均値は0.3ppmであった。

図3-16に年平均値の経年変化を示す。年平均値は、最近10年間はほぼ横ばいである。

図3-17に月平均値の経月変化を示す。月平均値は、11月、12月、1月、2月及び3月が0.4ppmで高く、8月が0.2ppmで低かった。8時間値の最高値は1.1ppm(12月20日17時から24時 大高局)、1日平均値の最高は0.7ppm(12月20日 駅前局、大高局 3月27日、3月30日 西坂局)であった。

短期的評価基準の超過はなかった。1日平均値の2%除外値の最高値は0.6ppm(駅前局、大高局)であった。

長期的評価の結果、全局で環境基準を達成した。

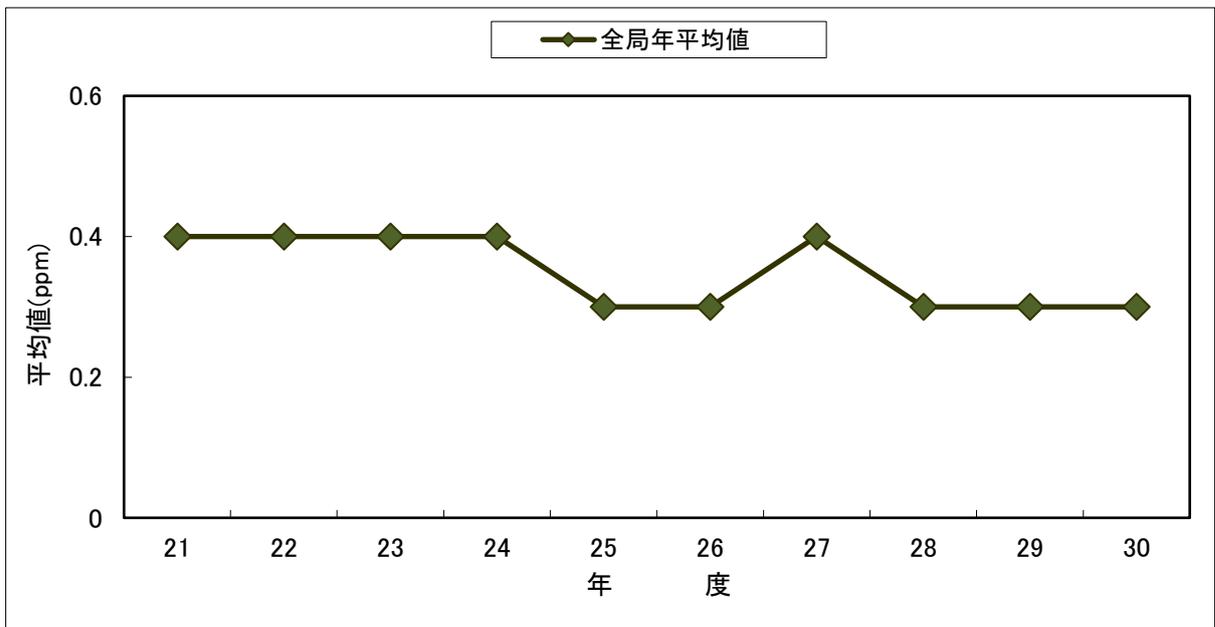


図 3-16 全局CO濃度年平均値の経年変化

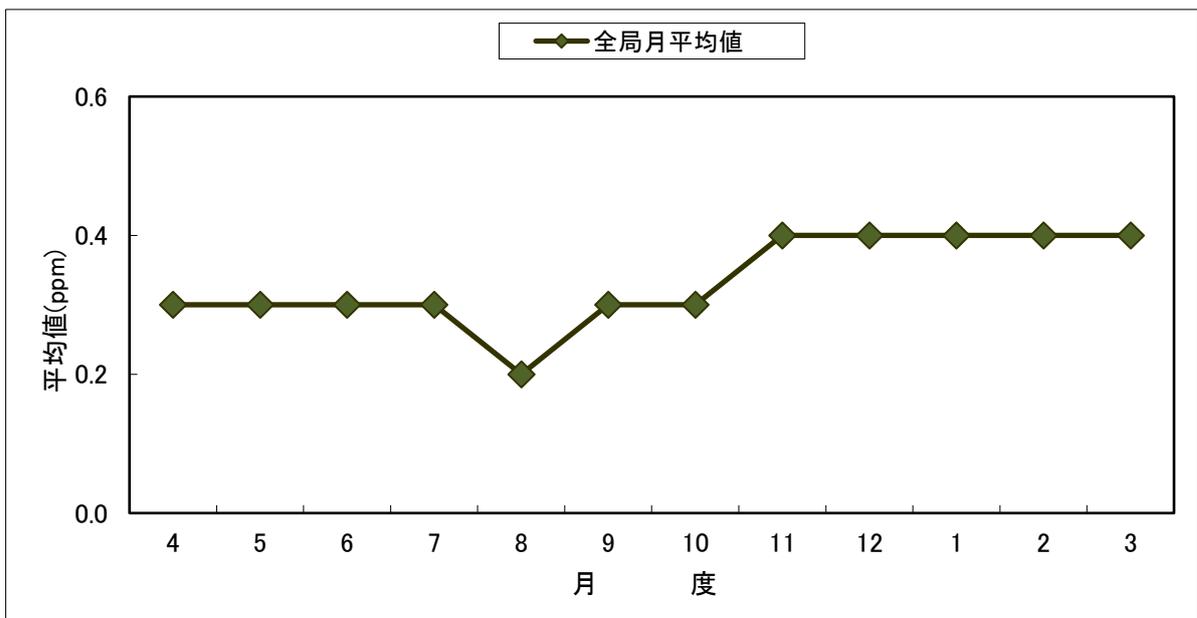


図 3-17 全局CO濃度月平均値の経月変化

## ウ 浮遊粒子状物質 (SPM)

測定した2局の年平均値はいずれも $0.019\text{mg}/\text{m}^3$ であり、全局の年平均値は $0.019\text{g}/\text{m}^3$ であった。

図3-18に年平均値の経年変化を示す。年平均値は、最近10年間は穏やかな改善傾向である。

図3-19に月平均値の経月変化を示す。月平均値は、7月が最も高く $0.031\text{mg}/\text{m}^3$ で、12月及び1月が最も低く $0.013\text{mg}/\text{m}^3$ であった。

1時間値の最高値は $0.154\text{mg}/\text{m}^3$ （5月18日19時 大高局）であり、1日平均値の最高値は $0.082\text{mg}/\text{m}^3$ （5月18日 大高局）であった。

1時間値が $0.20\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた時間数は0時間で、平成29年度と同値であった。1日平均値が $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数はなく、平成29年度と同様であった。

短期的評価基準の超過はなかった。

1日平均値の2%除外値の最高値は $0.049\sim 0.052\text{mg}/\text{m}^3$ の範囲にあり、いずれも $0.10\text{mg}/\text{m}^3$ 以下であった。

長期的評価の結果、全局で環境基準を達成した。

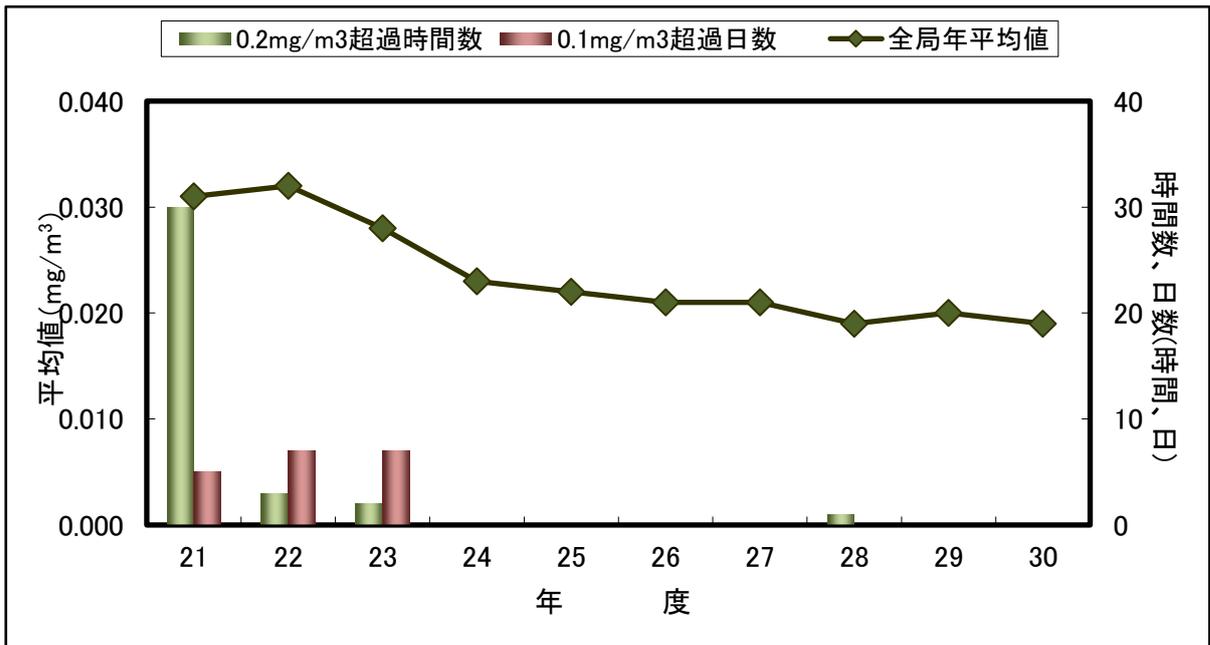


図 3-18 全局SPM濃度年平均値と0.2mg/m³超過時間数、0.1mg/m³超過日数の経年変化

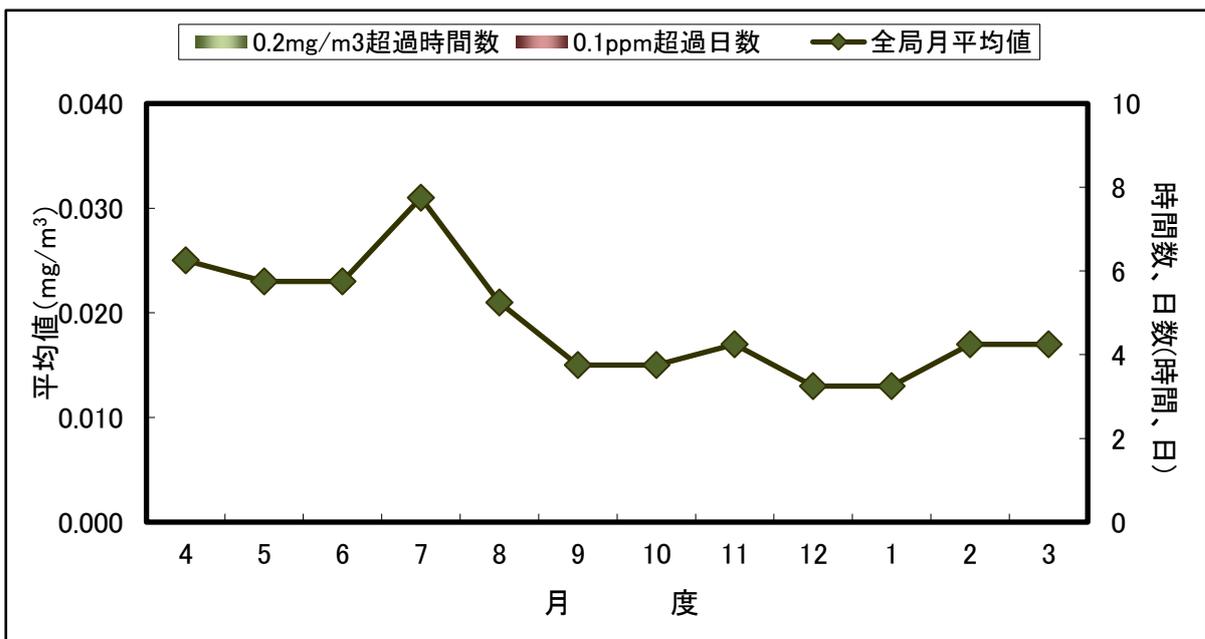


図 3-19 全局SPM濃度月平均値と0.2mg/m³超過時間数、0.1mg/m³超過日数の経月変化

## エ 非メタン炭化水素 (NMHC)

自動車排出ガス測定局では、駅前局1局で測定した。

図3-20に3時間平均値の年平均値の経年変化を示す。年平均値は0.13ppmCであった。最近10年間は穏やかな改善傾向である。

図3-21に3時間平均値の月平均値の経月変化を示す。月平均値は、11月が最も高く0.18ppmCであり、8月が最も低く0.09ppmCであった。

3時間平均値が指針の上限値である0.31ppmCを超えた日数は1日であり、平成29年度と比較して3日減少した。

3時間平均値が0.20ppmCを超えた日数の割合は10.7%であり、平成29年度と比較すると2.8%低下した。0.31ppmCを超えた日数の割合は、0.3%であり、平成29年度と比較すると0.8%低下した。

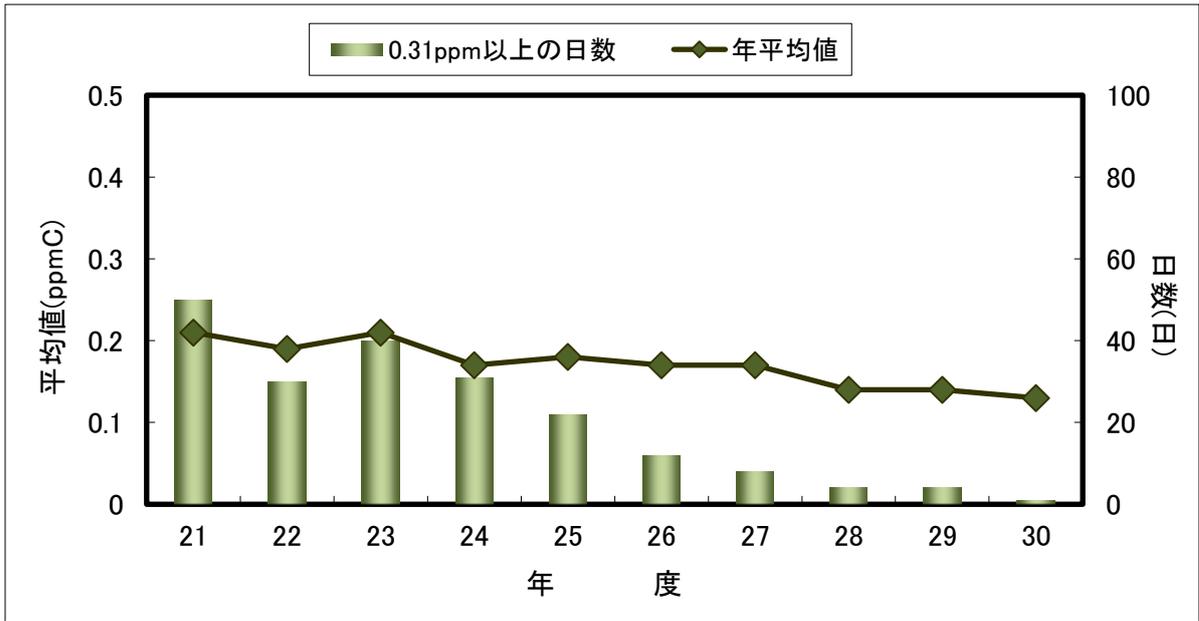


図 3-20 駅前局NMHC6-9時の3時間値年平均濃度と0.31ppmC超過日数の経年変化

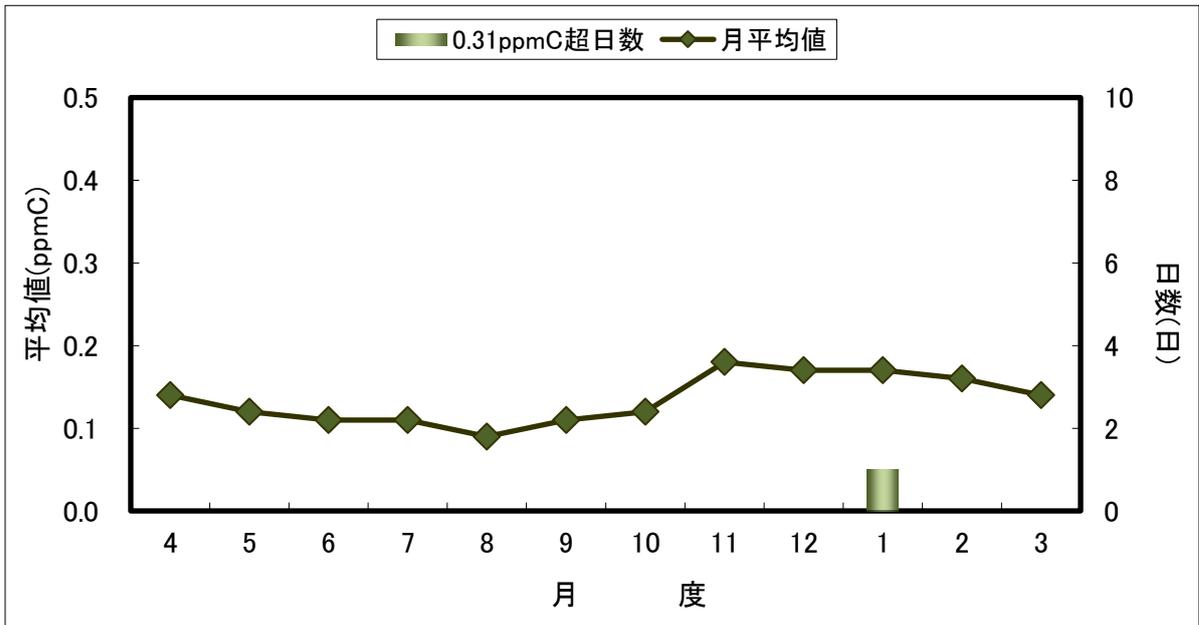


図 3-21 駅前局NMHC6-9時の3時間値月平均濃度と0.31ppmC超過日数の経月変化

## オ 微小粒子状物質 (PM2.5)

平成30年度の微小粒子状物質の測定局は、大高局1局で測定した。

年平均値は $14.9\mu\text{g}/\text{m}^3$ であり、1日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数は12日であった。

図3-22に月平均値及び $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ の超過日数の経月変化を示す。

月平均値は、4月が最も高く $21.2\mu\text{g}/\text{m}^3$ で、9月が最も低く $8.9\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。1日平均値の最高値は $47.0\mu\text{g}/\text{m}^3$  (5月18日)であった。

年間にわたる1日平均値のうち低い方から98%に相当する値は $37.7\mu\text{g}/\text{m}^3$ であった。

長期的評価の結果、環境基準を達成しなかった。

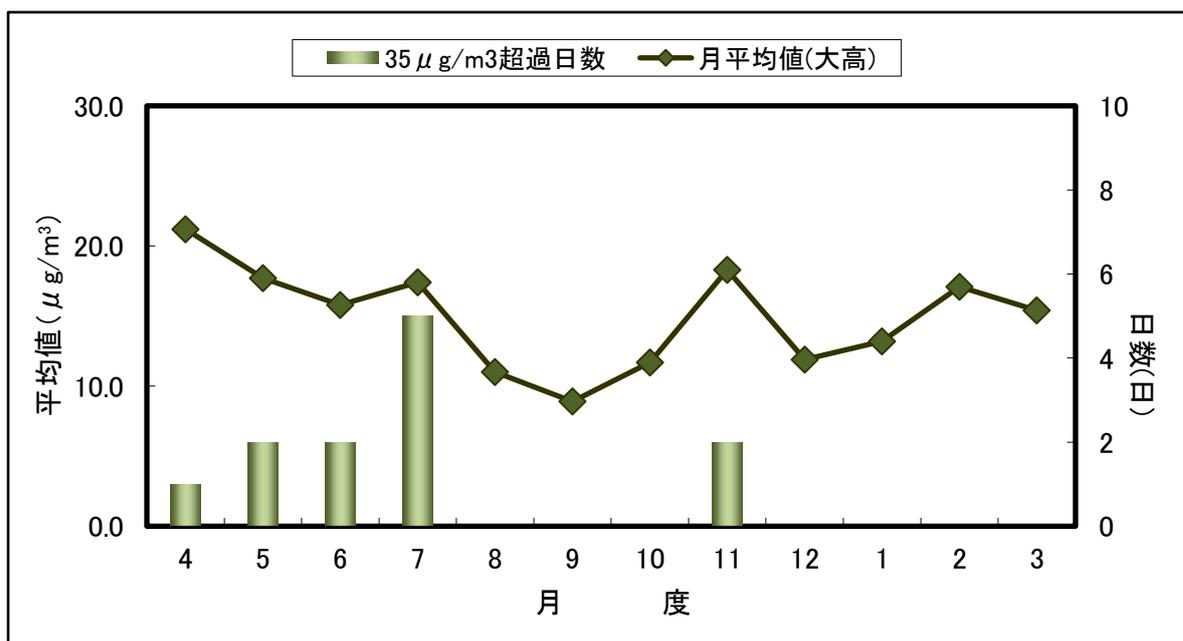


図3-22 大高局PM2.5濃度月平均値と $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超過日数の経月変化

## 4 添付資料

### (1) 環境基準達成状況

表 4-1-1 環境基準達成状況（二酸化硫黄、二酸化窒素）

局名	二酸化硫黄							二酸化窒素			
	(短期的評価)				(長期的評価)			(長期的評価)			
	適否	1時間値 最高値 (ppm)	適否	1日平均値 最高値 (ppm)	適否	連続 2日 超過	2%除外値 (ppm)	年平均値 (ppm)	適否	98%値 (ppm)	年平均値 (ppm)
基準値		0.1		0.04			0.04	-		0.06	-
一般環境大気測定局											
倉敷美和	○	0.029	○	0.013	○	無	0.010	0.004	○	0.024	0.011
監視センター	○	0.072	○	0.020	○	無	0.016	0.006	○	0.031	0.014
春日	○	0.049	○	0.019	○	無	0.014	0.005	○	0.024	0.011
連島	○	0.067	○	0.012	○	無	0.009	0.005	○	0.023	0.010
塩生	○	0.063	○	0.018	○	無	0.013	0.007	○	0.028	0.014
松江	○	0.053	○	0.017	○	無	0.014	0.005	○	0.027	0.013
福田	○	0.050	○	0.016	○	無	0.014	0.005	○	0.025	0.010
西阿知	○	0.085	○	0.016	○	無	0.010	0.004	○	0.018	0.009
玉島	○	0.022	○	0.010	○	無	0.007	0.004	○	0.021	0.011
船穂	○	0.033	○	0.012	○	無	0.009	0.004	○	0.019	0.009
真備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
児島	○	0.030	○	0.013	○	無	0.010	0.005	○	0.024	0.011
郷内	○	0.029	○	0.013	○	無	0.009	0.004	○	0.021	0.009
天城	○	0.027	○	0.012	○	無	0.010	0.004	○	0.023	0.010
茶屋町	○	0.026	○	0.011	○	無	0.010	0.004	○	0.034	0.014
庄	-	-	-	-	-	-	-	-	○	0.018	0.009
豊洲	○	0.038	○	0.015	○	無	0.012	0.004	○	0.027	0.014
広江	○	0.041	○	0.014	○	無	0.012	0.005	-	-	-
呼松	○	0.040	○	0.016	○	無	0.014	0.006	-	-	-
宇野津	○	0.043	○	0.013	○	無	0.012	0.005	-	-	-
田の口	○	0.029	○	0.017	○	無	0.012	0.005	-	-	-
一般局	100%	0.085	100%	0.020	100%	-	-	0.005	100%	-	0.011
自動車排出ガス測定局											
駅前	-	-	-	-	-	-	-	-	○	0.025	0.014
大高	-	-	-	-	-	-	-	-	○	0.026	0.012
西坂	-	-	-	-	-	-	-	-	○	0.023	0.012
自排局	-	-	-	-	-	-	-	-	100%	-	0.013
全局	100%	0.085	100%	0.020	100%	-	-	0.005	100%	-	0.011

(注)短期的評価の適否は、年間で全ての1時間値の1日平均若しくは8時間平均値又は各1時間値が環境基準値以下であるかを表す。

表 4-1-2 環境基準達成状況（一酸化炭素、光化学オキシダント）

局名	一酸化炭素							光化学オキシダント			
	（短期的評価）				（長期的評価）			（短期的評価）			
	適否	8時間値 最高値 (ppm)	適否	1日平均値 最高値 (ppm)	適否	連続 2日 超過	2%除外値 (ppm)	年平均値 (ppm)	適否	1時間値 最高値 (ppm)	年平均値 (ppm)
基準値	20		10			10	-		0.06	-	
一般環境大気測定局											
倉敷美和	○	1.0	○	0.7	○	無	0.6	0.3	×	0.148	0.034
監視センター	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.096	0.027
春日	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.128	0.032
連島	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.106	0.031
塩生	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.098	0.029
松江	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.110	0.028
福田	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.121	0.026
西阿知	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.129	0.032
玉島	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.132	0.030
船穂	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.138	0.034
真備	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.132	0.041
児島	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.106	0.032
郷内	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.111	0.031
天城	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.109	0.026
茶屋町	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.108	0.026
庄	-	-	-	-	-	-	-	-	×	0.143	0.03
豊洲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広江	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
呼松	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宇野津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
田の口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
一般局	100%	1.0	100%	0.7	100%	-	-	0.3	0%	0.148	0.031
自動車排出ガス測定局											
駅前	○	0.9	○	0.7	○	無	0.6	0.3	-	-	-
大高	○	1.1	○	0.7	○	無	0.6	0.3	-	-	-
西坂	○	0.8	○	0.7	○	無	0.5	0.3	-	-	-
自排局	100%	0.9	100%	0.7	100%	-	-	0.3	-	-	-
全局	100%	1.0	100%	0.7	100%	-	-	0.3	0%	-	0.031

表 4-1-3 環境基準達成状況（浮遊粒子状物質、微小粒子状物質）

局名	浮遊粒子状物質								微小粒子状物質		
	（短期的評価）				（長期的評価）				（長期的評価）		
	適否	1時間値 最高値 (mg/m3)	適否	1日平均値 最高値 (mg/m3)	適否	連続 2日 超過	2%除外値 (mg/m3)	年平均値 (mg/m3)	適否	98%値 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )	年平均値 ( $\mu\text{g}/\text{m}^3$ )
基準値		0.20		0.10			0.10	-		35	15
一般環境大気測定局											
倉敷美和	○	0.143	○	0.053	○	無	0.044	0.017	×	37.3	14.4
監視センター	○	0.155	○	0.077	○	無	0.062	0.021	×	41.0	14.8
春日	×	0.228	○	0.084	○	無	0.062	0.022	-	-	-
連島	○	0.144	○	0.068	○	無	0.053	0.019	-	-	-
塩生	○	0.131	○	0.062	○	無	0.047	0.021	○	34.8	14.8
松江	○	0.167	○	0.077	○	無	0.063	0.023	×	41.4	16.9
福田	○	0.166	○	0.062	○	無	0.049	0.017	-	-	-
西阿知	○	0.151	○	0.069	○	無	0.056	0.019	-	-	-
玉島	○	0.117	○	0.063	○	無	0.050	0.019	○	30.8	12.1
船穂	○	0.146	○	0.075	○	無	0.061	0.022	-	-	-
真備	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
児島	○	0.109	○	0.071	○	無	0.050	0.020	×	36.3	14.4
郷内	○	0.141	○	0.059	○	無	0.045	0.017	-	-	-
天城	○	0.109	○	0.073	○	無	0.054	0.021	-	-	-
茶屋町	○	0.156	○	0.069	○	無	0.050	0.021	×	36.4	15.7
庄	○	0.105	○	0.059	○	無	0.042	0.015	×	38.7	14.1
豊洲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広江	○	0.173	○	0.058	○	無	0.049	0.021	-	-	-
呼松	○	0.148	○	0.055	○	無	0.045	0.016	-	-	-
宇野津	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
田の口	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
一般局	94%	0.228	100%	0.084	100%	-	-	0.019	25%	-	14.7
自動車排出ガス測定局											
駅前	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大高	○	0.154	○	0.082	○	無	0.052	0.019	×	37.7	14.9
西坂	○	0.127	○	0.063	○	無	0.049	0.019	-	-	-
自排局	100%	0.154	100%	0.082	100%	-	-	0.019	0%	-	14.9
全局	95%	0.228	100%	0.084	100%	-	-	0.019	22%	-	14.7

(2) 一般環境大気測定局

ア 経年測定データ(平成21年度～平成30年度)

二酸化硫黄 (SO<sub>2</sub>) 経年変化 (年平均値) 単位 : ppm

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
倉敷美和	0.005	0.005	0.004	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004
旧監視センター	0.004	0.004	0.004							
監視センター				0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006
春日	0.005	0.005	0.005	0.005	0.006	0.005	0.005	0.005	0.006	0.005
連島	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
塩生	0.007	0.008	0.008	0.007	0.007	0.006	0.007	0.007	0.007	0.007
松江	0.004	0.008	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005
福田									0.005	0.005
西阿知	0.004	0.005	0.004	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
玉島	0.002	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
船穂	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
児島	0.006	0.007	0.007	0.006	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005
郷内	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
天城	0.003	0.004	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
茶屋町	0.001	0.002	0.005	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004
豊洲	0.001	0.002	0.002	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.004
広江	0.005	0.006	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.007	0.005
呼松	0.007	0.007	0.007	0.007	0.007	0.007	0.008	0.006	0.006	0.006
宇野津	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
田の口	0.005	0.005	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005	0.006	0.005	0.005
港湾局	0.007	0.006	0.006							
二福	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005		
全局平均	0.005	0.005	0.005	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.005
0.1ppm超時間数	7	0	0	1	3	1	5	2	4	0
0.04ppm超日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) 経年変化 (年平均値) 単位 : ppm

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
倉敷美和	0.016	0.015	0.014	0.014	0.014	0.013	0.012	0.011	0.011	0.011
旧監視センター	0.013	0.013	0.014							
監視センター				0.016	0.019	0.015	0.016	0.014	0.015	0.014
春日	0.016	0.015	0.015	0.014	0.014	0.013	0.013	0.012	0.012	0.011
連島	0.015	0.015	0.014	0.013	0.013	0.012	0.012	0.011	0.011	0.010
塩生	0.017	0.016	0.016	0.016	0.017	0.015	0.015	0.014	0.015	0.014
松江	0.017	0.017	0.016	0.016	0.016	0.015	0.015	0.013	0.014	0.013
福田									0.011	0.010
西阿知	0.013	0.014	0.012	0.012	0.013	0.011	0.011	0.010	0.010	0.009
玉島	0.015	0.014	0.014	0.014	0.015	0.014	0.013	0.012	0.012	0.011
船穂	0.014	0.013	0.013	0.012	0.012	0.010	0.010	0.008	0.009	0.009
真備	0.008	0.008	0.007	0.007	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	(0.006)
児島	0.016	0.015	0.015	0.014	0.014	0.013	0.013	0.012	0.012	0.011
郷内	0.013	0.013	0.012	0.013	0.015	0.012	0.011	0.010	0.010	0.009
天城	0.013	0.013	0.013	0.013	0.013	0.011	0.010	0.010	0.011	0.010
茶屋町	0.012	0.012	0.015	0.015	0.015	0.014	0.012	0.011	0.013	0.014
庄									0.010	0.009
豊洲	0.017	0.017	0.016	0.016	0.018	0.017	0.016	0.014	0.015	0.014
全局平均	0.014	0.014	0.014	0.014	0.014	0.013	0.012	0.011	0.011	0.010
0.04ppm以上日数	17	5	2	4	7	6	1	0	2	1

一酸化窒素 (NO) 経年変化 (年平均値)

単位 : ppm

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
倉敷美和	0.006	0.005	0.004	0.004	0.004	0.003	0.003	0.002	0.003	0.002
旧監視センター	0.003	0.003	0.003							
監視センター				0.004	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
春日	0.005	0.004	0.005	0.004	0.004	0.003	0.003	0.002	0.003	0.002
連島	0.004	0.003	0.004	0.003	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
塩生	0.006	0.006	0.006	0.005	0.006	0.005	0.005	0.004	0.004	0.004
松江	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003	0.004	0.003	0.003	0.003
福田									0.002	0.002
西阿知	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
玉島	0.006	0.006	0.006	0.005	0.005	0.004	0.004	0.003	0.003	0.002
船穂	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003	0.002	0.001
真備	0.002	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	(0.001)
児島	0.004	0.004	0.004	0.003	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
郷内	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.002	0.003	0.003	0.003	0.003
天城	0.004	0.004	0.004	0.003	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
茶屋町	0.005	0.004	0.005	0.005	0.004	0.004	0.003	0.003	0.004	0.003
庄									0.003	0.002
豊洲	0.012	0.010	0.010	0.009	0.010	0.008	0.007	0.006	0.007	0.005
全局平均	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003

一酸化炭素 (CO) 経年変化 (年平均値)

単位 : ppm

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
倉敷美和	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3

光化学オキシダント (Ox) 環境基準超過時間数

単位 : 時間

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
倉敷美和	792	749	306	574	575	497	487	456	673	387
旧監視センター	609	489	132							
監視センター				174	158	212	161	163	131	60
春日	700	531	187	549	398	331	301	298	321	282
連島	513	536	144	405	407	352	369	439	432	274
塩生	423	383	91	233	208	160	186	204	265	173
松江	568	332	132	281	267	251	159	225	167	163
福田									300	198
西阿知	728	456	212	414	437	356	460	462	450	344
玉島	739	484	232	327	320	275	296	341	370	254
船穂	526	388	209	275	345	333	469	552	446	370
真備	653	672	429	530	475	543	539	586	609	284
児島	670	506	220	383	423	345	281	318	416	257
郷内	625	438	227	380	371	406	321	144	431	320
天城	425	446	143	189	239	387	244	223	240	142
茶屋町	662	502	197	391	344	321	411	443	357	182
庄									485	315
全局合計	8633	6912	2861	5105	4967	4769	4684	4854	6093	4005
0.12ppm超時間数	9	39	1	0	0	0	11	9	5	33

浮遊粒子状物質（SPM）経年変化（年平均値）

単位：mg/m<sup>3</sup>

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
倉敷美和	0.026	0.026	0.024	0.021	0.021	0.019	0.018	0.022	0.021	0.017
旧監視センター	0.031	0.031	0.029							
監視センター				0.022	0.023	0.022	0.020	0.019	0.019	0.021
春日	0.027	0.030	0.027	0.023	0.026	0.024	0.023	0.021	0.022	0.022
連島	0.028	0.028	0.025	0.024	0.023	0.023	0.022	0.020	0.020	0.019
塩生	0.027	0.027	0.025	0.023	0.023	0.022	0.021	0.021	0.021	0.021
松江	0.029	0.031	0.029	0.028	0.029	0.026	0.026	0.023	0.023	0.023
福田									0.019	0.017
西阿知	0.026	0.025	0.023	0.021	0.022	0.020	0.018	0.019	0.019	0.019
玉島	0.031	0.027	0.023	0.022	0.024	0.022	(0.023)	0.019	0.018	0.019
船穂	0.026	0.025	0.025	0.022	0.023	0.021	0.020	0.019	0.021	0.022
児島	0.027	0.024	0.022	0.021	0.021	0.019	0.018	0.018	0.018	0.020
郷内	0.026	0.026	0.024	0.022	0.024	0.022	0.021	0.018	0.018	0.017
天城	0.026	0.028	0.024	0.022	0.023	0.021	0.019	0.018	0.019	0.021
茶屋町	0.022	0.028	0.026	0.023	0.024	0.022	0.019	0.020	0.021	0.021
庄									0.014	0.015
広江	0.030	0.030	0.029	0.025	0.027	0.026	0.024	0.023	0.023	0.021
呼松	0.030	0.029	0.029	0.024	0.026	0.025	0.024	0.023	0.022	0.016
港湾局	0.031	0.030	0.028							
全局平均	0.028	0.028	0.026	0.023	0.024	0.022	0.021	0.020	0.020	0.019
0.2mg/m <sup>3</sup> 超時間数	141	18	8	3	2	1	1	2	4	2
0.1mg/m <sup>3</sup> 超日数	17	42	37	0	2	0	2	0	0	0

非メタン炭化水素（NMHC）経年変化（6時～9時の3時間平均値の年平均値）

単位：ppmC

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
倉敷美和	0.17	0.17	0.17	0.16	0.15	0.14	0.14	0.12	0.12	0.13
旧監視センター	0.17	0.17	0.16							
監視センター				0.16	0.14	0.13	0.13	0.11	0.13	0.11
0.31ppmC超日数(美)	16	16	15	11	6	8	5	7	6	6
0.31ppmC超日数(セ)	8	4	2							
0.31ppmC超日数(セ)				3	2	1	1	2	0	1

微小粒子状物質（PM2.5）経年変化（年平均値）

単位：μg/m<sup>3</sup>

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
倉敷美和				16.7	18.0	17.2	15.8	14.3	15.1	14.4
監視センター					(18.8)	16.0	15.2	14.4	15.7	14.8
塩生				(29.5)	22.7	23.3	22.6	15.8	15.9	14.8
松江				20.0	23.0	22.1	20.8	18.8	19.2	16.9
玉島				(25.4)	19.0	18.4	17.5	13.6	14.6	12.1
真備					(17.8)	15.2	14.5	13.1	13.8	(15.2)
児島				(27.3)	19.7	21.0	21.1	15.5	15.1	14.4
茶屋町					(19.7)	17.2	16.1	14.6	15.2	15.7
庄									13.8	14.1
全局平均				18.4	20.5	18.8	18	15	15.4	14.7
35μg/m <sup>3</sup> 超日数				78	199	182	192	44	109	91

イ 経月測定データ

S02経月変化（月平均値）

単位：ppm

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
倉敷美和	0.006	0.006	0.005	0.005	0.004	0.003	0.004	0.003	0.003	0.004	0.004	0.004
監視センター	0.009	0.008	0.007	0.008	0.006	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.004	0.006
春日	0.008	0.008	0.006	0.007	0.006	0.003	0.004	0.003	0.003	0.004	0.004	0.005
連島	0.006	0.006	0.005	0.006	0.005	0.004	0.004	0.004	0.003	0.004	0.004	0.004
塩生	0.009	0.008	0.007	0.008	0.006	0.005	0.006	0.005	0.006	0.007	0.006	0.006
松江	0.009	0.008	0.006	0.007	0.006	0.003	0.004	0.004	0.004	0.005	0.004	0.005
福田	0.008	0.007	0.006	0.007	0.006	0.003	0.003	0.003	0.002	0.003	0.003	0.004
西阿知	0.005	0.005	0.004	0.006	0.004	0.002	0.003	0.003	0.002	0.003	0.004	0.004
玉島	0.005	0.005	0.004	0.005	0.004	0.003	0.003	0.003	0.002	0.003	0.003	0.003
船穂	0.006	0.006	0.005	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.004
児島	0.007	0.007	0.005	0.006	0.005	0.004	0.004	0.004	0.004	0.005	0.004	0.005
郷内	0.006	0.006	0.004	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.004
天城	0.006	0.006	0.004	0.004	0.005	0.002	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.004
茶屋町	0.006	0.006	0.005	0.005	0.005	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
豊洲	0.007	0.007	0.005	0.003	0.003	0.002	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003
広江	0.008	0.007	0.006	0.007	0.006	0.003	0.003	0.003	0.002	0.003	0.003	0.004
呼松	0.008	0.008	0.007	0.009	0.009	0.005	0.004	0.004	0.003	0.004	0.004	0.005
宇野津	0.008	0.007	0.006	0.008	0.006	0.003	0.004	0.003	0.003	0.004	0.003	0.004
田の口	0.006	0.006	0.006	0.008	0.006	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.004
全局平均	0.007	0.007	0.005	0.006	0.005	0.003	0.004	0.003	0.003	0.004	0.004	0.004
0.1ppm超時間数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.04ppm超日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

N02経月変化（月平均値）

単位：ppm

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
倉敷美和	0.014	0.011	0.008	0.008	0.006	0.006	0.010	0.016	0.012	0.013	0.013	0.012
監視センター	0.020	0.018	0.015	0.014	0.011	0.010	0.011	0.015	0.014	0.014	0.015	0.016
春日	0.014	0.013	0.010	0.009	0.008	0.007	0.009	0.014	0.012	0.012	0.013	0.012
連島	0.013	0.012	0.010	0.009	0.006	0.005	0.007	0.011	0.011	0.011	0.013	0.013
塩生	0.018	0.015	0.012	0.011	0.008	0.008	0.012	0.015	0.015	0.018	0.015	0.017
松江	0.017	0.015	0.011	0.011	0.010	0.009	0.010	0.014	0.013	0.015	0.014	0.014
福田	0.015	0.013	0.010	0.011	0.009	0.006	0.006	0.008	0.009	0.010	0.011	0.010
西阿知	0.011	0.010	0.009	0.008	0.007	0.007	0.007	0.010	0.010	0.011	0.011	0.010
玉島	0.014	0.012	0.010	0.007	0.007	0.007	0.011	0.013	0.011	0.013	0.013	0.012
船穂	0.012	0.010	0.008	0.008	0.007	0.005	0.007	0.011	0.010	0.011	0.011	0.010
真備	0.007	0.006	0.005	0.005								0.007
児島	0.015	0.014	0.011	0.011	0.007	0.007	0.009	0.012	0.013	0.013	0.013	0.013
郷内	0.013	0.012	0.009	0.008	0.007	0.007	0.007	0.008	0.010	0.011	0.011	0.010
天城	0.013	0.012	0.009	0.009	0.007	0.006	0.008	0.010	0.010	0.011	0.011	0.010
茶屋町	0.025	0.024	0.025	0.014	0.007	0.007	0.008	0.012	0.011	0.012	0.013	0.012
庄	0.012	0.010	0.008	0.008	0.007	0.006	0.008	0.010	0.010	0.010	0.012	0.011
豊洲	0.017	0.015	0.011	0.010	0.008	0.010	0.012	0.017	0.015	0.017	0.017	0.015
全局平均	0.015	0.013	0.011	0.009	0.008	0.007	0.009	0.012	0.012	0.013	0.013	0.012
0.04ppm以上日数	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

N0経月変化（月平均値）

単位：ppm

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
倉敷美和	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.003	0.005	0.004	0.002	0.002
監視センター	0.004	0.003	0.003	0.003	0.003	0.001	0.001	0.002	0.003	0.003	0.003	0.002
春日	0.002	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.001	0.003	0.004	0.003	0.002	0.001
連島	0.002	0.001	0.001	0.002	0.002	0.001	0.001	0.002	0.003	0.002	0.002	0.001
塩生	0.005	0.003	0.002	0.003	0.003	0.002	0.002	0.003	0.006	0.006	0.004	0.004
松江	0.003	0.002	0.002	0.003	0.003	0.001	0.002	0.004	0.006	0.005	0.004	0.003
福田	0.003	0.002	0.002	0.002	0.003	0.001	0.001	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
西阿知	0.001	0.001	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.002	0.003	0.002	0.002	0.001
玉島	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.005	0.004	0.004	0.003	0.001
船穂	0.002	0.001	0.001	0.002	0.001	0.001	0.001	0.002	0.003	0.002	0.002	0.001
真備	0.001	0.000	0.001	0.001								0.001
児島	0.004	0.004	0.004	0.004	0.003	0.002	0.002	0.002	0.003	0.002	0.003	0.002
郷内	0.003	0.002	0.002	0.003	0.003	0.003	0.003	0.005	0.006	0.004	0.003	0.002
天城	0.002	0.001	0.002	0.002	0.002	0.001	0.001	0.002	0.003	0.002	0.002	0.001
茶屋町	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001	0.002	0.005	0.005	0.005	0.004	0.002
庄	0.002	0.002	0.003	0.003	0.003	0.002	0.002	0.004	0.004	0.002	0.002	0.001
豊洲	0.004	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002	0.004	0.012	0.011	0.010	0.006	0.004
全局平均	0.003	0.002	0.002	0.002	0.002	0.001	0.002	0.004	0.004	0.004	0.003	0.002

0x環境基準超過時間数

単位：時間

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
倉敷美和	80	67	89	89	23	9	5	5	0	0	2	18
監視センター	7	3	17	27	2	0	0	0	0	0	0	4
春日	50	43	71	69	20	2	6	6	0	0	1	14
連島	51	56	61	66	23	5	1	0	0	0	1	10
塩生	29	32	45	49	18	0	0	0	0	0	0	0
松江	17	24	49	53	13	1	0	0	0	0	0	6
福田	8	31	63	58	19	5	3	0	0	0	0	11
西阿知	71	89	77	69	15	2	5	1	0	0	0	15
玉島	27	56	62	71	22	4	0	0	0	0	0	12
船穂	64	78	74	83	27	11	6	4	0	0	2	21
真備	80	98	89	0								17
児島	50	52	53	64	19	5	1	0	0	0	0	13
郷内	57	61	81	70	28	7	4	1	0	0	0	11
天城	28	17	24	47	10	0	0	0	0	0	0	16
茶屋町	31	33	52	48	7	0	0	0	0	0	0	11
庄	64	58	75	75	24	1	4	1	0	0	0	13
全局合計	714	798	982	938	270	52	35	18	0	0	6	192
0.12ppm超時間数	0	0	3	30	0	0	0	0	0	0	0	0

CO経月変化（月平均値）

単位：ppm

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
倉敷美和	0.5	0.4	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3

SPM経月変化（月平均値）

単位：mg/m<sup>3</sup>

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
倉敷美和	0.022	0.019	0.019	0.023	0.016	0.012	0.013	0.018	0.012	0.013	0.016	0.015
監視センター	0.026	0.024	0.025	0.034	0.023	0.016	0.017	0.020	0.015	0.014	0.020	0.020
春日	0.028	0.025	0.025	0.036	0.028	0.017	0.016	0.020	0.015	0.013	0.019	0.019
連島	0.025	0.021	0.023	0.030	0.021	0.014	0.014	0.020	0.013	0.013	0.016	0.017
塩生	0.026	0.022	0.022	0.028	0.022	0.016	0.015	0.020	0.017	0.018	0.022	0.021
松江	0.034	0.029	0.028	0.035	0.025	0.017	0.016	0.019	0.016	0.015	0.022	0.022
福田	0.025	0.024	0.021	0.026	0.018	0.012	0.013	0.016	0.011	0.012	0.016	0.016
西阿知	0.025	0.022	0.021	0.030	0.021	0.015	0.014	0.017	0.013	0.012	0.019	0.018
玉島	0.025	0.022	0.022	0.029	0.021	0.015	0.016	0.019	0.014	0.012	0.017	0.017
船穂	0.028	0.024	0.025	0.036	0.027	0.018	0.016	0.019	0.014	0.014	0.018	0.018
児島	0.028	0.022	0.022	0.030	0.022	0.015	0.015	0.017	0.016	0.015	0.020	0.018
郷内	0.024	0.021	0.020	0.027	0.021	0.014	0.012	0.015	0.010	0.009	0.017	0.017
天城	0.029	0.025	0.024	0.033	0.025	0.017	0.016	0.021	0.014	0.013	0.018	0.016
茶屋町	0.026	0.023	0.023	0.029	0.022	0.016	0.017	0.029	0.015	0.013	0.018	0.016
庄	0.022	0.018	0.017	0.025	0.017	0.011	0.011	0.015	0.010	0.011	0.014	0.013
広江	0.031	0.026	0.022	0.025	0.017	0.015	0.016	0.021	0.019	0.018	0.026	0.023
呼松	0.029	0.024	0.020	0.022	0.013	0.010	0.010	0.013	0.012	0.012	0.016	0.015
全局平均	0.027	0.023	0.022	0.029	0.021	0.015	0.015	0.019	0.014	0.013	0.018	0.018
0.2mg/m <sup>3</sup> 超時間数	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
0.1mg/m <sup>3</sup> 超日数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

NMHC経月変化（月平均値）

単位：ppmC

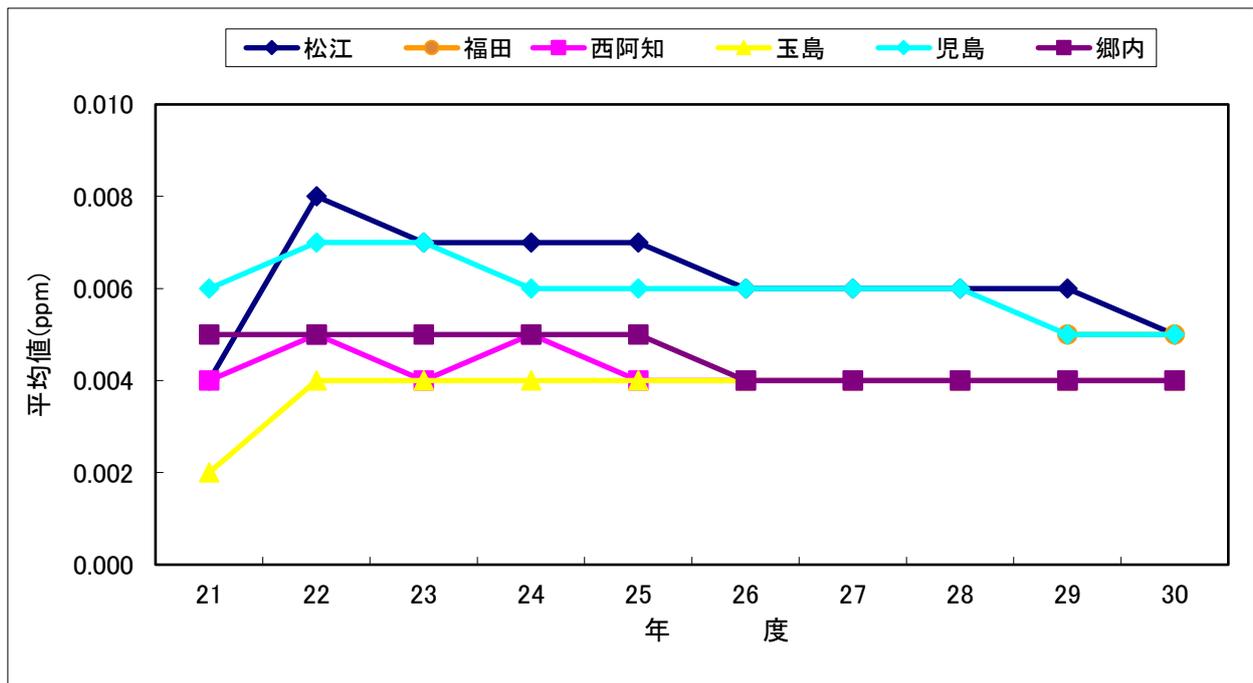
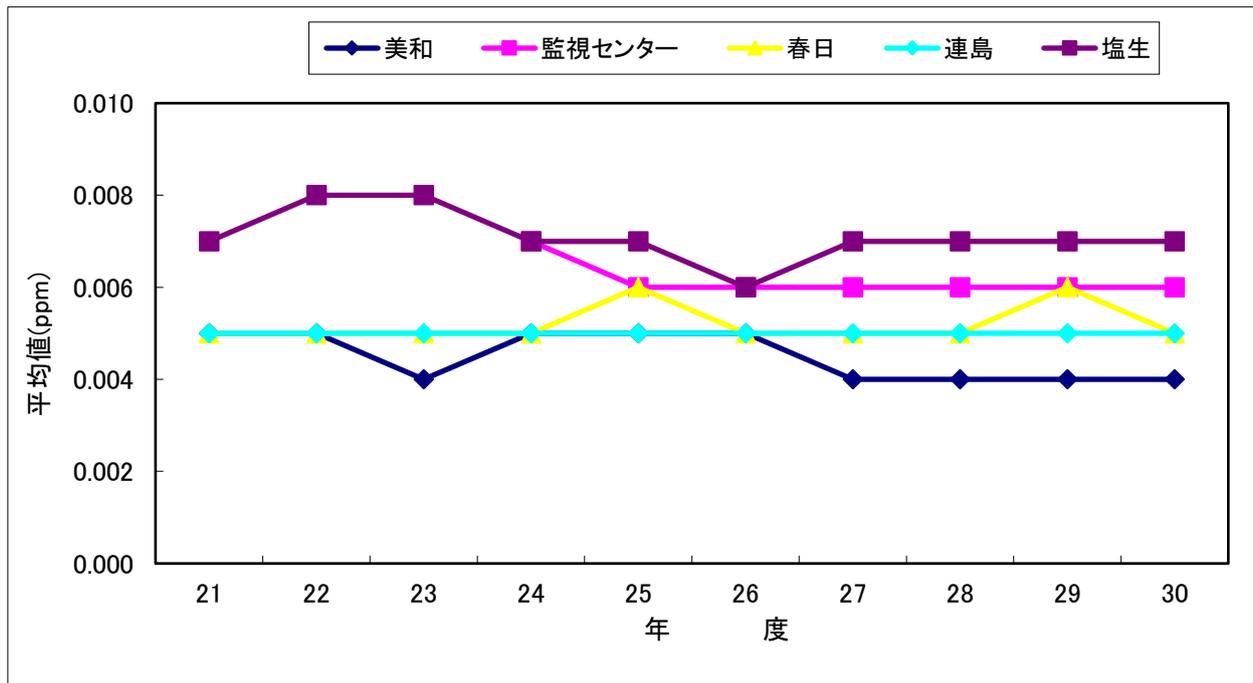
測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
倉敷美和	0.13	0.11	0.11	0.11	0.09	0.10	0.09	0.15	0.12	0.12	0.17	0.16
監視センター	0.14	0.12	0.12	0.15	0.08	0.06	0.08	0.09	0.07	0.12	0.14	0.13
0.31ppmC超日数(美)	0	0	0	0	0	0	2	0	3	1	0	0
0.31ppmC超日数(セ)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

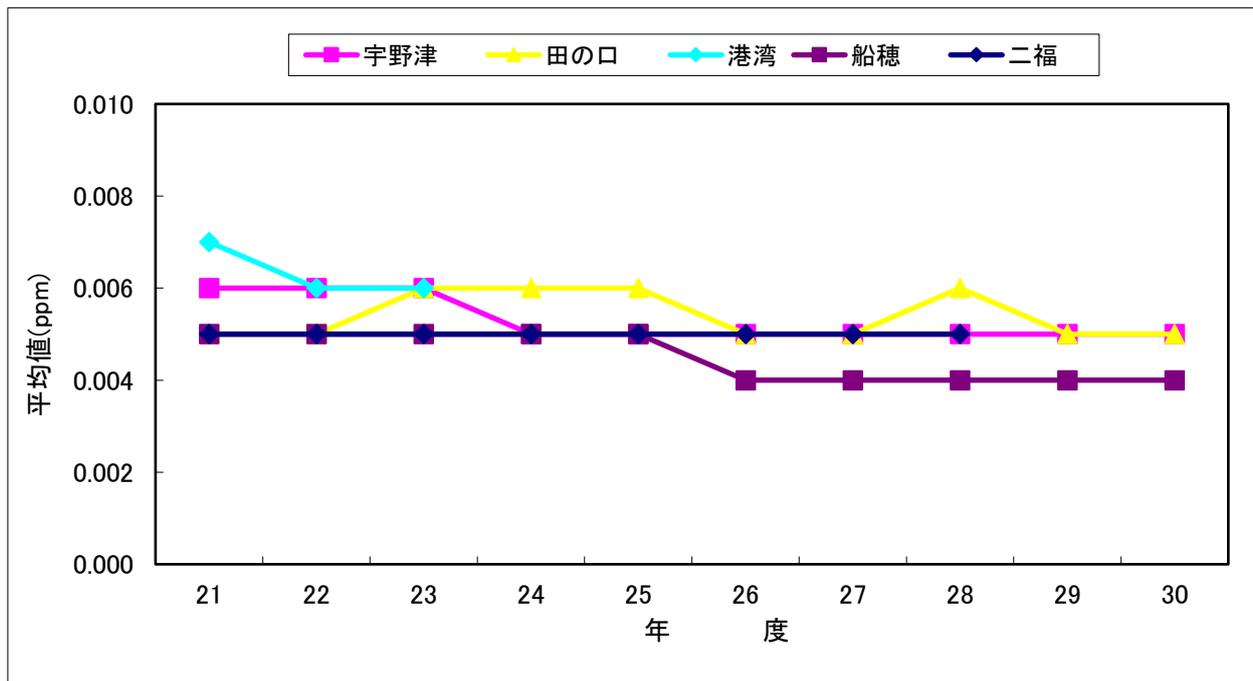
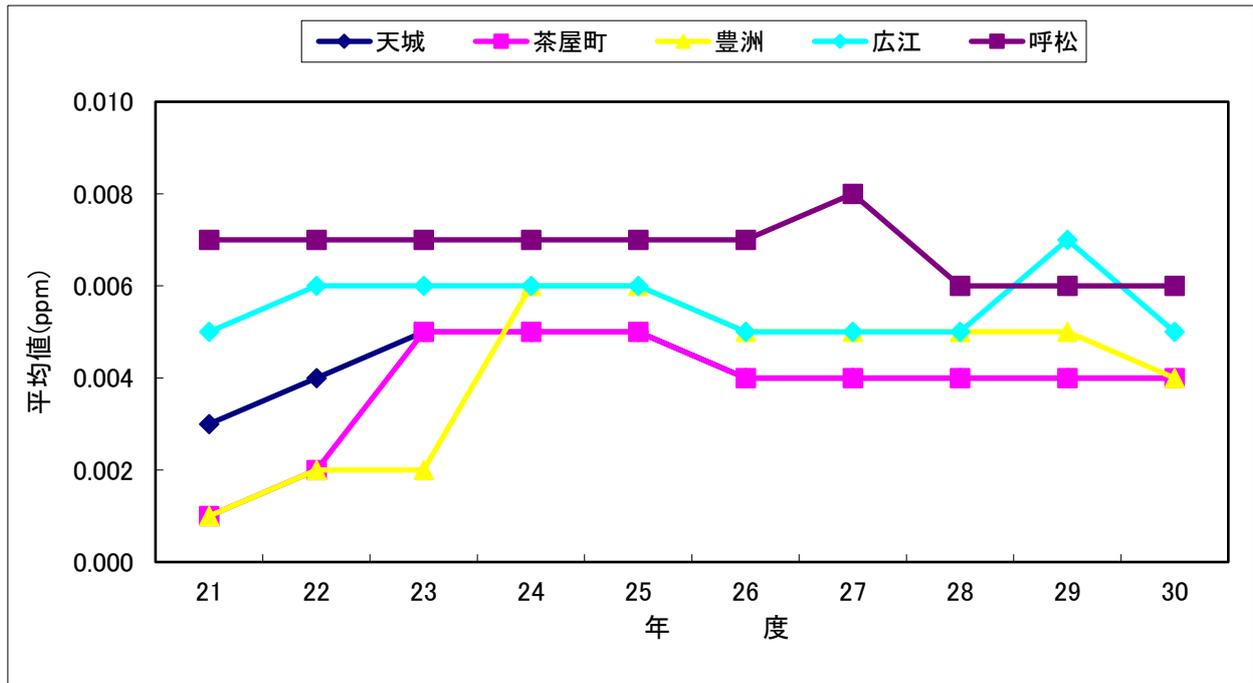
PM2.5経月変化（月平均値）

単位：μg/m<sup>3</sup>

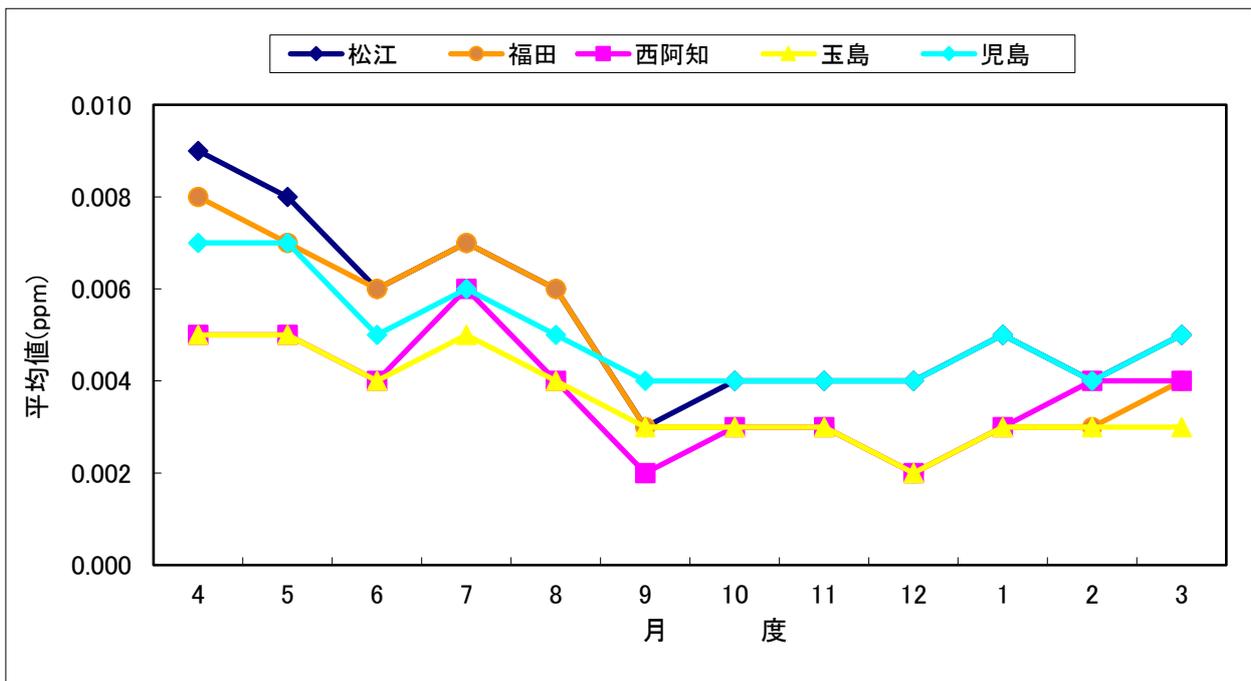
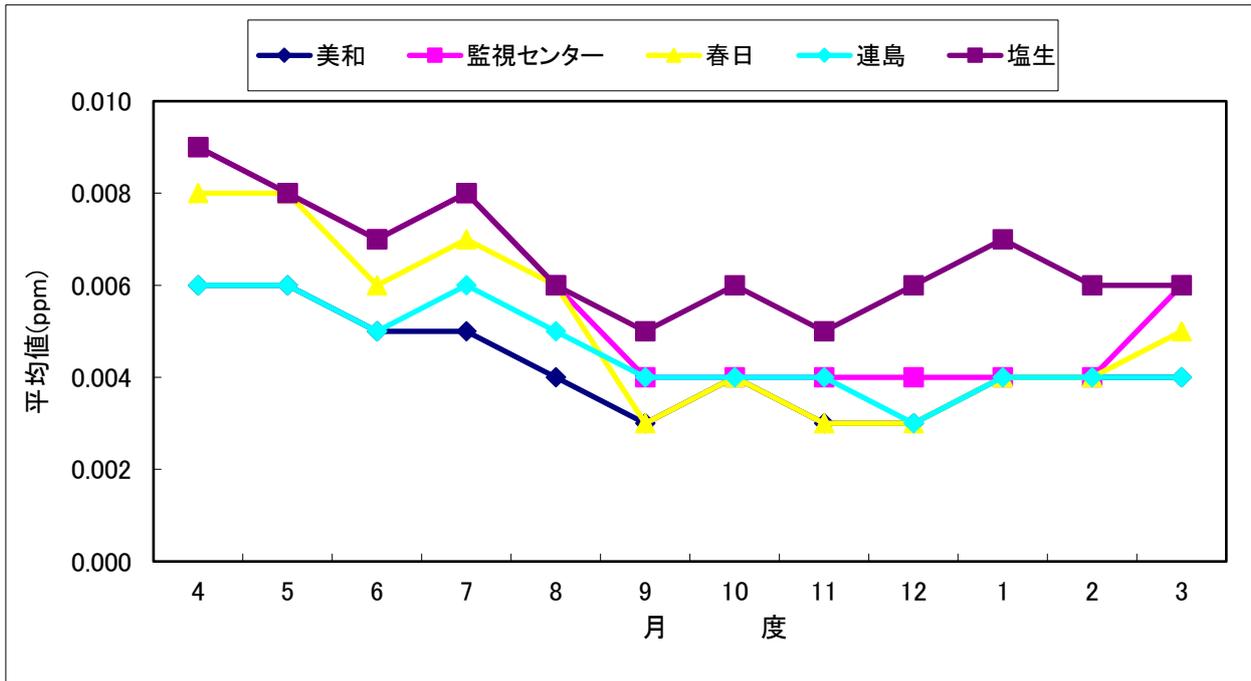
測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
倉敷美和	20.1	16.6	15.4	16.9	10.5	8.5	11.4	17.7	11.5	12.8	16.5	15.1
監視センター	20.5	17.9	16.0	20.7	12.1	9.0	11.4	15.3	11.1	12.5	16.9	15.5
塩生	20.1	16.5	13.3	17.4	11.6	9.2	11.4	15.2	13.5	14.4	18.6	16.6
松江	26.3	21.6	17.7	20.3	13.7	10.5	12.4	17.0	12.8	14.6	19.1	17.8
玉島	17.3	14.4	11.5	15.1	9.1	7.0	10.2	14.0	9.4	10.6	13.7	12.8
真備	17.1	15.4	14.1	5.7								15.5
児島	20.2	18.1	14.9	16.9	10.9	9.0	10.4	14.7	12.2	12.9	17.6	15.5
茶屋町	18.5	15.7	14.9	22.2	16.9	10.3	13.7	23.6	11.5	13.5	16.5	14.6
庄	20.1	16.0	15.7	19.2	11.8	8.1	10.9	17.4	10.3	11.8	15.2	13.8
全局平均	20.0	16.9	14.8	17.2	12.1	9.0	11.5	16.9	11.5	12.9	16.8	15.2
35μg/m <sup>3</sup> 超日数	13	20	10	33	0	0	0	14	0	0	0	1

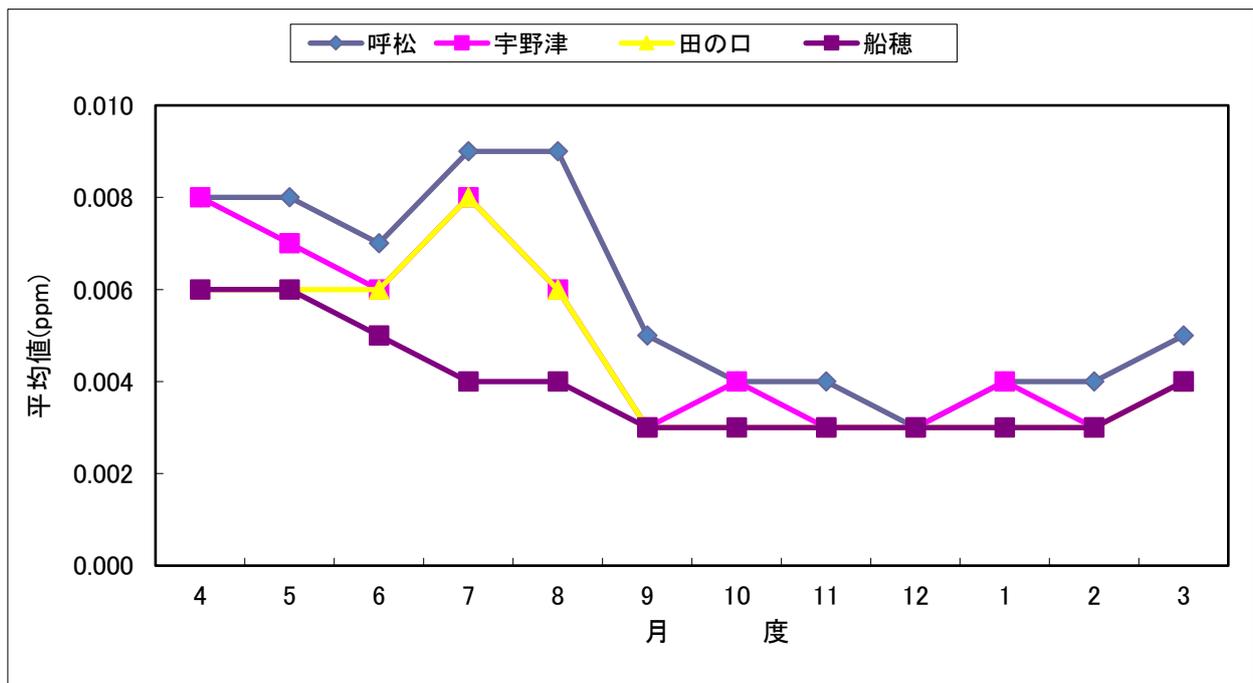
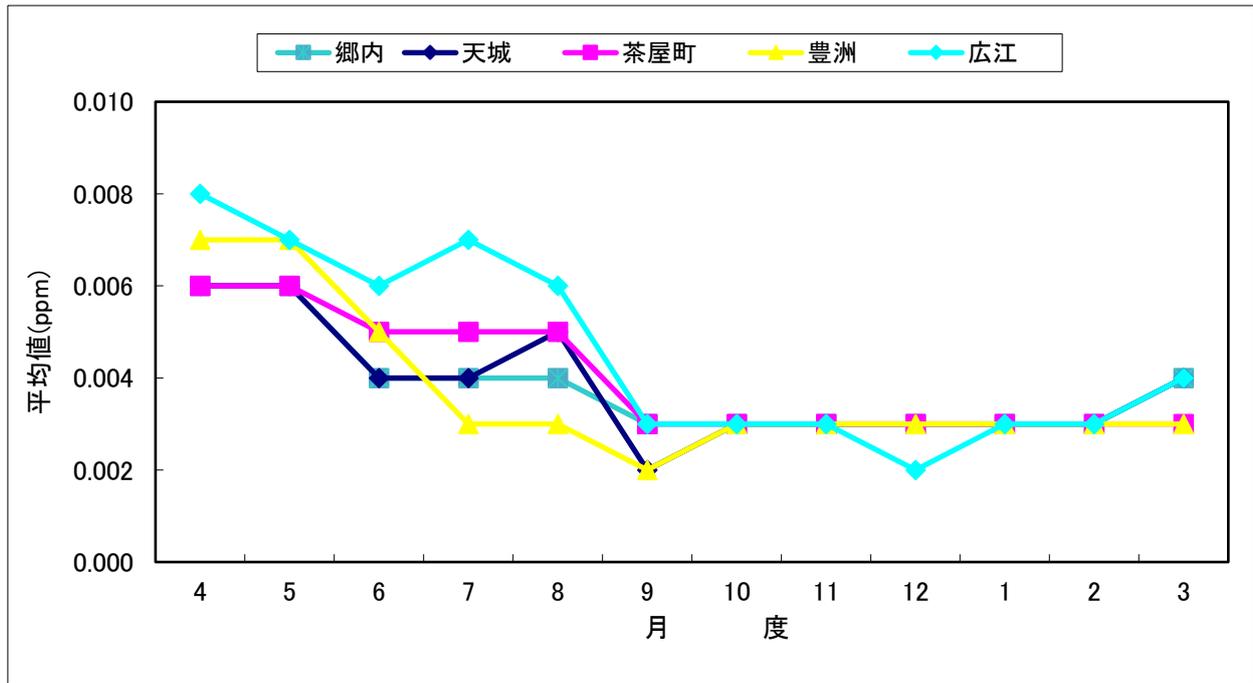
ウ 二酸化硫黄濃度の経年変化（年平均値）



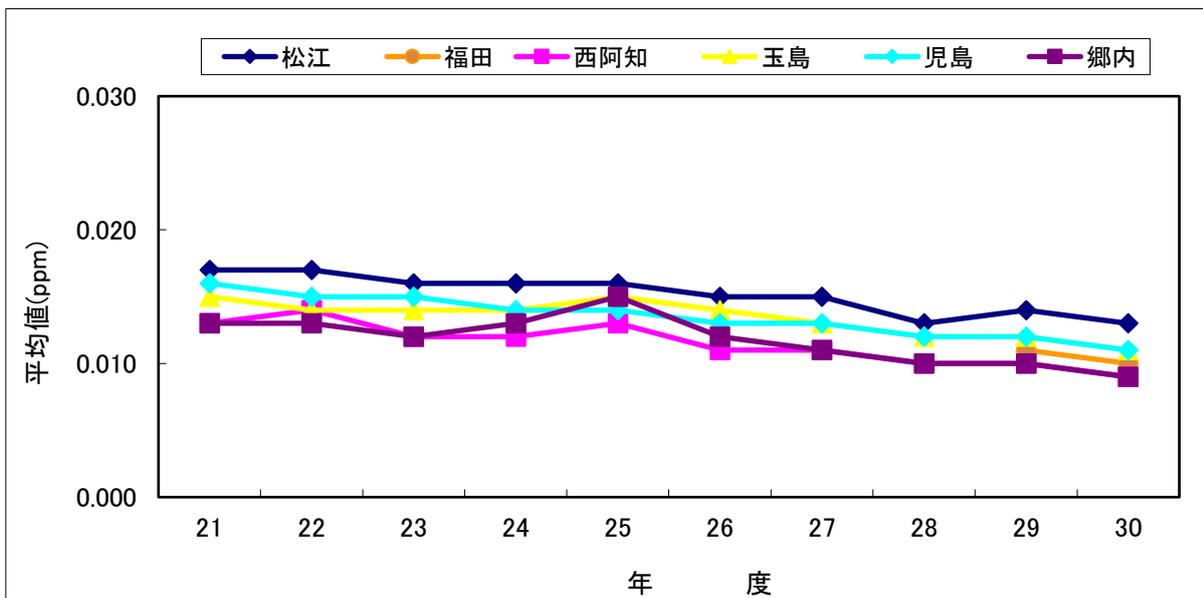
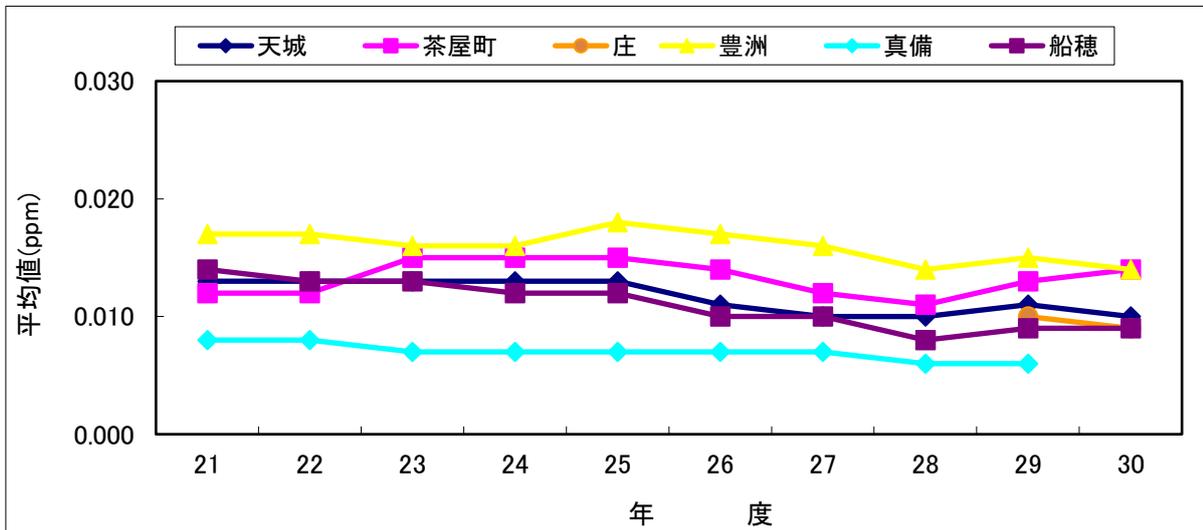
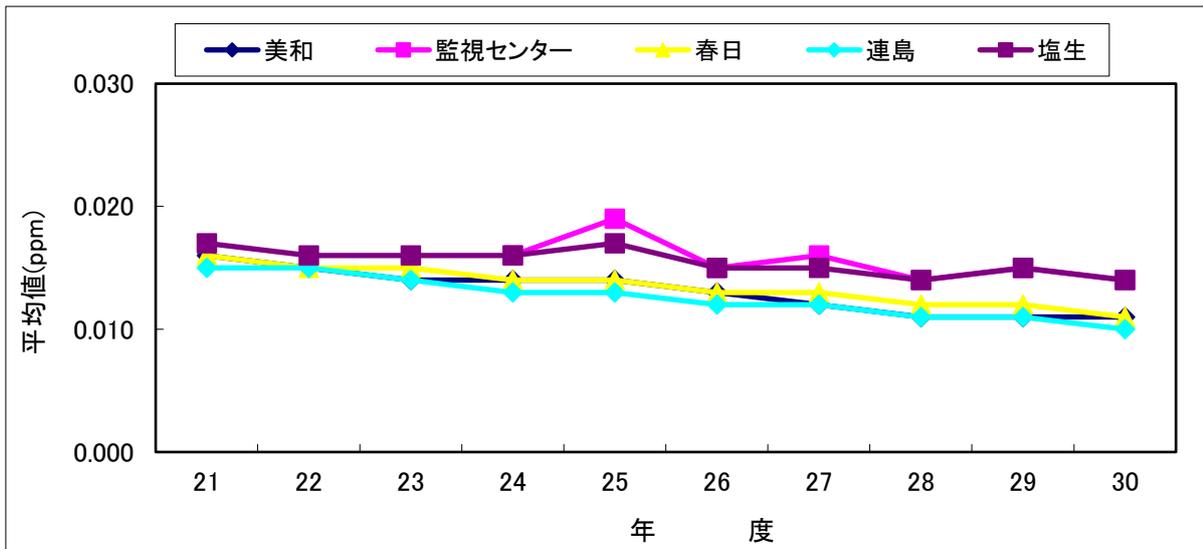


エ 二酸化硫黄濃度の経月変化（月平均値）

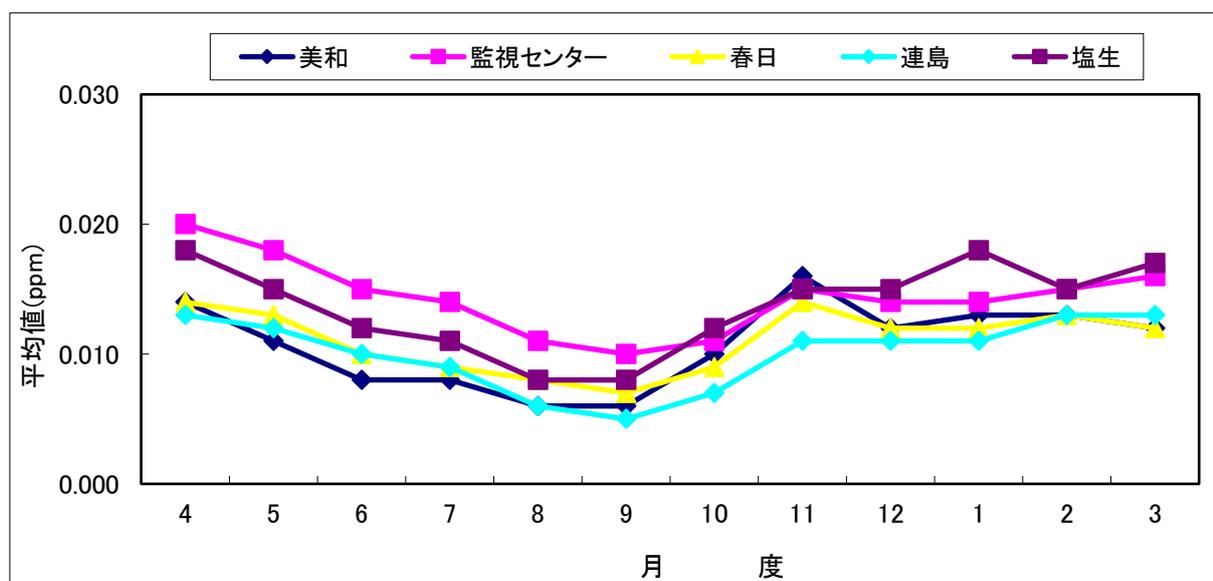
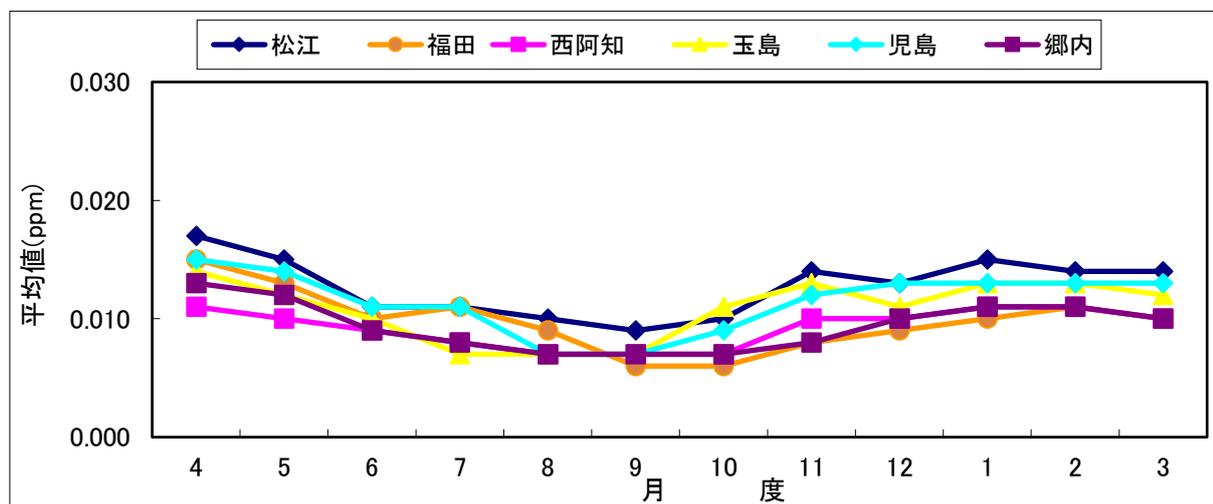
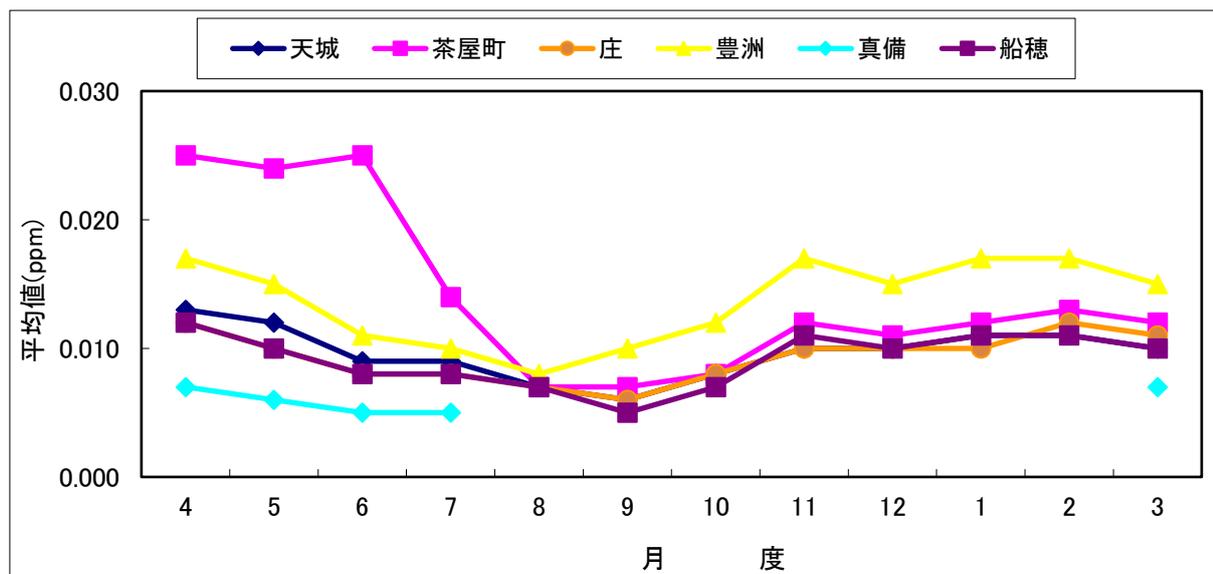




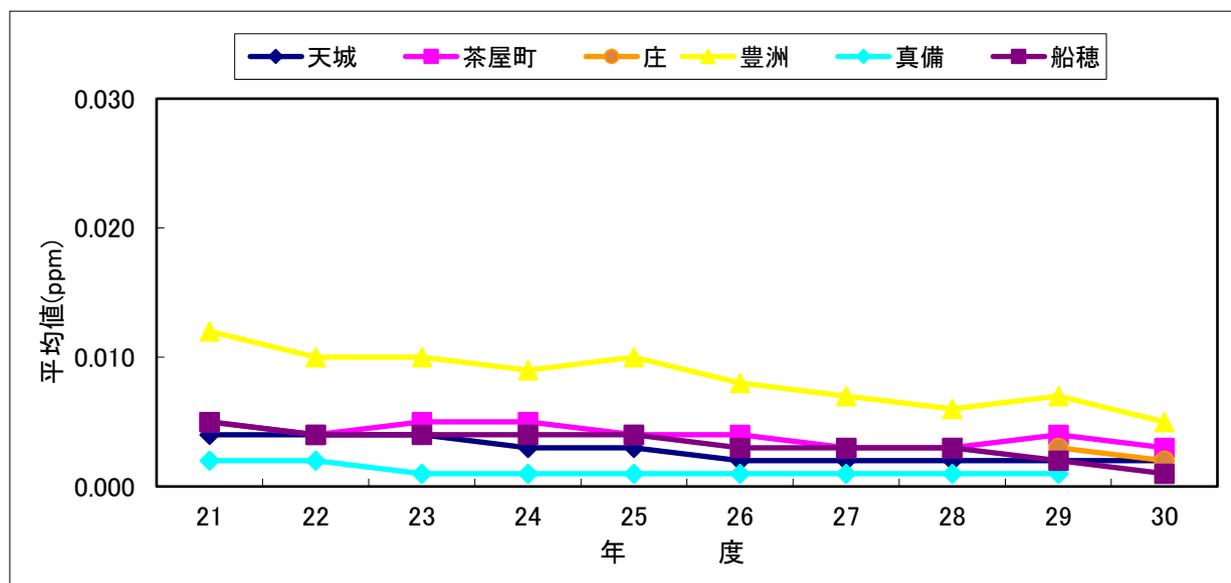
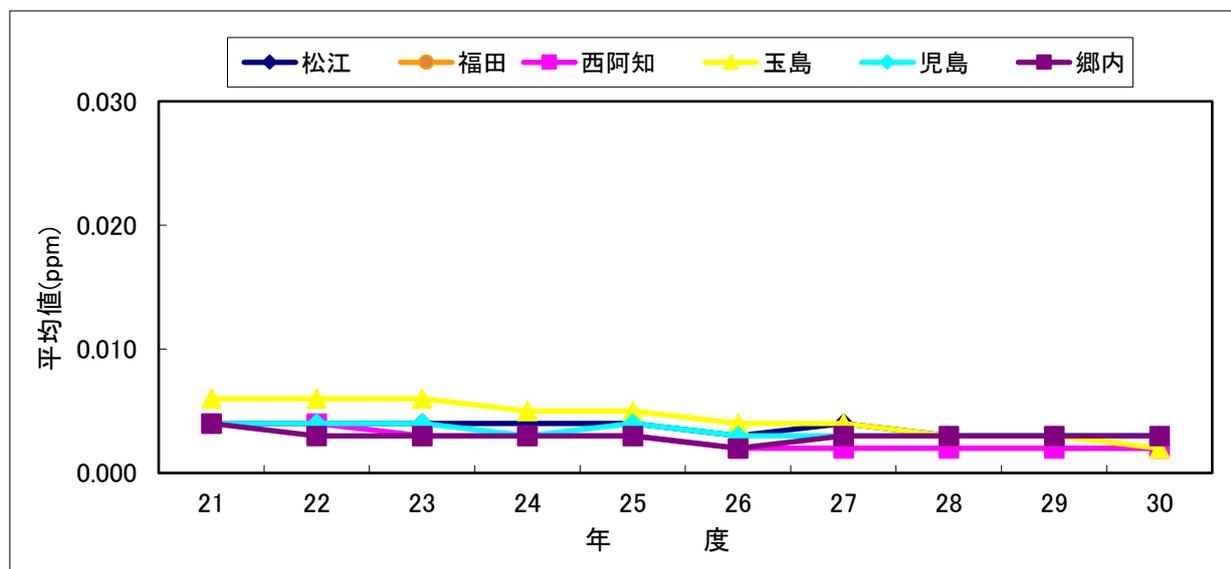
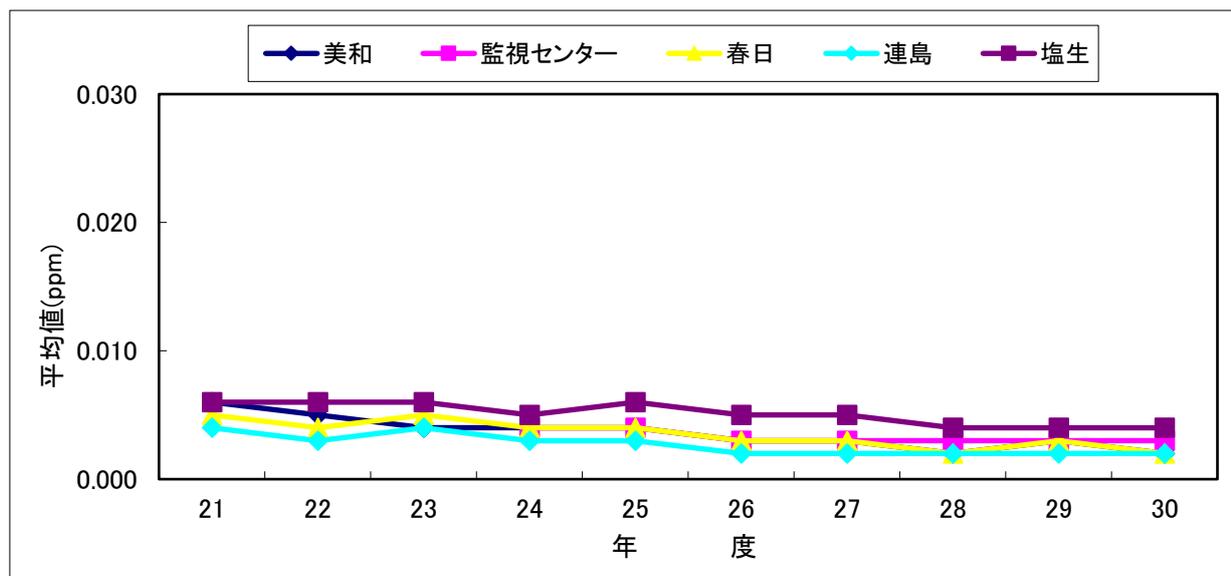
オ 二酸化窒素濃度の経年変化（年平均値）



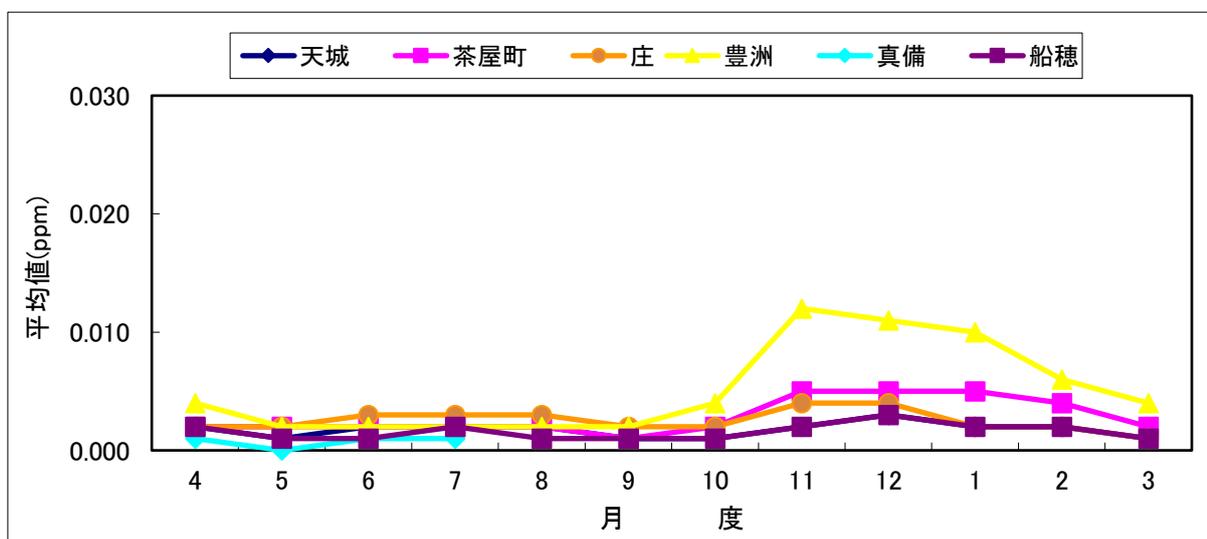
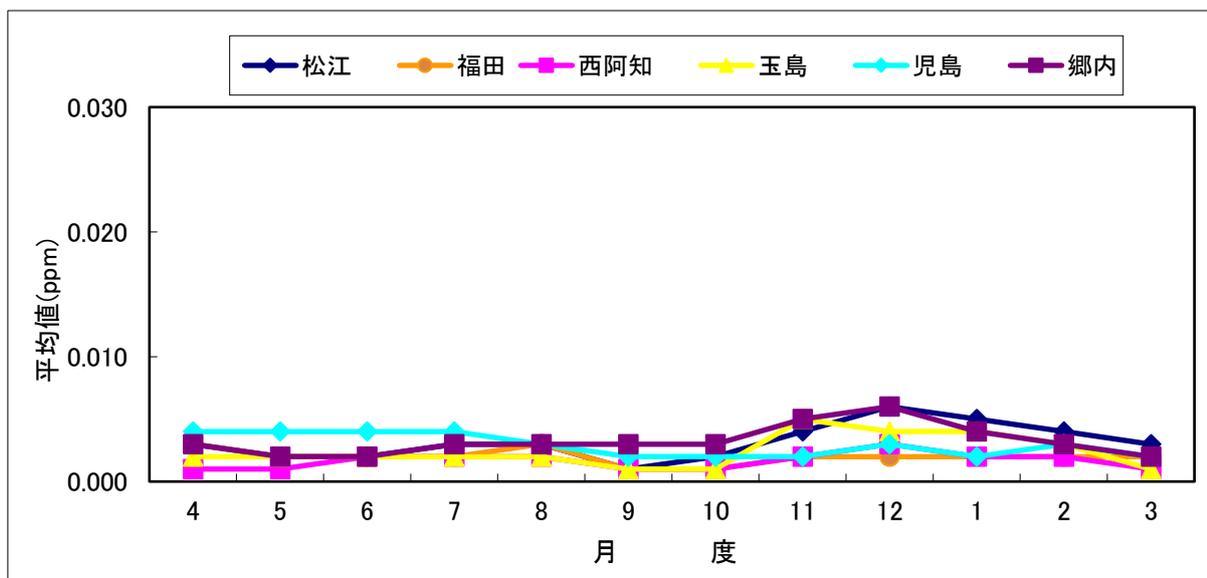
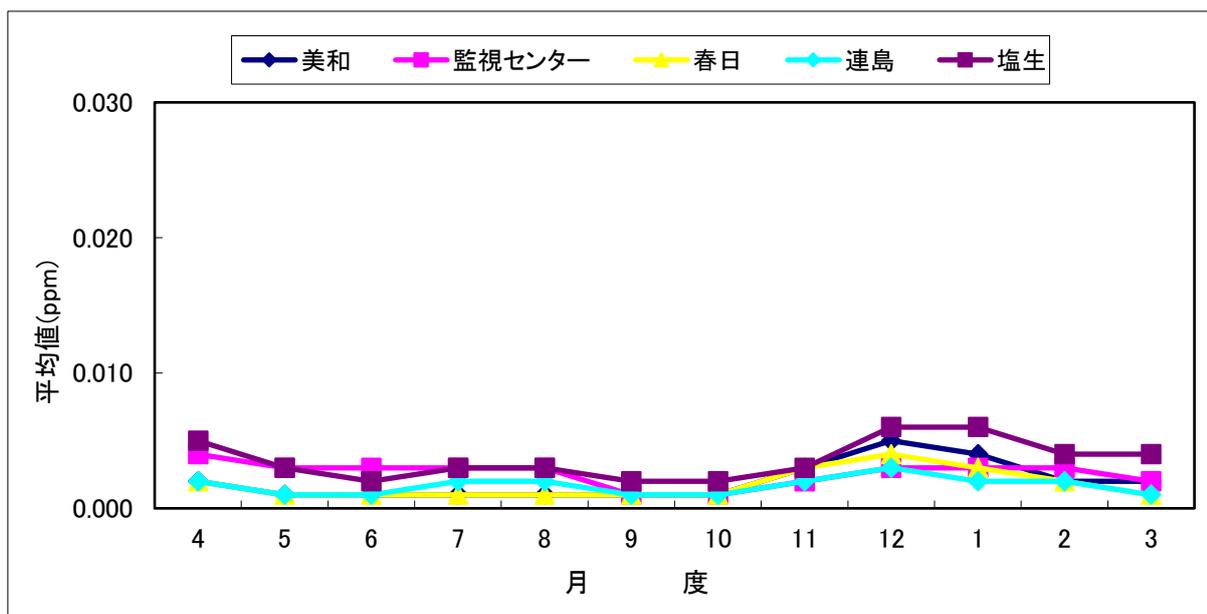
カ 二酸化窒素濃度の経月変化（月平均値）



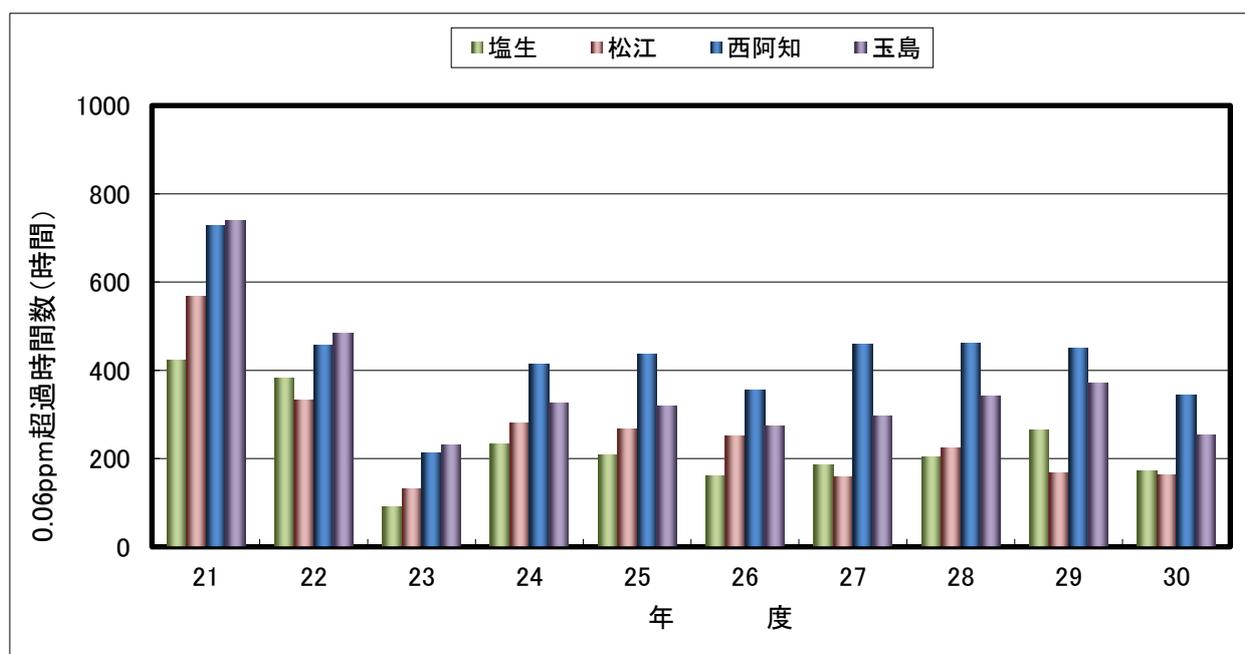
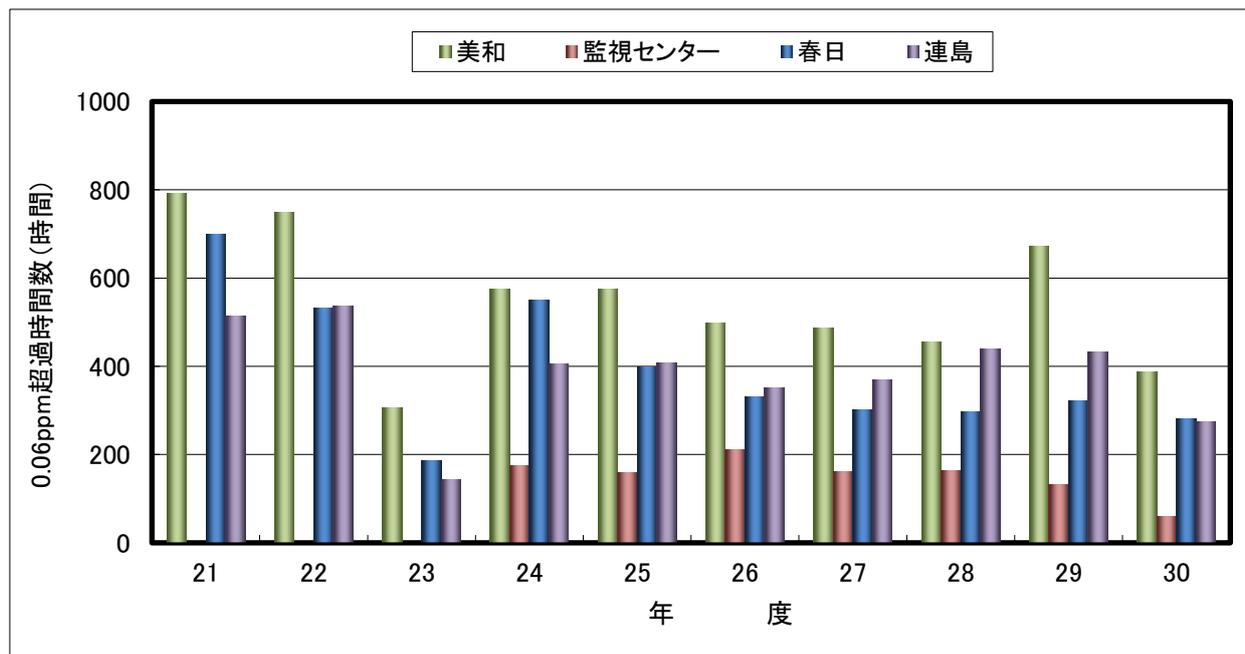
キ 一酸化窒素濃度の経年変化（年平均値）

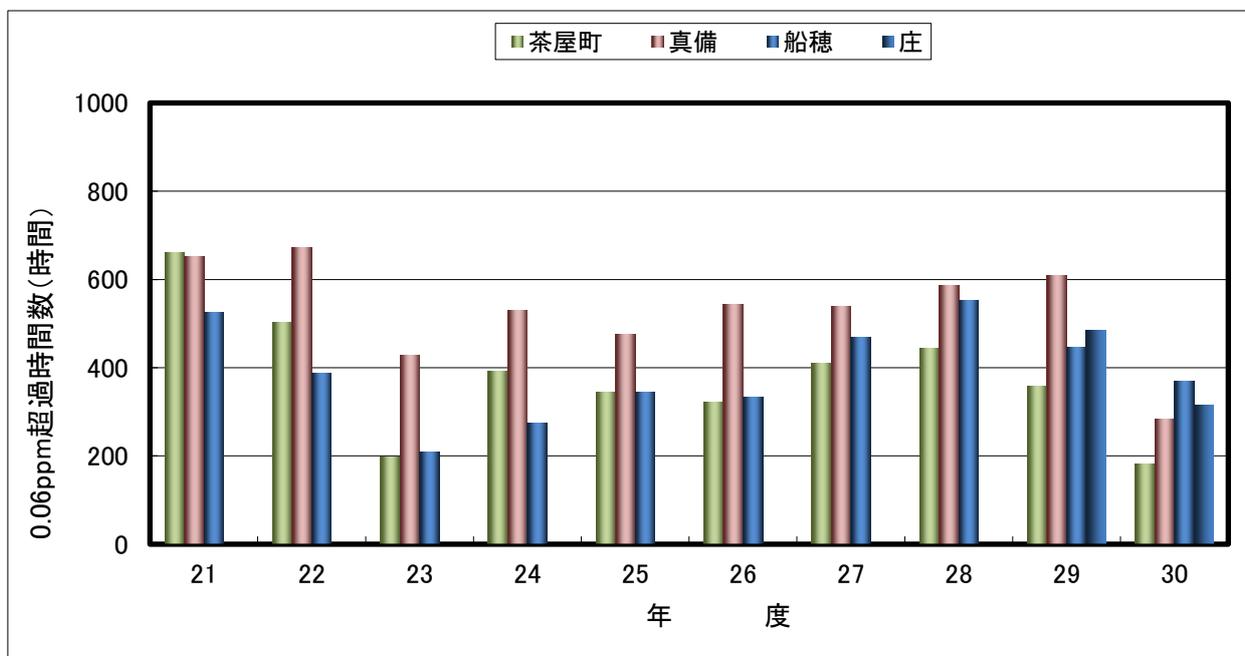
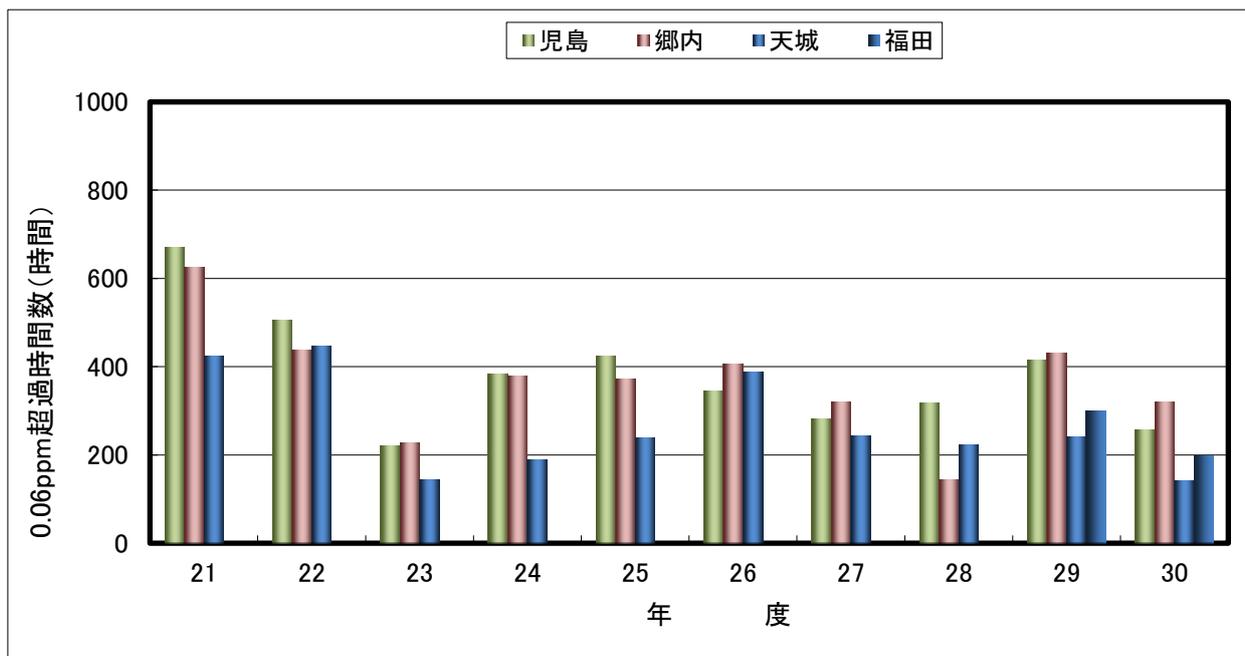


ク 一酸化窒素濃度の経月変化（月平均値）

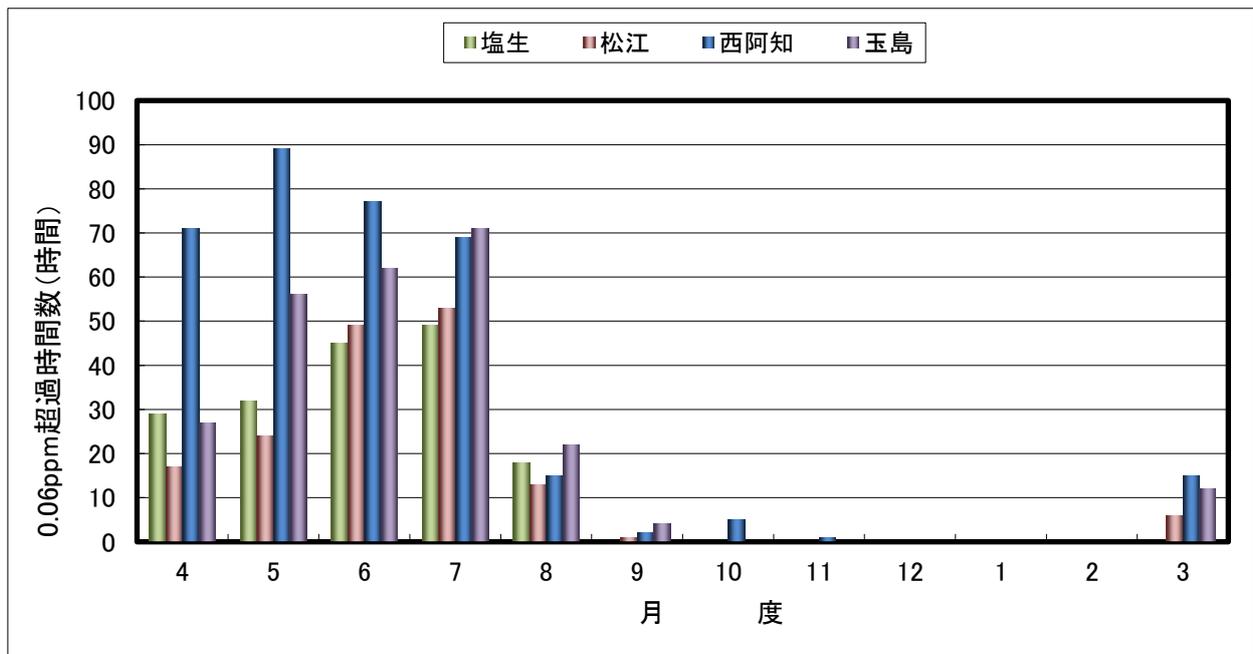
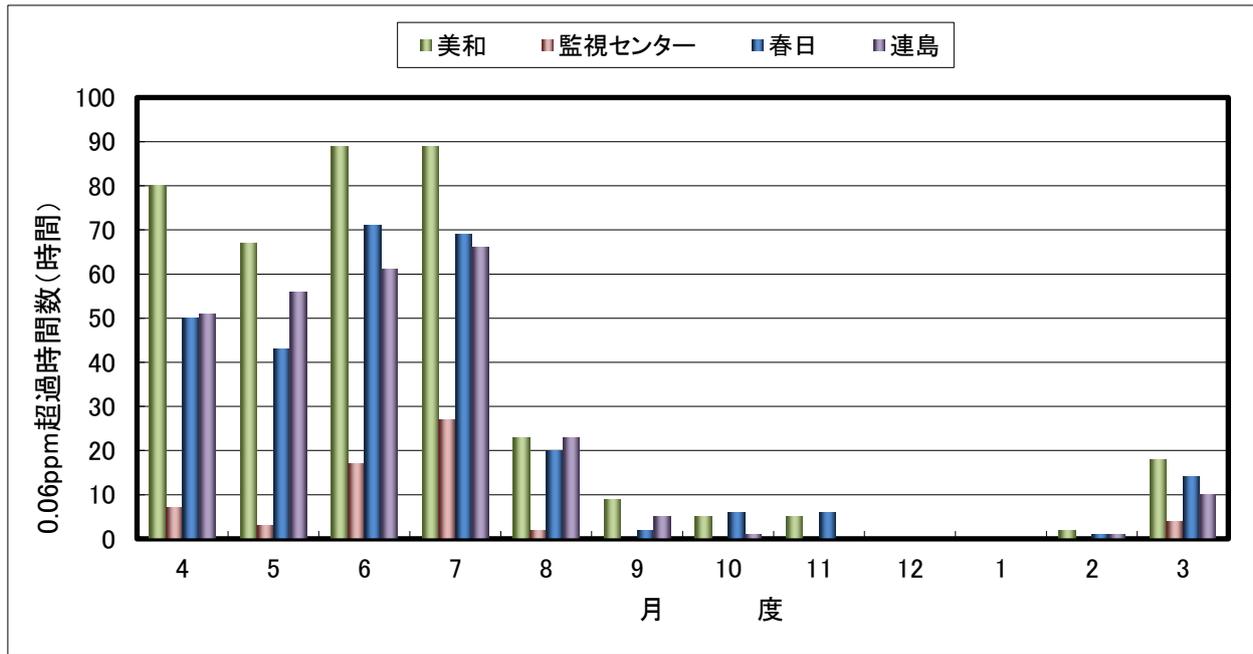


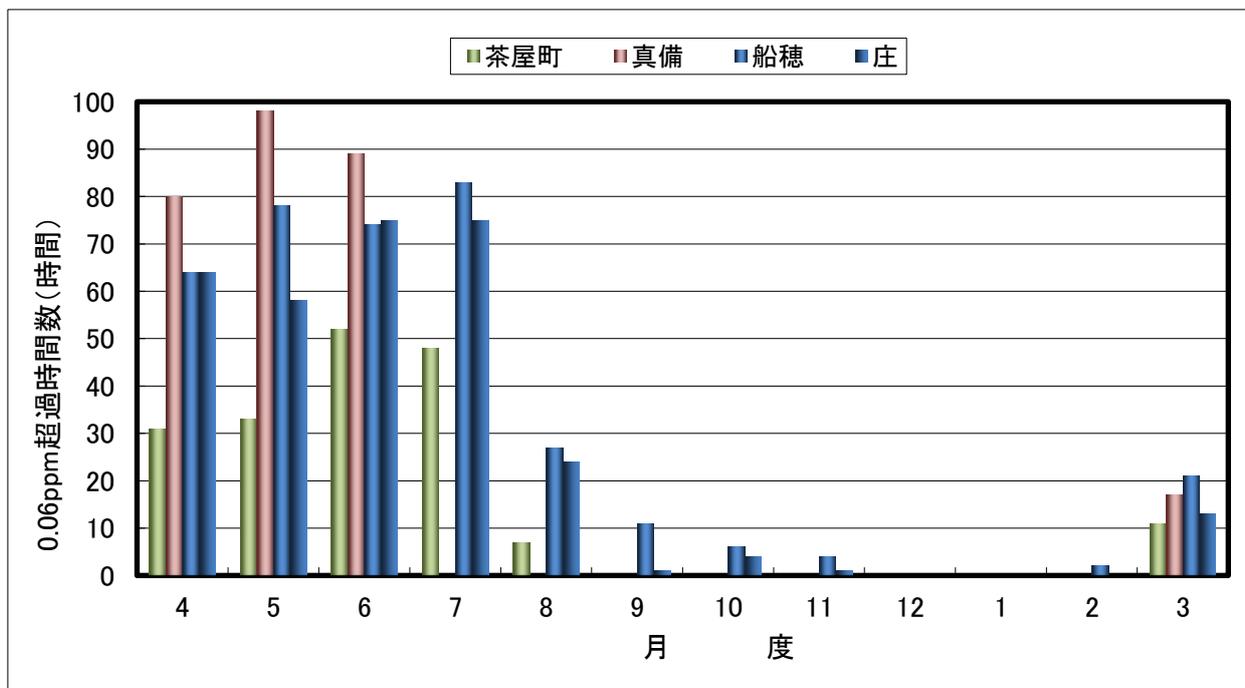
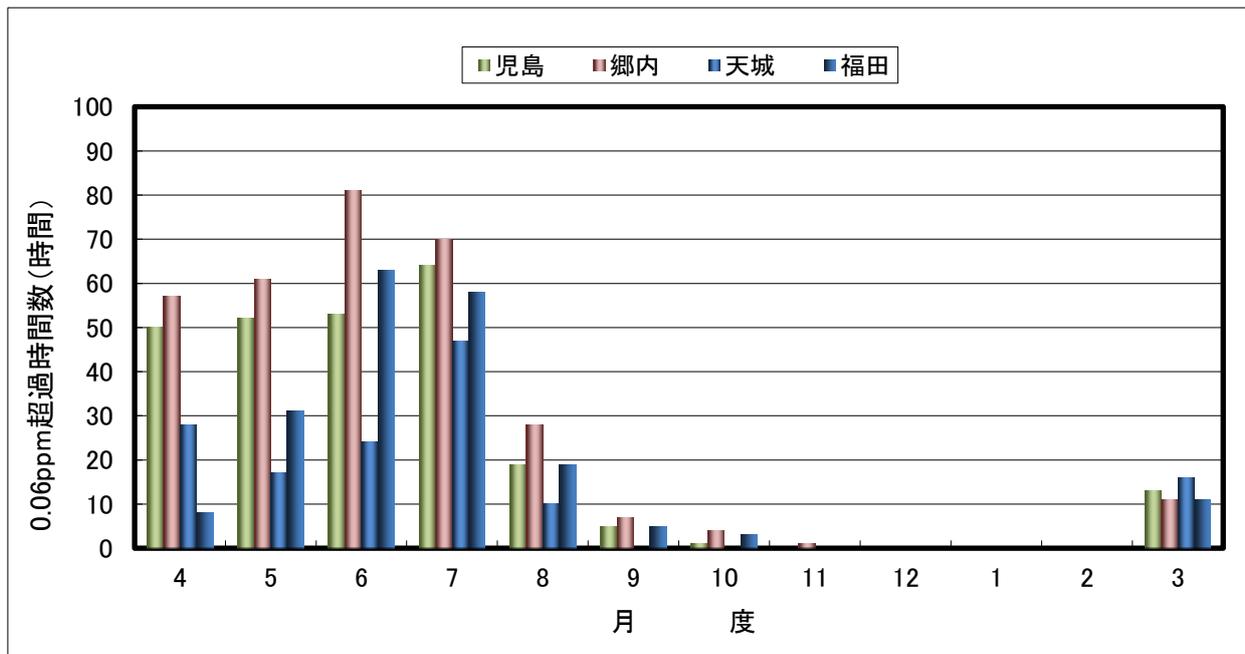
ケ オキシダント濃度の1時間値が0.06ppmを超えた時間数の経年変化



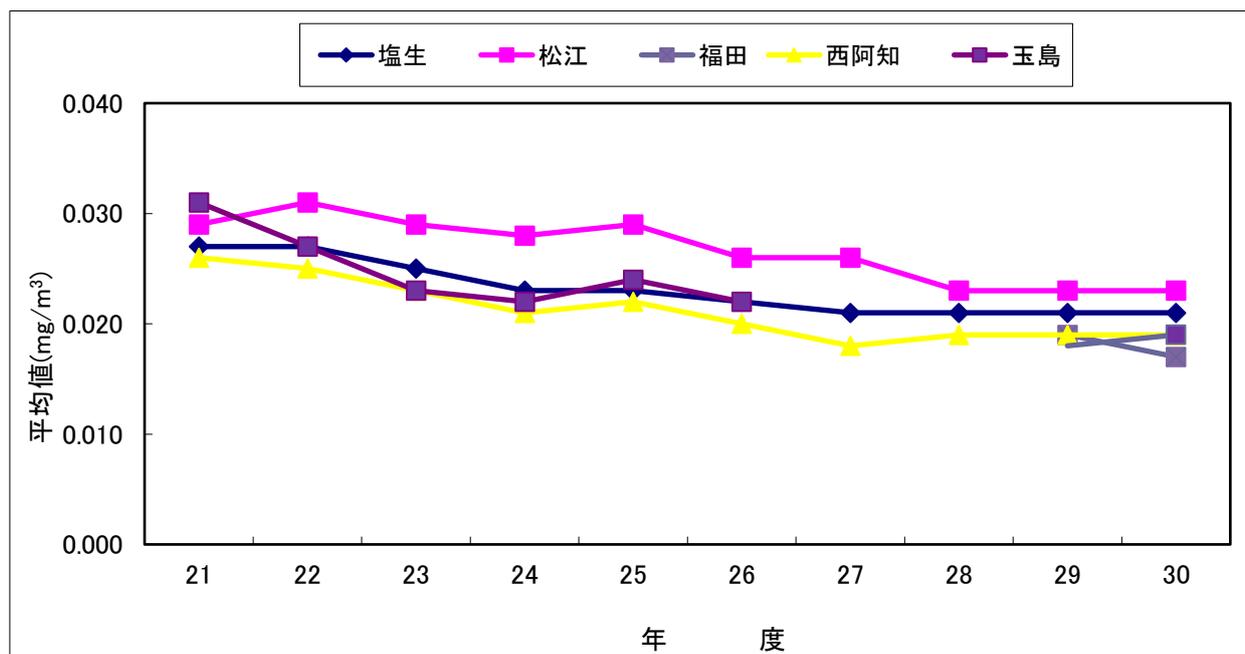
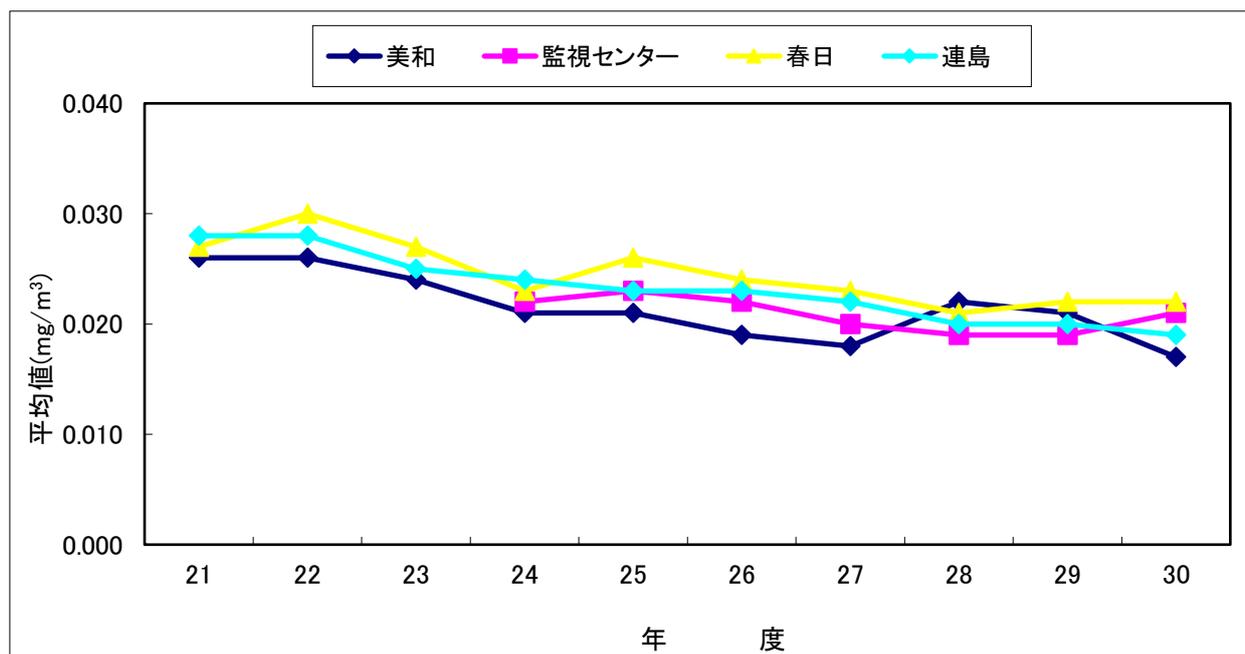


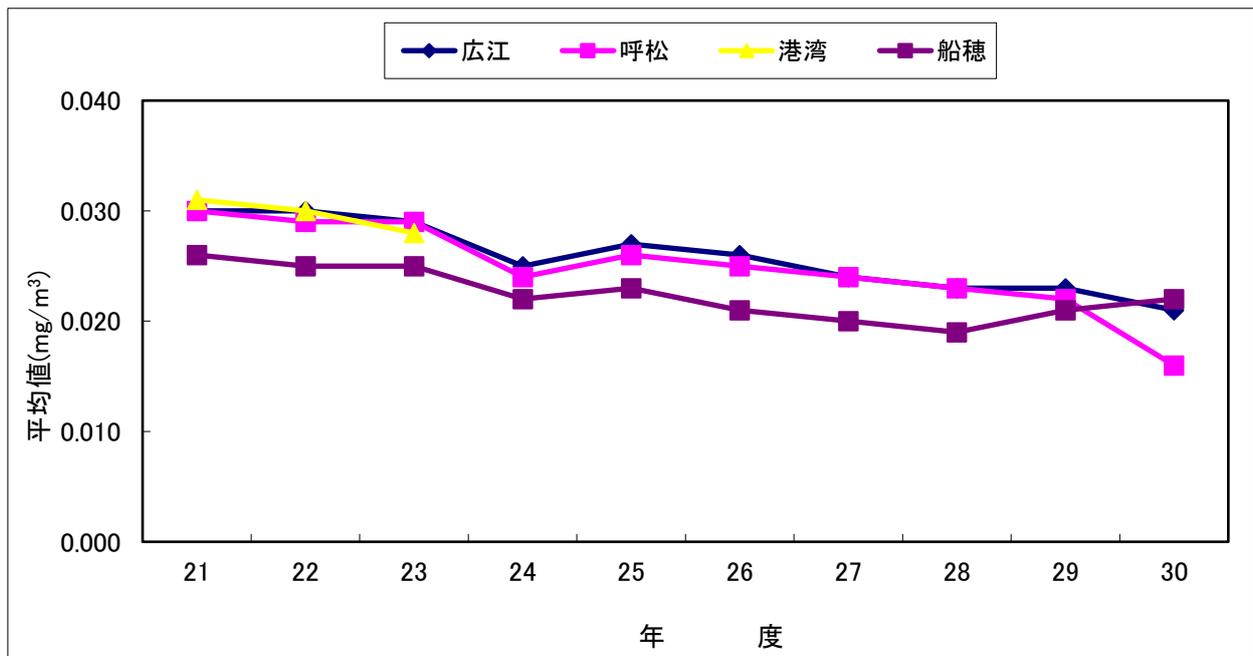
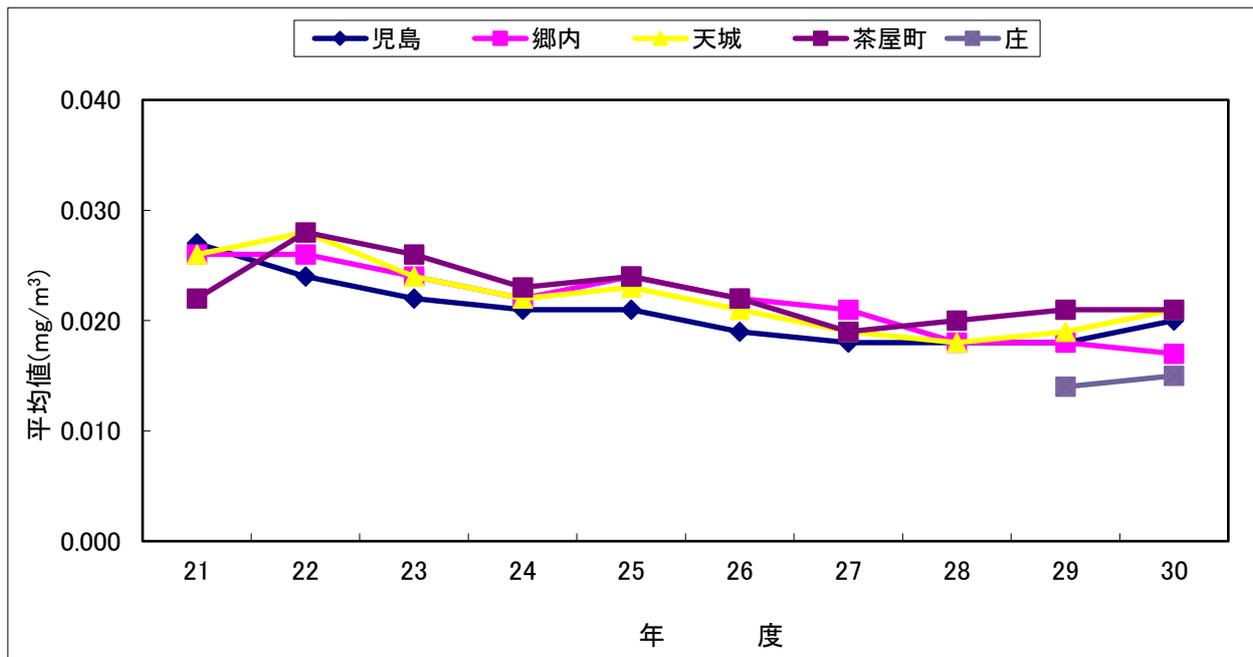
コ オキシダント濃度の1時間値が0.06ppmを超えた時間数の経月変化



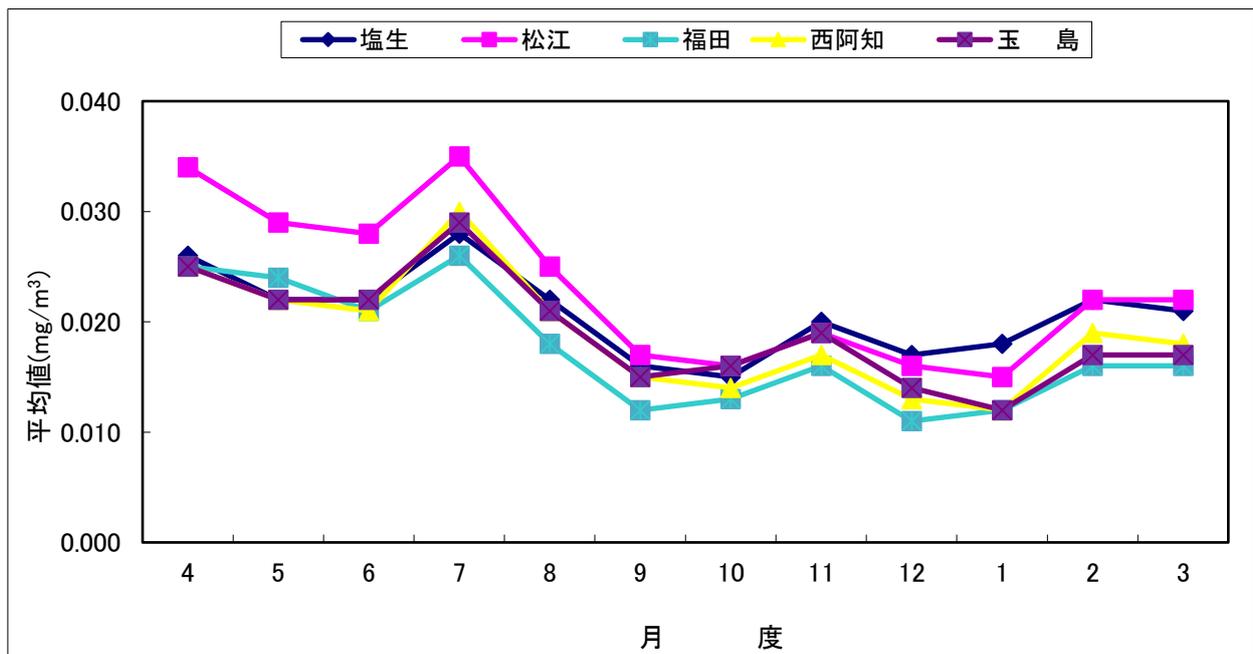
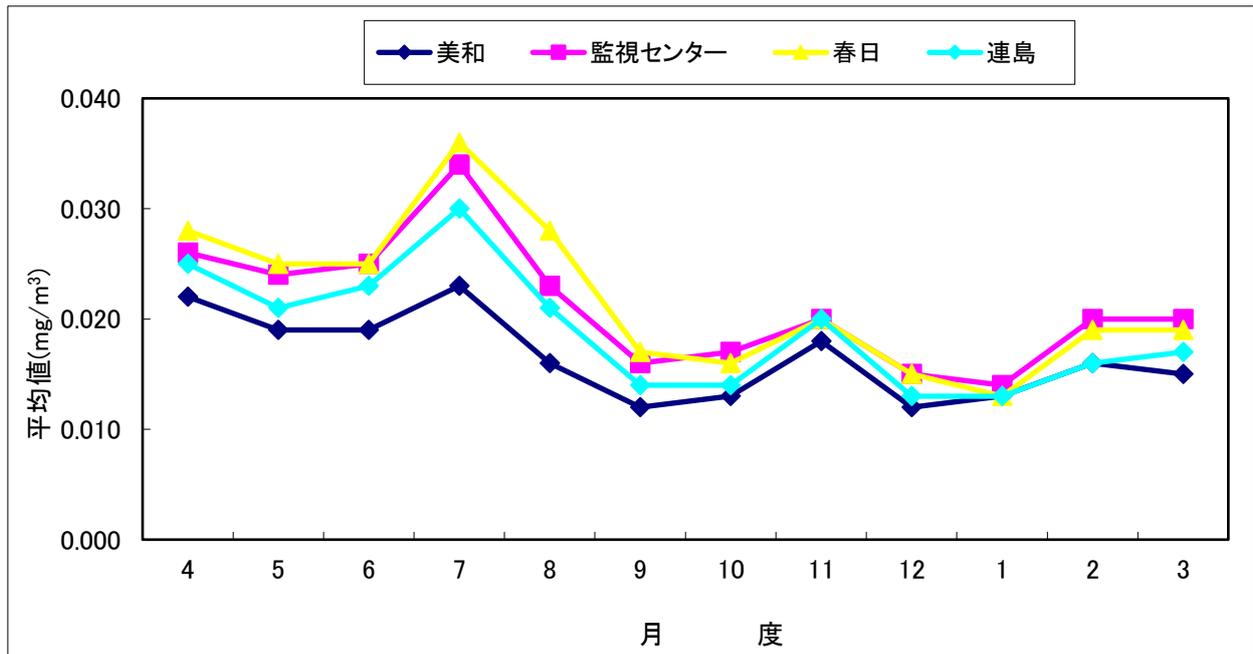


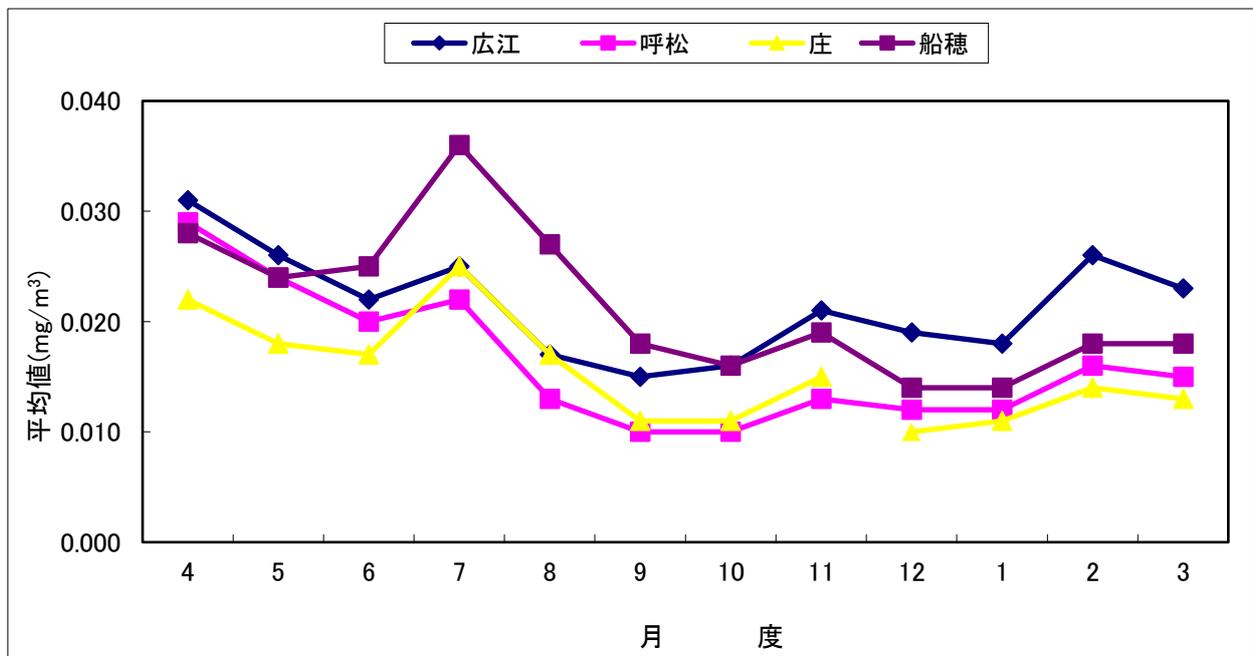
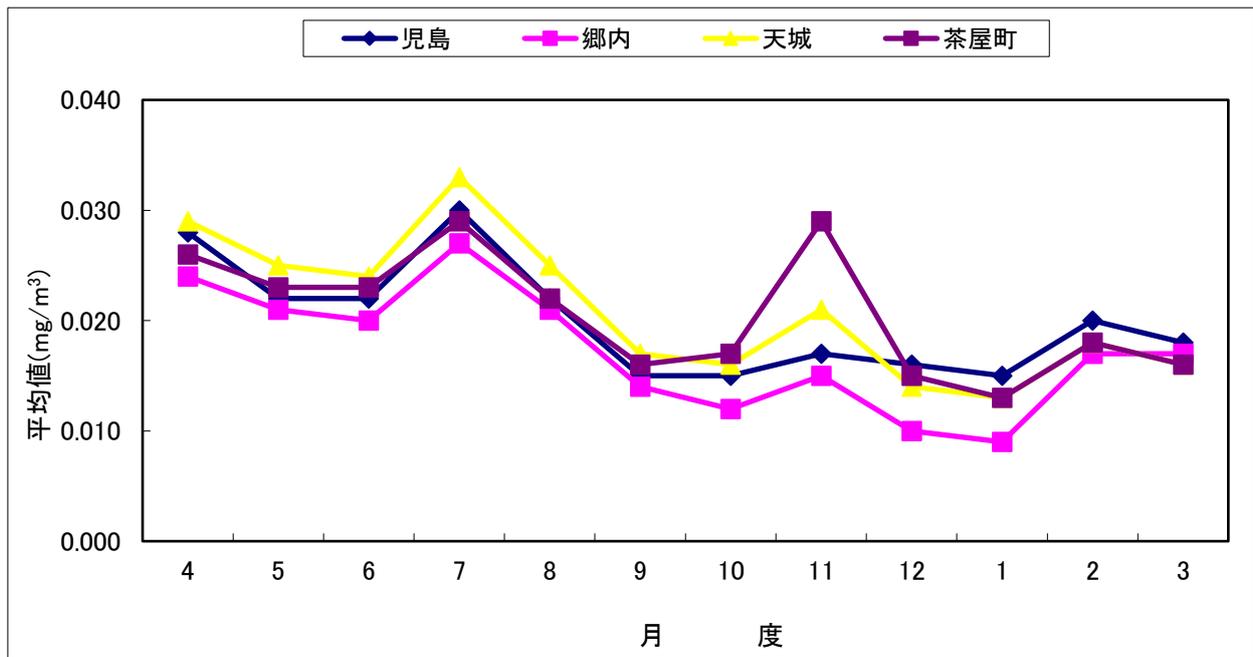
サ 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（年平均値）



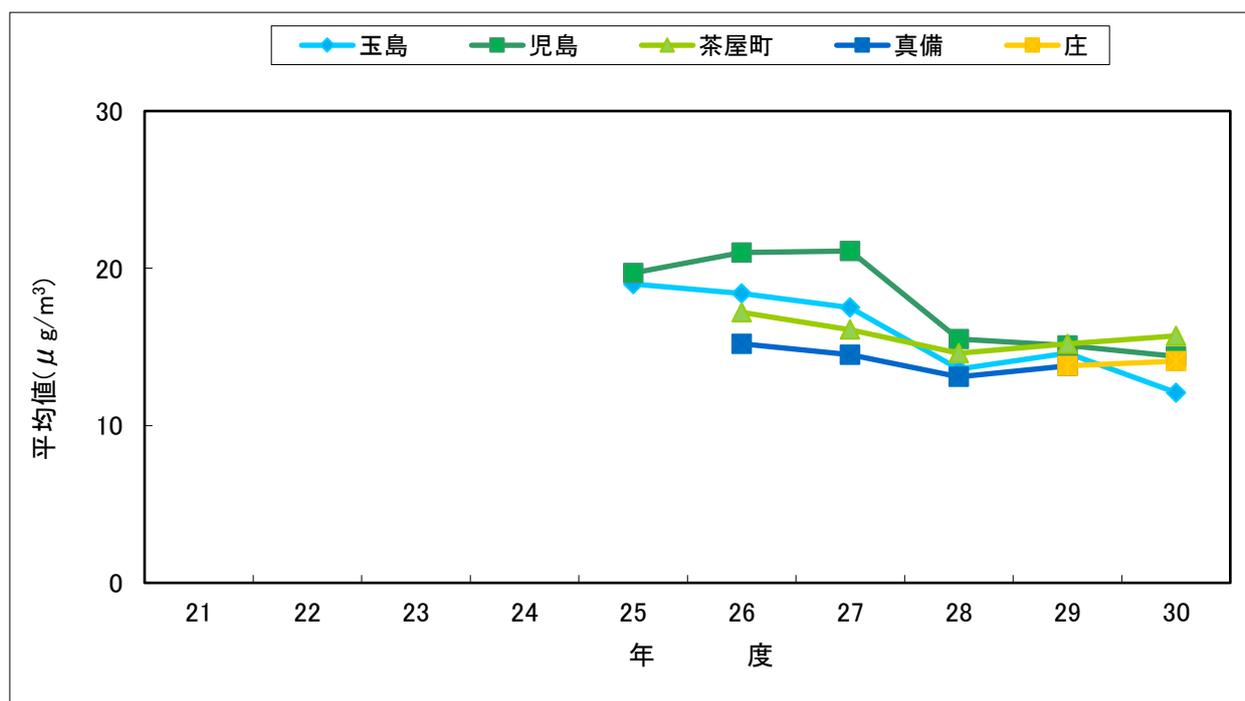
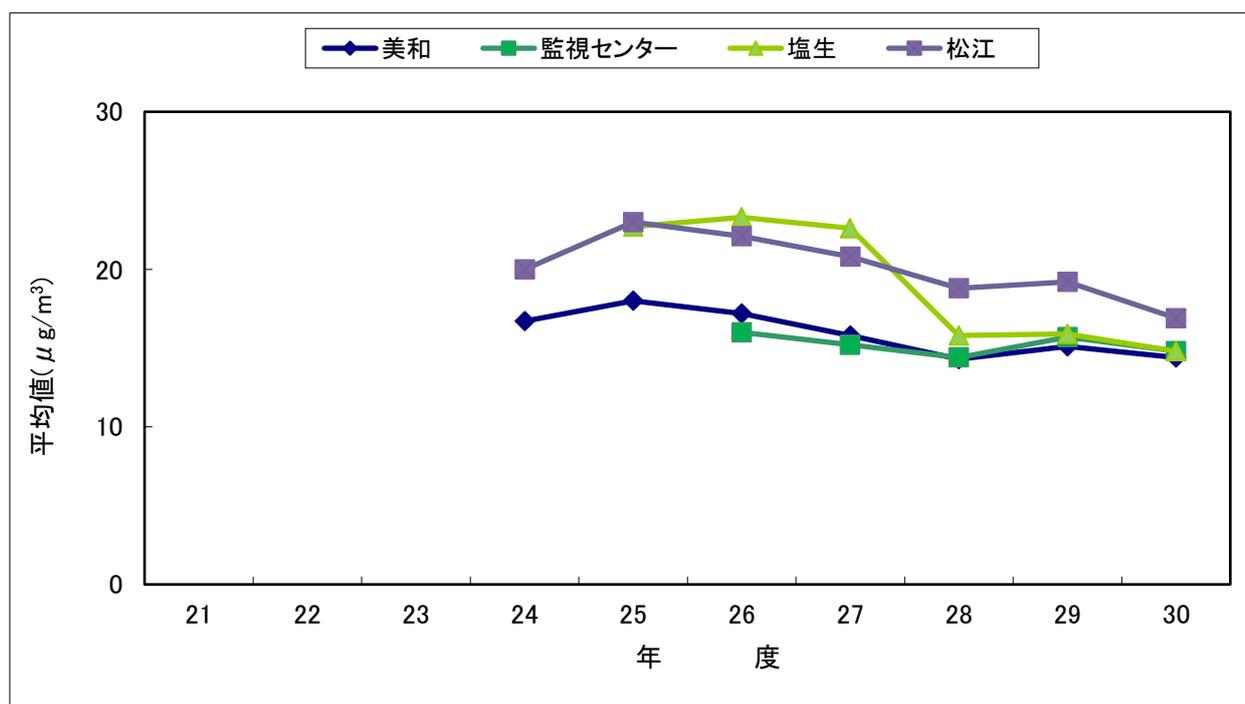


シ 浮遊粒子状物質濃度の経月変化（月平均値）

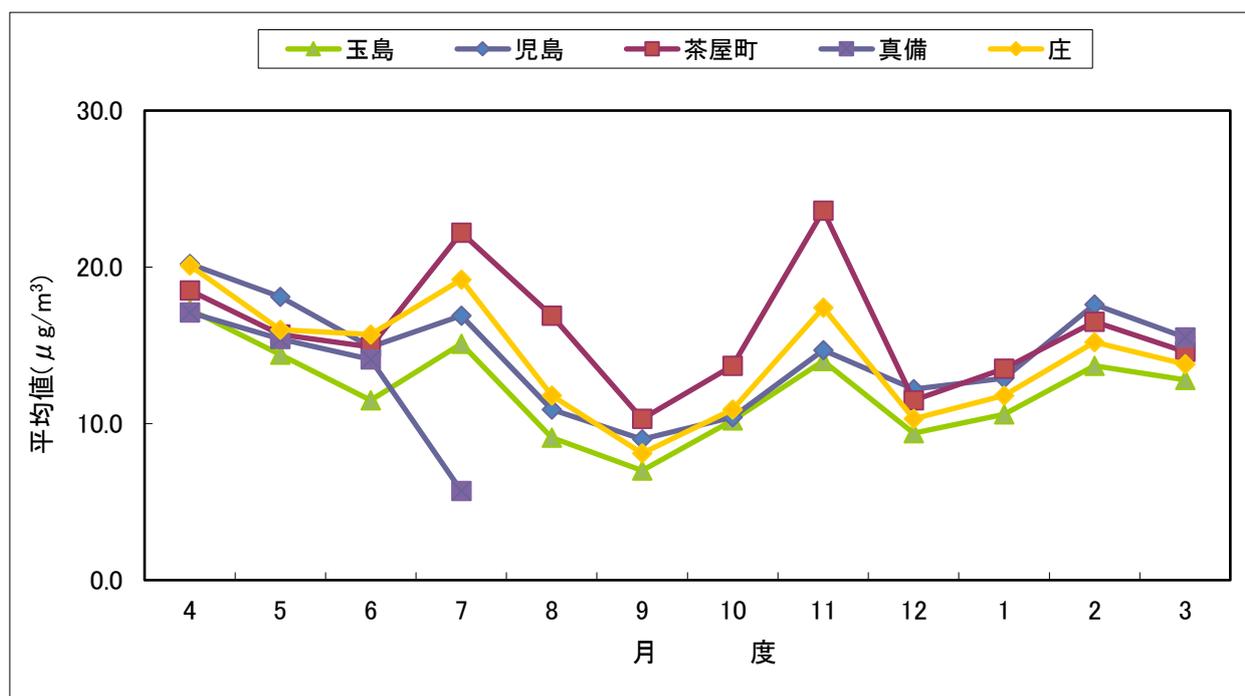
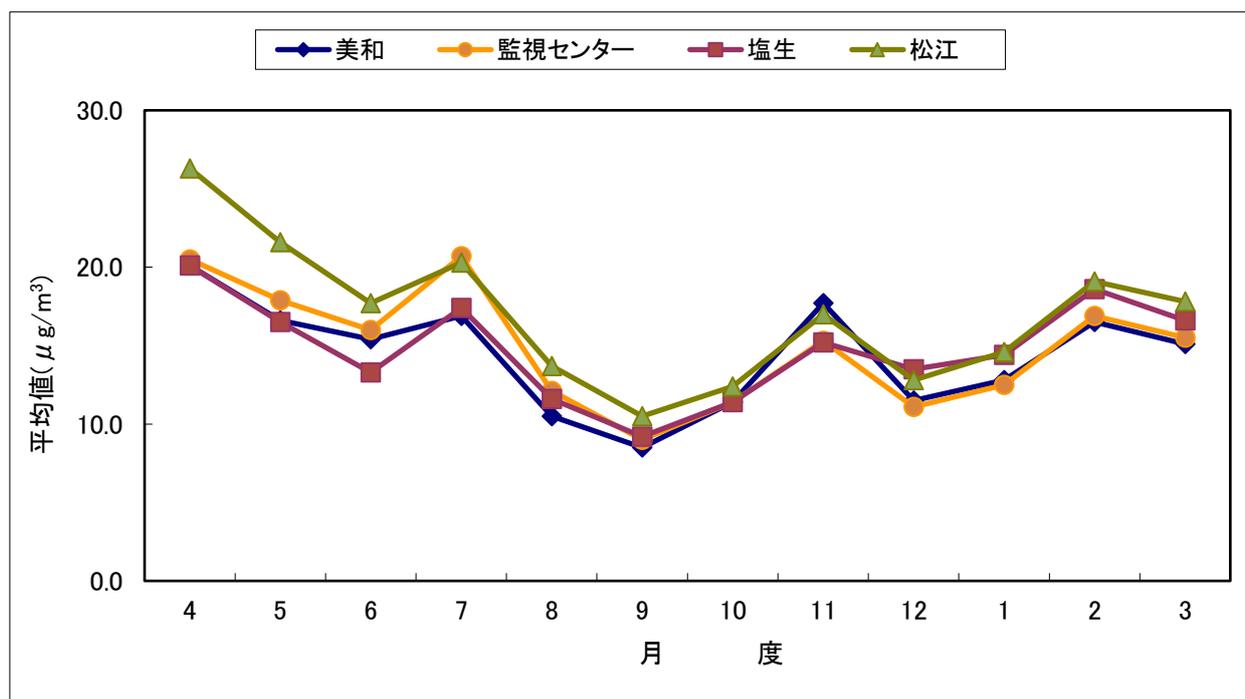




ス 微小粒子状物質濃度の経年変化（年平均値）



セ 微小粒子状物質濃度の経月変化（月平均値）



### (3) 自動車排出ガス測定局

#### ア 経年測定データ(平成21年度～平成30年度)

二酸化窒素 (NO<sub>2</sub>) 経年変化 (年平均値)

単位 : ppm

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
駅 前	0.020	0.019	0.018	0.018	0.019	0.018	0.017	0.015	0.015	0.014
大 高	0.018	0.018	0.016	0.016	0.017	0.016	0.015	0.013	0.014	0.012
西 坂	0.017	0.017	0.016	0.015	0.014	0.015	0.015	0.014	0.013	0.012
庄	0.014	0.015	0.014	0.014	0.016	0.015	0.012	0.011		
全局平均	0.017	0.017	0.016	0.016	0.016	0.016	0.015	0.013	0.014	0.013
0.04ppm以上日数(駅)	3	1	1	0	0	1	1	0	0	0
0.04ppm以上日数(大)	3	3	1	0	0	1	0	0	0	0
0.04ppm以上日数(西)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.04ppm以上日数(庄)	0	0	0	0	0	1	0	0		
0.04ppm以上日数(全局)	6	4	2	0	0	3	1	0	0	0

一酸化窒素 (NO) 経年変化 (年平均値)

単位 : ppm

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
駅 前	0.016	0.014	0.015	0.011	0.011	0.010	0.010	0.009	0.008	0.007
大 高	0.010	0.010	0.008	0.007	0.008	0.006	0.006	0.004	0.005	0.004
西 坂	0.010	0.009	0.009	0.008	0.007	0.006	0.006	0.005	0.006	0.004
庄	0.005	0.004	0.005	0.004	0.004	0.003	0.003	0.003		
全局平均	0.010	0.009	0.009	0.007	0.008	0.006	0.006	0.005	0.006	0.005

光化学オキシダント (O<sub>x</sub>) 短期環境基準超過時間数

単位 : 時間

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
庄	786	519	285	517	518	434	440	463		
0.12ppm超時間数	0	0	0	2	4	1	1	0		

一酸化炭素 (CO) 経年変化 (年平均値)

単位 : ppm

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
駅 前	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.5	0.4	0.3
大 高	0.5	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3
西 坂	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.3
庄	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2				
全局平均	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3

浮遊粒子状物質 (SPM) 経年変化 (年平均値)

単位 : mg/m<sup>3</sup>

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
大 高	0.034	0.032	0.028	0.021	0.023	0.021	0.021	0.020	0.019	0.019
西 坂	0.033	0.035	0.029	0.023	0.023	0.022	0.022	0.020	0.020	0.019
庄	0.026	0.027	0.026	0.025	0.021	0.020	0.019	0.016		
全局平均	0.031	0.032	0.028	0.023	0.022	0.021	0.021	0.019	0.02	0.019
0.2mg/m <sup>3</sup> 超時間数(大)	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0
0.2mg/m <sup>3</sup> 超時間数(西)	11	2	1	0	0	0	0	1	0	0
0.2mg/m <sup>3</sup> 超時間数(庄)	7	1	0	0	0	0	0	0		
0.2mg/m <sup>3</sup> 超時間数(全局)	30	3	2	0	0	0	0	1	0	0
0.1mg/m <sup>3</sup> 超日数(大)	2	2	3	0	0	0	0	0	0	0
0.1mg/m <sup>3</sup> 超日数(西)	2	3	2	0	0	0	0	0	0	0
0.1mg/m <sup>3</sup> 超日数(庄)	1	2	2	0	0	0	0	0		
0.1mg/m <sup>3</sup> 超日数(全局)	5	7	7	0	0	0	0	0	0	0

非メタン炭化水素（NMHC）経年変化（6時～9時の3時間平均値の年平均値）

単位：ppmC

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
駅前	0.21	0.19	0.21	0.17	0.18	0.17	0.17	0.14	0.14	0.13
0.31ppmC超日数(駅)	50	30	40	31	22	12	8	4	4	1

微小粒子状物質（PM2.5）経年変化（年平均値）

単位： $\mu\text{g}/\text{m}^3$

測定局	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
大高庄				18.6	18.7 (17.8)	18.0	16.9	15.0	16.1	14.9
35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 超日数				27	22	24	28	7	13	12

## イ 経月測定データ

N02経月変化（月平均値）

単位：ppm

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
駅 前	0.016	0.014	0.013	0.011	0.009	0.011	0.013	0.017	0.016	0.017	0.017	0.015
大 高	0.016	0.013	0.011	0.010	0.007	0.008	0.010	0.015	0.014	0.016	0.015	0.014
西 坂	0.015	0.013	0.010	0.009	0.007	0.009	0.011	0.014	0.012	0.014	0.014	0.013
全局平均	0.016	0.013	0.011	0.010	0.008	0.009	0.011	0.015	0.014	0.016	0.015	0.014
0.04ppm以上日数(駅)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.04ppm以上日数(大)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.04ppm以上日数(西)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.04ppm以上日数(全局)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

N0経月変化（月平均値）

単位：ppm

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
駅 前	0.006	0.005	0.006	0.005	0.006	0.006	0.007	0.010	0.012	0.010	0.009	0.006
大 高	0.003	0.003	0.003	0.003	0.003	0.002	0.003	0.006	0.008	0.006	0.005	0.003
西 坂	0.003	0.002	0.002	0.003	0.002	0.002	0.003	0.007	0.008	0.006	0.004	0.003
全局平均	0.004	0.003	0.004	0.004	0.004	0.003	0.004	0.008	0.009	0.007	0.006	0.004

CO経月変化（月平均値）

単位：ppm

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
駅 前	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
大 高	0.3	0.2	0.2	0.3	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4
西 坂	0.3	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	0.3	0.3	0.3	0.3
全局平均	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4

SPM経月変化（月平均値）

単位：mg/m<sup>3</sup>

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
大 高	0.026	0.023	0.023	0.032	0.023	0.015	0.014	0.016	0.013	0.013	0.017	0.016
西 坂	0.024	0.022	0.023	0.030	0.019	0.015	0.015	0.018	0.013	0.012	0.017	0.017
全局平均	0.025	0.023	0.023	0.031	0.021	0.015	0.015	0.017	0.013	0.013	0.017	0.017
0.2mg/m <sup>3</sup> 超時間数(大)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.2mg/m <sup>3</sup> 超時間数(西)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.2mg/m <sup>3</sup> 超時間数(全局)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.1mg/m <sup>3</sup> 超日数(大)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.1mg/m <sup>3</sup> 超日数(西)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0.1mg/m <sup>3</sup> 超日数(全局)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

NMHC経月変化（月平均値）

単位：ppmC

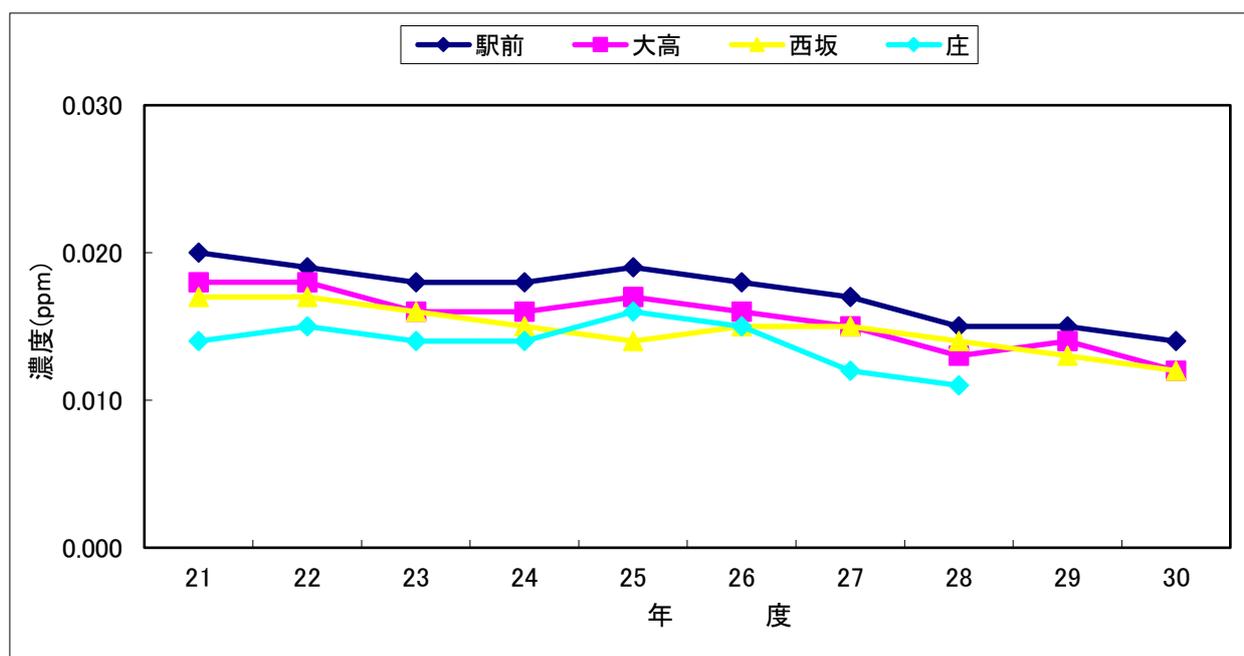
測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
駅 前	0.14	0.13	0.11	0.12	0.10	0.12	0.12	0.16	0.16	0.15	0.14	0.13
0.31ppmC超日数(駅)	0.14	0.13	0.11	0.12	0.1	0.12	0.12	0.16	0.16	0.15	0.14	0.13

PM2.5経月変化（月平均値）

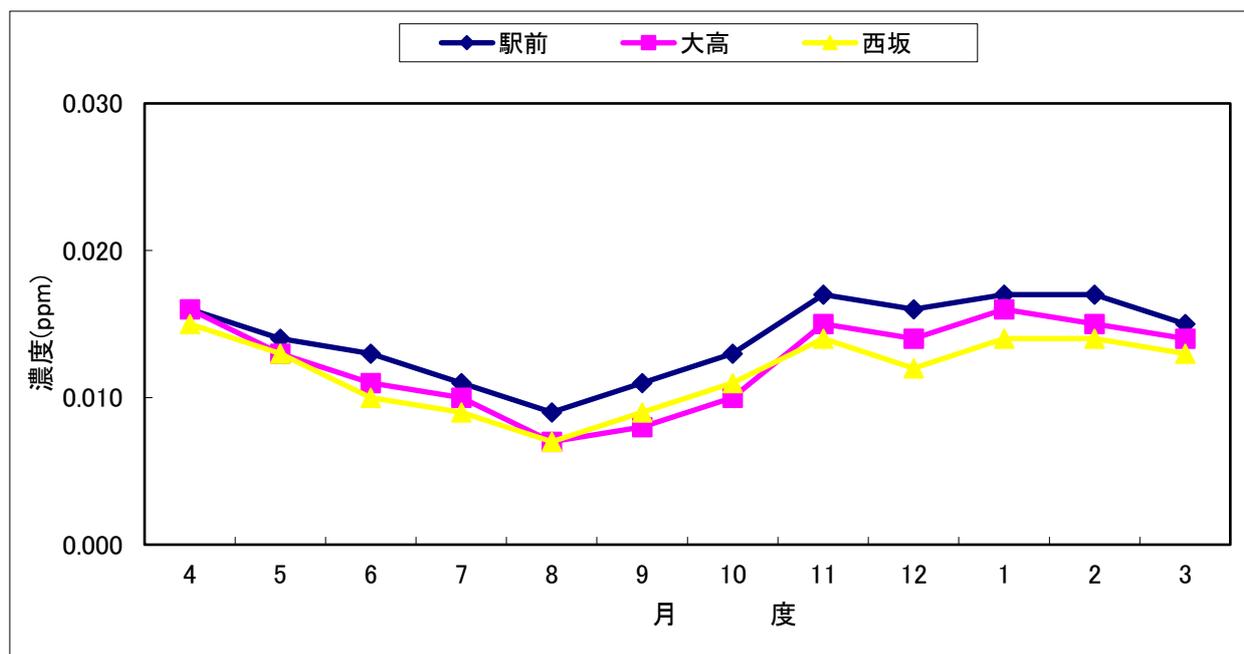
単位：μg/m<sup>3</sup>

測定局	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
大 高	21.2	17.7	15.8	17.4	11.0	8.9	11.7	18.3	11.9	13.2	17.1	15.4
全局平均	21.2	17.7	15.8	17.4	11.0	8.9	11.7	18.3	11.9	13.2	17.1	15.4
35μg/m <sup>3</sup> 超過日数	1	2	2	5	0	0	0	2	0	0	0	0

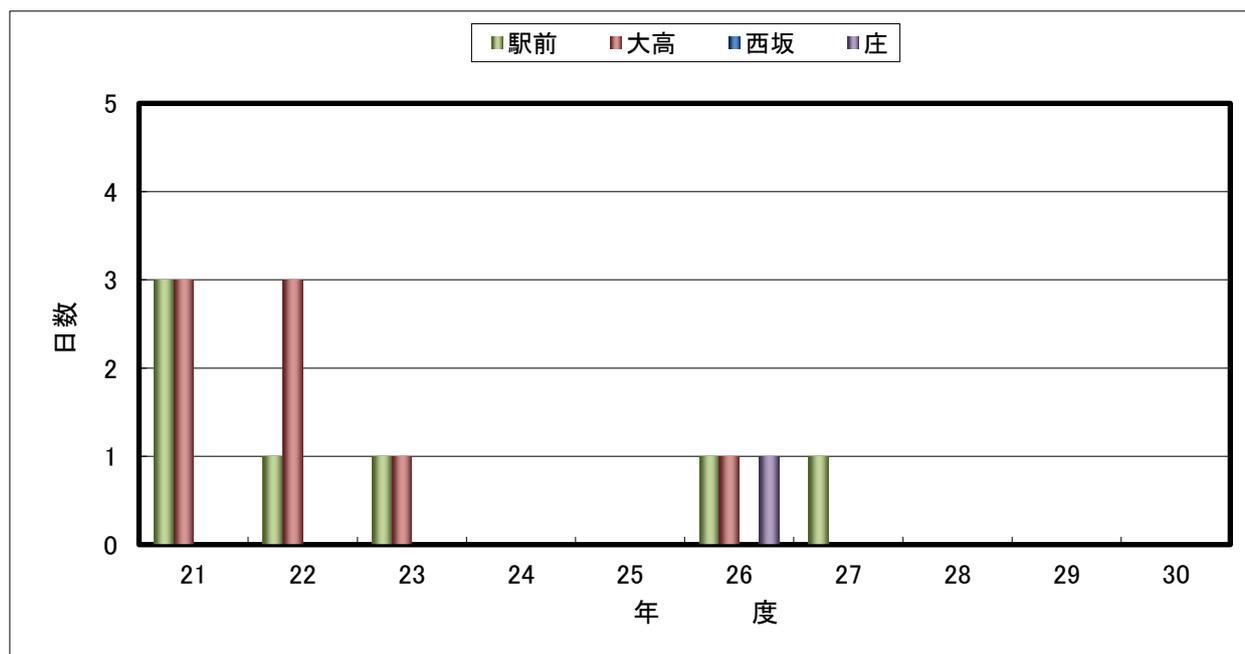
ウ 二酸化窒素濃度の経年変化（年平均値）



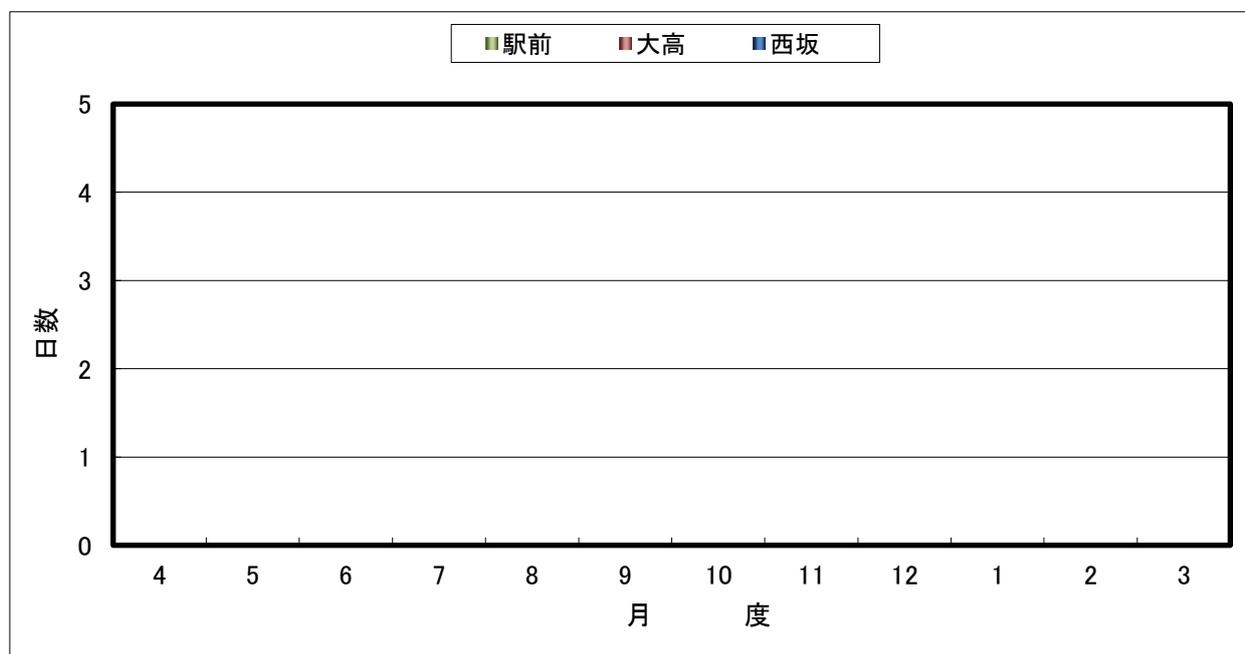
エ 二酸化窒素濃度の経月変化（月平均値）



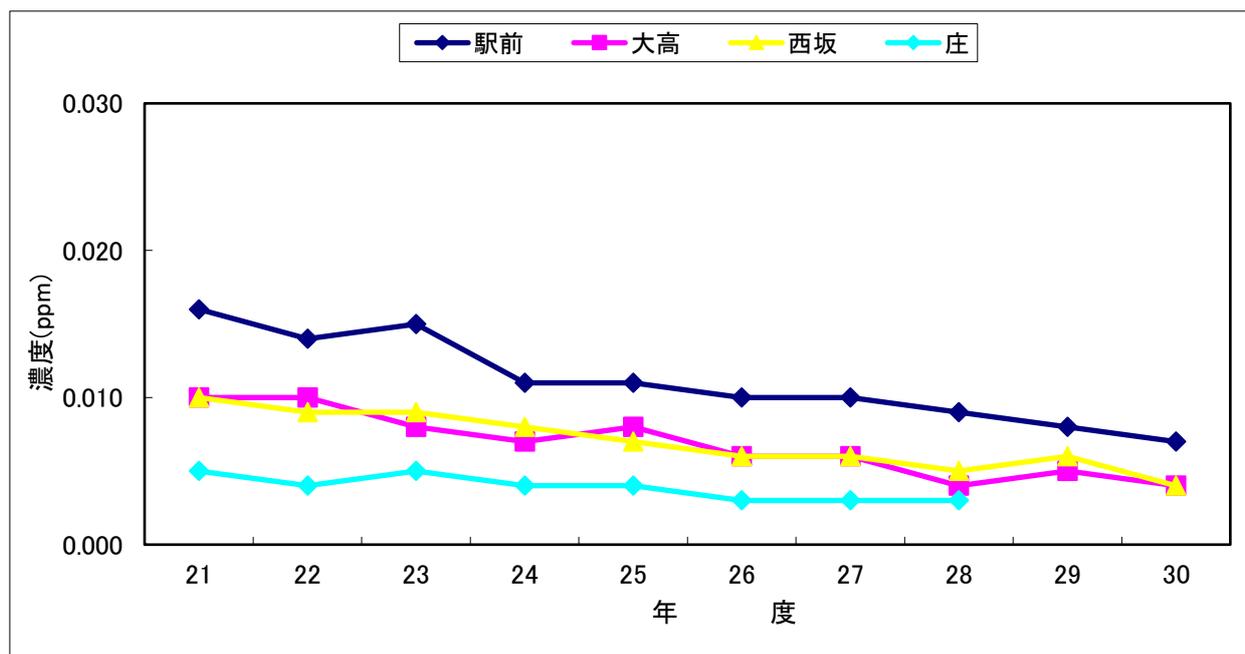
オ 二酸化窒素濃度の日平均値が0.04ppm以上となった日数の経年変化



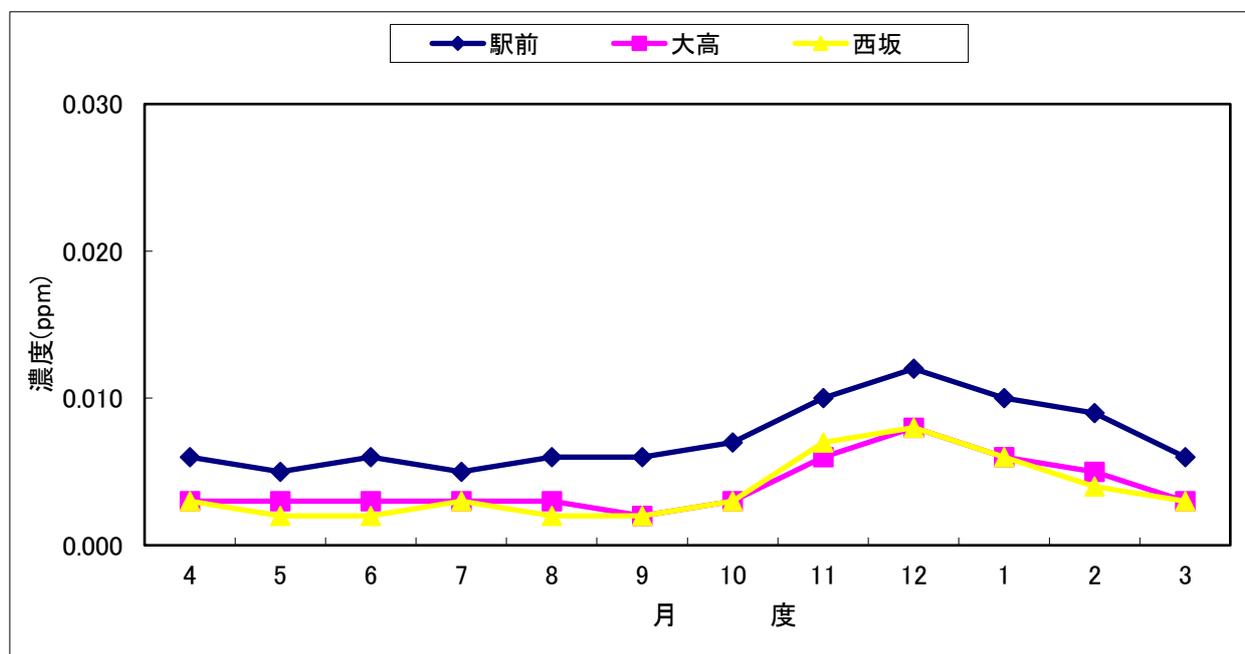
カ 二酸化窒素濃度の日平均値が0.04ppm以上となった日数の経月変化



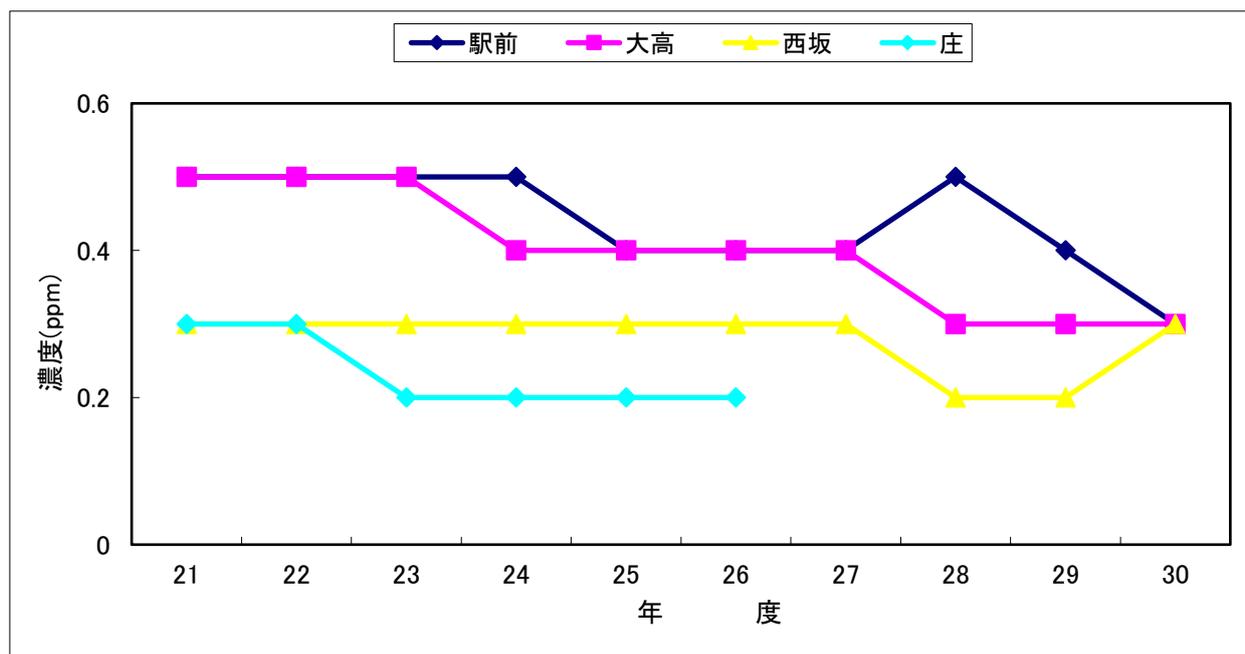
キ 一酸化窒素濃度の経年変化（年平均値）



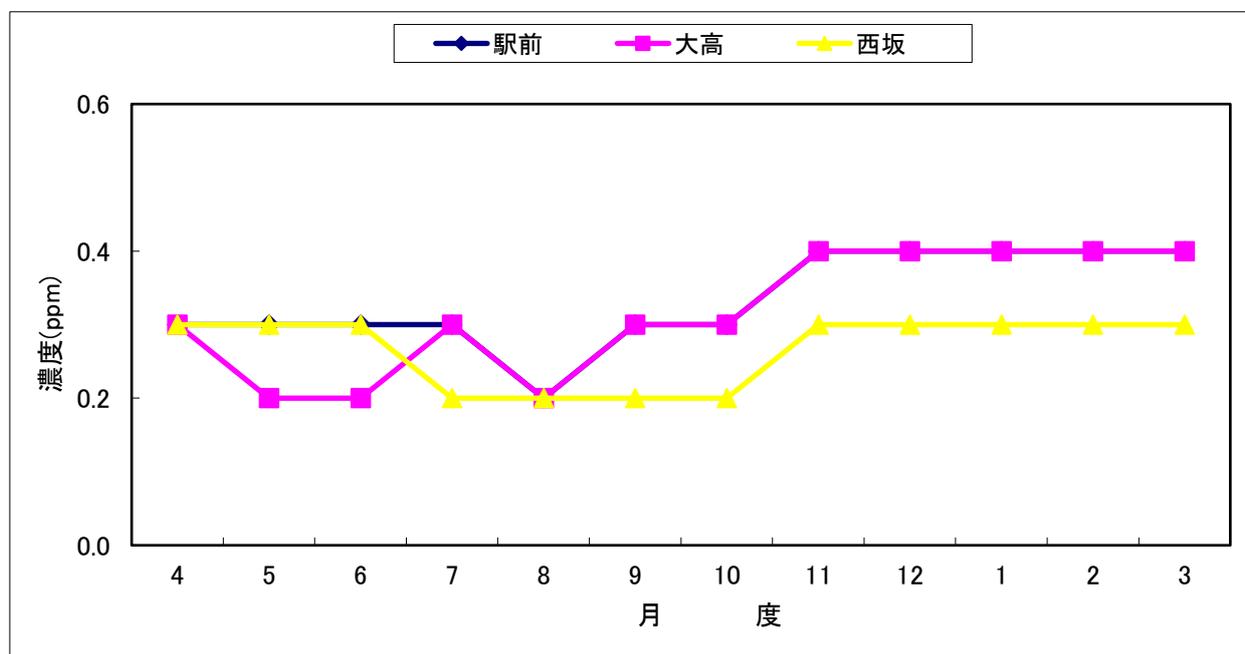
ク 一酸化窒素濃度の経月変化（月平均値）



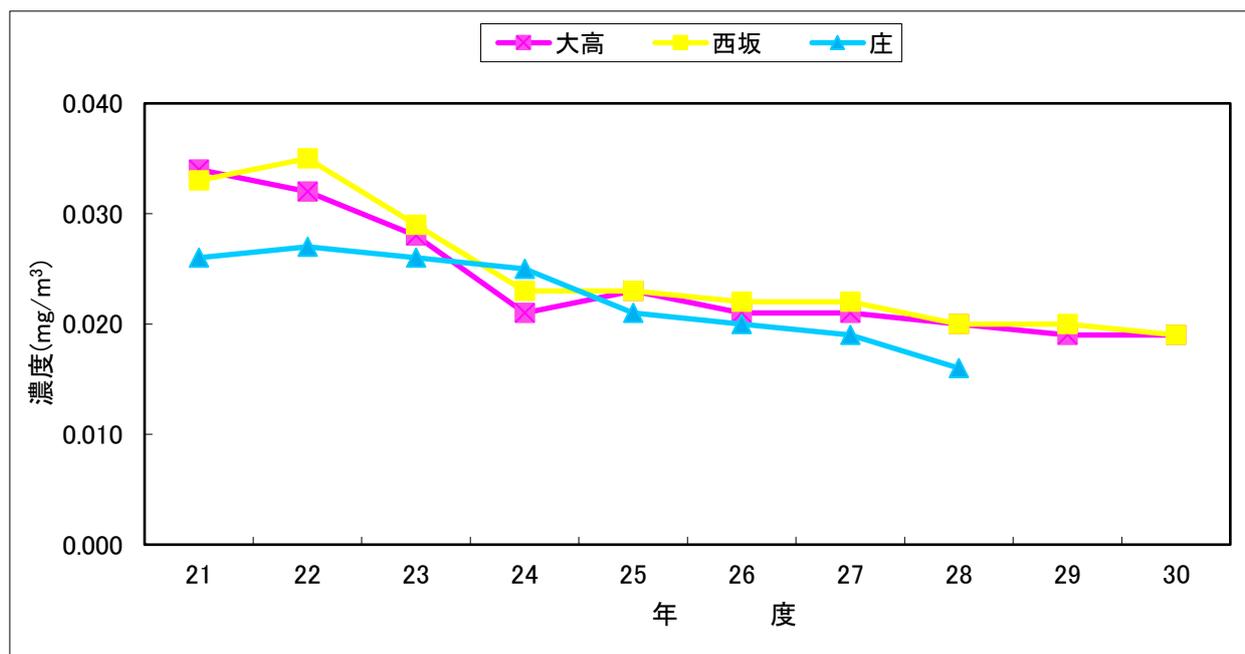
ケ 一酸化炭素濃度の経年変化



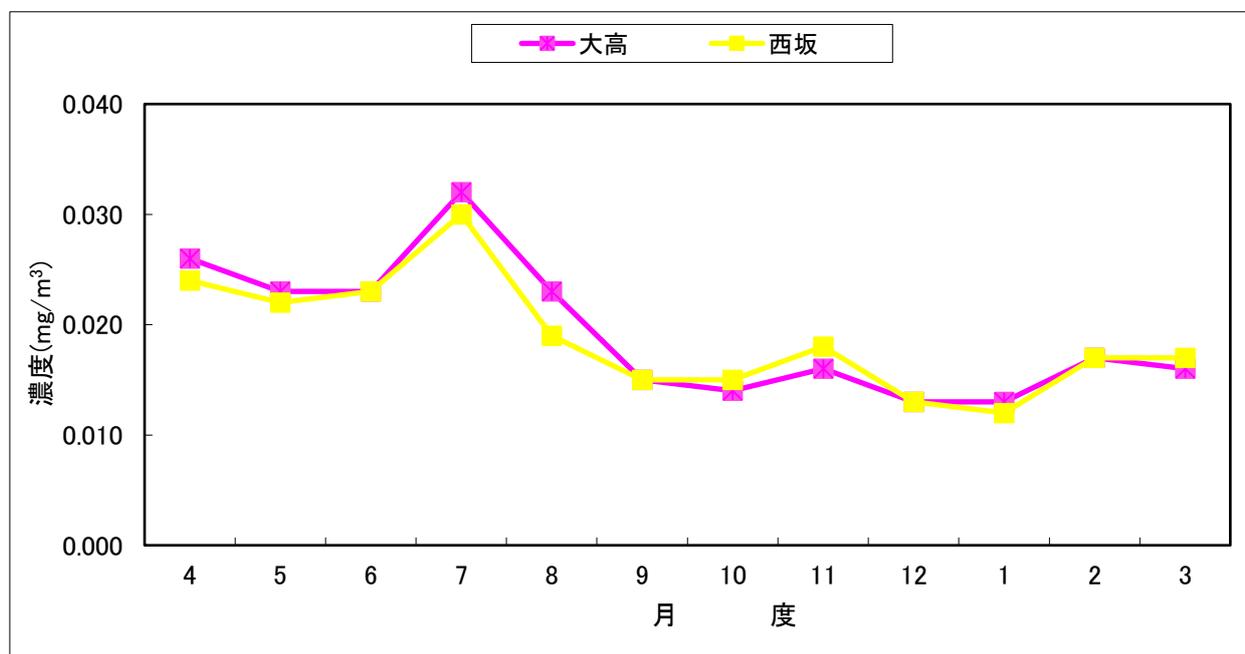
コ 一酸化炭素濃度の経月変化



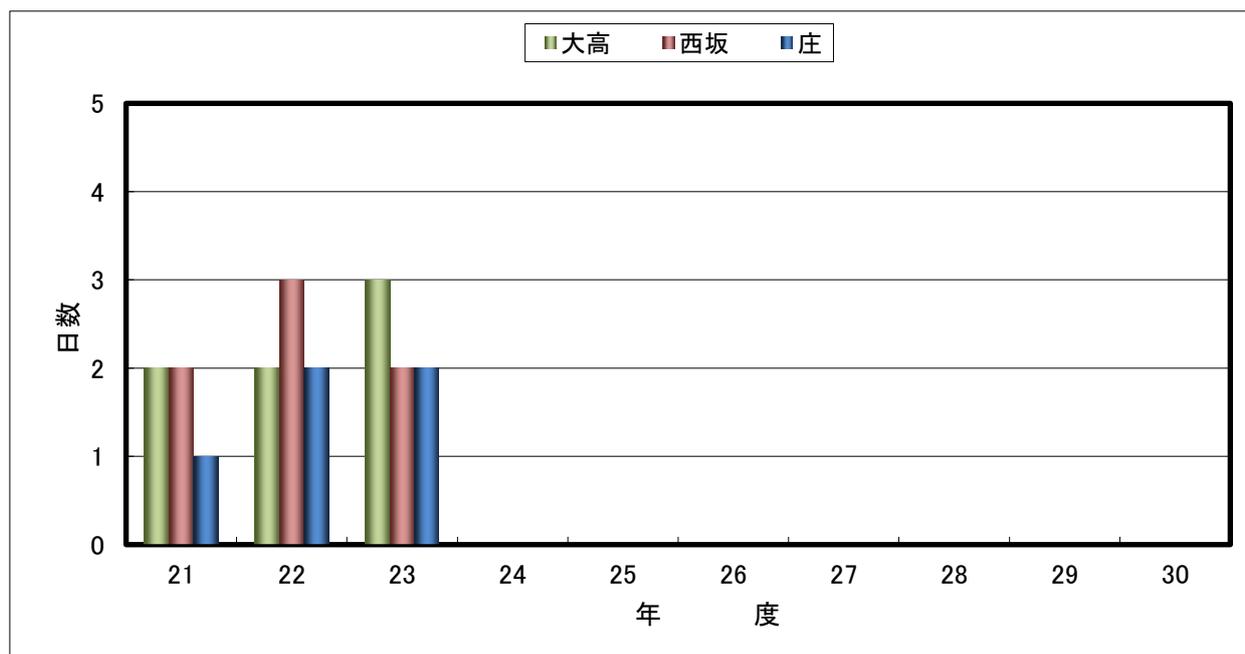
サ 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（年平均値）



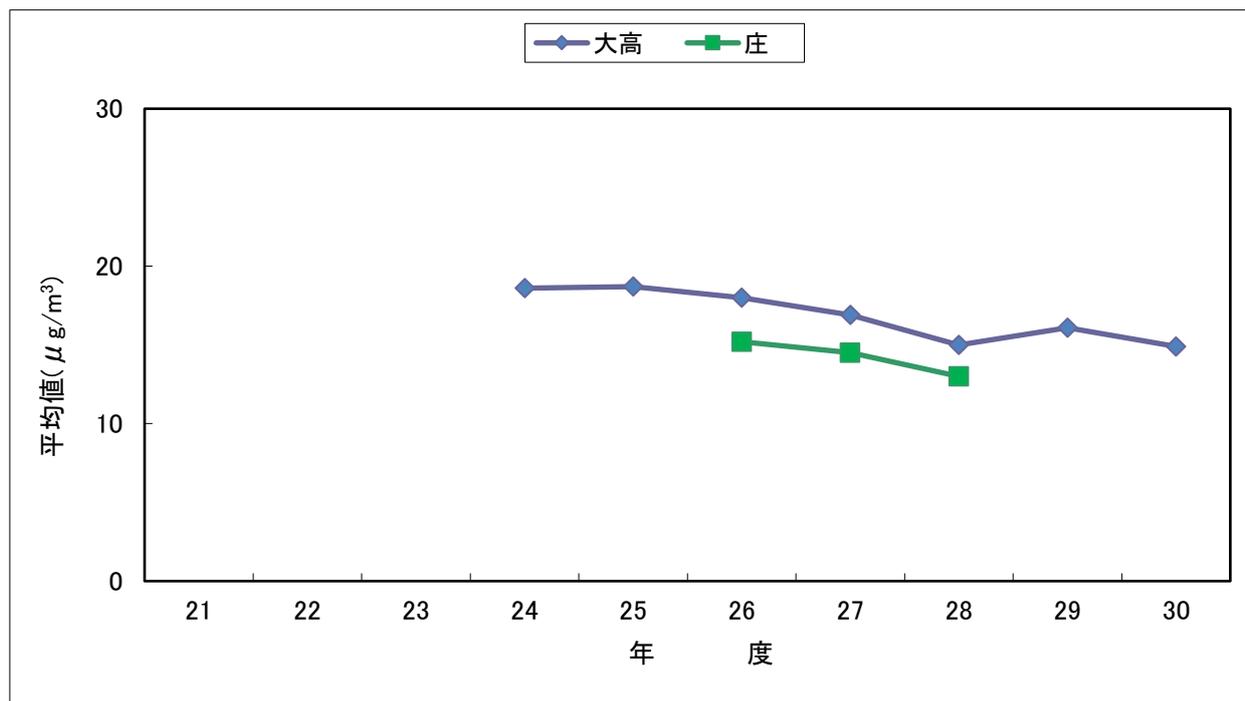
シ 浮遊粒子状物質濃度の経月変化（月平均値）



ス 浮遊粒子状物質濃度の日平均値が $0.1\text{mg}/\text{m}^3$ を超えた日数の経年変化



セ 微小粒子状物質濃度の経年変化（年平均値）



ソ 微小粒子状物質の経月変化（月平均値）

